

シラバス(授業計画)

SYLLABUS

令和5年度



関西看護医療大学

目 次

授業科目一覧	1
卒業要件	7
履修要件	9

【1 学年】

前 期

（一般教養科目）

セラピーと俳句	12
医療のための生物と化学	13
論理学入門	14
文章表現法	15
健康と運動の理論と実践	16
情報処理	17
英語Ⅰ	18
英語Ⅱ	19

（医学系科目）

人体構造機能学Ⅰ	20
----------------	----

（専門科目）

基礎看護学Ⅰ（概論）	21
基礎看護学Ⅱ-a（生活の援助技術）	22

（実習科目）

基礎看護学実習（コミュニケーション）	23
--------------------------	----

後 期

（一般教養科目）

統計学	24
心理学	25
人間と生き方（哲学）	26
社会と家族	27
芸術	28
人間関係論	29
人文教養特別講義Ⅰ（自然と文化①）	30
現代アメリカ事情	31
医療英語	32

（医学系科目）

人体構造機能学Ⅱ	33
生化学	34
病態治療学Ⅰ（総論）	35

（保健・福祉系科目）

食生活と看護	36
福祉教育の本質	37

（専門科目）

基礎看護学Ⅱ-b（生活の援助技術）	38
-------------------------	----

基礎看護学Ⅲ(診療の補助技術)	39
看護学原論	40
成人看護学Ⅰ(概論)	41

【2 学年】

前 期

(一般教養科目)

人文教養特別講義Ⅱ(自然と文化②).....	42
法と人権	43

(医学系科目)

病態治療学Ⅱ	44
病態治療学Ⅲ	45
生命と倫理	46
公衆衛生学	47
薬理学Ⅰ(総論)	48

(保健・福祉系科目)

病態心理学	49
社会保障と社会福祉	50
医療と経済	51

(専門科目)

基礎看護学Ⅳ(フィジカルアセスメントの技術)	52
基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	53
看護診断学Ⅰ	54
地域看護学Ⅰ(概論)	55
老年看護学Ⅰ(概論)	56
小児看護学Ⅰ(概論)	57
母性看護学Ⅰ(概論)	58
母性看護学Ⅱ-a(援助論)	59
精神看護学Ⅰ(概論)	60

(実習科目)

看護過程論実習Ⅰ	61
----------------	----

後 期

(医学系科目)

薬理学Ⅱ(臨床薬理)	62
感染と免疫	63

(保健・福祉系科目)

医療と人権	64
カウンセリング論	65

(専門科目)

保健医療福祉行政論Ⅰ	66
------------------	----

在宅看護論Ⅰ(概論)	67
地域看護学Ⅱ(援助論)	68
成人看護学Ⅱ-a(急性期援助論)	69
成人看護学Ⅱ-b(急性期援助論)	70
成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)	71
老年看護学Ⅱ(援助論)	72
小児看護学Ⅱ(援助論)	73
母性看護学Ⅱ-b(援助論)	74
精神看護学Ⅱ(援助論)	75

(実習科目)

看護過程論実習Ⅱ	76
----------------	----

【3 学年】

前 期

(一般教養科目)

英語Ⅴ	77
-----------	----

(医学系科目)

疫学	78
----------	----

(保健・福祉系科目)

在宅看護論Ⅱ(援助論)	79
-------------------	----

(専門科目)

公衆衛生看護活動論Ⅱ(対象別公衆衛生看護活動展開論①)	80
成人看護学Ⅳ(援助方法論)	81
老年看護学Ⅲ(援助方法論)	82
小児看護学Ⅲ(援助方法論)	83
母性看護学Ⅲ(援助方法論)	84
精神看護学Ⅲ(援助方法論)	85

(発展科目)

看護診断学Ⅱ	86
リスクマネジメント	87
国際看護学・災害看護学	88

後 期

(専門科目)

公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動展開論②)	89
地域看護診断論	90

(実習科目)

在宅看護学実習	91
成人看護学実習Ⅰ	92
成人看護学実習Ⅱ	93
老年看護学実習Ⅱ	94
小児看護学実習	95
母性看護学実習	96
精神看護学実習	97

【4 学年】

前 期

（一般教養科目）

英語Ⅵ	98
-----	----

（実習科目）

公衆衛生活動論Ⅲ★（対象別公衆衛生看護活動展開論②）	99
地域看護診断論	100
公衆衛生看護管理論	101
公衆衛生看護技術論	102
在宅看護学実習	103
公衆衛生看護学実習Ⅰ（個人・家族・集団・組織の支援実習）	104
公衆衛生看護学実習Ⅱ（公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生管理論実習）	105
成人看護学実習Ⅰ	106
成人看護学実習Ⅱ	107
老年看護学実習Ⅱ	108
小児看護学実習	109
母性看護学実習	110
精神看護学実習	111
課題実習	112

通 年

（発展科目）

卒業研究	113
------	-----

後 期

（発展科目）

看護管理論	114
保健医療福祉行政論Ⅱ	115
看護倫理	116

関西看護医療大学カリキュラム

区分		授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当									計
								1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期		
基礎 分野	一般 教養 科目	情報処理	2	30	◎		必修 6 単位 + 選択 6 単位	2									2
		心理学	1	30	◎			1								1	
		生物学	1	30		○			1								1
		化学	1	30		○			1								1
		思考と表現	1	30		○			1								1
		健康と運動の理論と実践	2	30		○			2								2
		統計学	1	30	◎					1							1
		人間と生き方（哲学）	1	30	◎					1							1
		社会と家族	1	30	◎					1							1
		芸術	1	30		○					1						1
		教育の本質	1	30		○					1						1
		言語情報リテラシー	1	30		○						1					1
		人間関係論	1	30		○						1					1
		人文教養特別講義Ⅰ(自然と文化①)	1	15		○						1					1
		人文教養特別講義Ⅱ(自然と文化②)	1	15		○						1					1
		法と人権	2	30		○						1				2	
		英語Ⅰ	1	30	◎		必修 2 単位 + 選択 2 単位	1								1	
		英語Ⅱ	1	30	◎				1							1	
		英語Ⅲ	1	30		○				1						1	
		英語Ⅳ	1	30		○					1					1	
	英語Ⅴ	1	30		○						1				1		
	英語Ⅵ	1	30		○								1		1		
	中国語Ⅰ	1	30		○	選択 2 単位	1						1		1		
	中国語Ⅱ	1	30		○				1						1		
	韓国語Ⅰ	1	30		○			1							1		
	韓国語Ⅱ	1	30		○				1						1		
	計							18	11	8	4	4	1	0	1	0	29
専門 基礎 分野	医学 系科 目	人体構造機能学Ⅰ	2	60	◎		(看) 必修 21 単位 + 選択 5 単位	2									2
		人体構造機能学Ⅱ	1	45	◎				1								1
		生化学	2	30	◎				2								2
		病態治療学Ⅰ（総論）	1	30	◎				1								1
		病態治療学Ⅱ	2	60	◎					2							2
		病態治療学Ⅲ	1	30	◎					1							1
		生命と倫理	2	30	◎					2							2
		公衆衛生学	1	15	◎						1						1
		薬理学Ⅰ（総論）	1	30	◎						1						1
		薬理学Ⅱ（臨床薬理）	1	30	◎							1					1
		感染と免疫	1	30	◎							1					1
		疫学	☆	2	30			○					2				2
	保健 系科 目	食生活と看護	2	30	◎		(保) 必修 25 単位 + 選択 2 単位		2								2
		病態心理学	2	30	◎					2							2
		医療と経済	1	30		○					1						1
		医療と人権	1	30		○						1					1
		カウンセリング論	1	30		○							1				1
福祉 系科 目	生涯教育論	1	30		○		1									1	
	社会保障と福祉	2	30	◎					2							2	
	保健医療福祉行政論	☆	2	30		○					2					2	
計							(看) 26 (保) 27	3	6	12	5	3	0	0	0	29	

(留意事項)

①保健師国家試験受験資格を得るためには、以下の選択科目(7科目)をすべて修得する必要があります。

(カリキュラム表中の授業科目に☆及び★印の入っている科目)

【疫学】【保健福祉行政論(演習)】【公衆衛生看護学Ⅰ(公衆衛生看護活動展開論)】【公衆衛生看護学Ⅱ(公衆衛生看護活動管理論)】
【公衆衛生看護学特論】【公衆衛生看護学実習Ⅰ(個人・家族・集団・組織の支援実習)】【公衆衛生看護学実習Ⅱ(公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論実習)】

②また、☆印は看護師課程履修者でも選択することができる科目を表し、★印は保健師課程履修者のみ選択することができる科目を表す。

関西看護医療大学カリキュラム

区分		授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当									計
								1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期		
専門分野	専 門 科 目	基礎看護学Ⅰ(概論)	2	30	◎		(看) 必修77単位 +選択4単位	2									2
		基礎看護学Ⅱ(コミュニケーション)	1	15	◎			1									1
		基礎看護学Ⅲ-a(生活の援助技術)	1	30	◎			1								1	
		基礎看護学Ⅲ-b(生活の援助技術)	2	60	◎				2							2	
		基礎看護学Ⅲ-c(生活の援助技術)	1	30	◎					1						1	
		基礎看護学Ⅳ(フィジカルアセスメント)	1	45	◎						1					1	
		基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	2	30	◎						2					2	
		看護学原論	1	30	◎				1							1	
		看護診断学Ⅰ	1	30	◎					1						1	
		地域看護学Ⅰ(概論)	2	30	◎					2						2	
		地域看護学Ⅱ(地域保健活動論)	2	30	◎					2						2	
		地域看護学Ⅲ(個人・家族・集団・組織の支援)	2	30	◎						2					2	
		在宅看護論Ⅰ(概論)	1	15	◎						1					1	
		在宅看護論Ⅱ(援助論)	2	30	◎							2				2	
		公衆衛生看護学Ⅰ(公衆衛生看護活動展開論)	★	4	60			○				4					4
		公衆衛生看護学Ⅱ(公衆衛生看護管理論)	★	3	45			○					3				3
		公衆衛生看護学特論	★	1	15			○							1		1
		成人看護学Ⅰ(概論)	2	30	◎					2							2
		成人看護学Ⅱ-a(急性期援助論)	2	30	◎							2					2
		成人看護学Ⅱ-b(急性期援助論)	1	30	◎							1					1
		成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)	2	30	◎							2					2
		成人看護学Ⅳ-a(援助方法論)	1	30	◎								1				1
		成人看護学Ⅳ-b(援助方法論)	1	45	◎								1				1
		老年看護学Ⅰ(概論)	1	15	◎						1						1
		老年看護学Ⅱ(援助論)	2	30	◎							2					2
		老年看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	◎								1				1
		小児看護学Ⅰ(概論)	1	15	◎						1						1
		小児看護学Ⅱ(援助論)	2	30	◎							2					2
		小児看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	◎								1				1
		母性看護学Ⅰ(概論)	1	15	◎						1						1
		母性看護学Ⅱ-a(援助論)	1	15	◎							1					1
		母性看護学Ⅱ-b(援助論)	1	15	◎							1					1
	母性看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	◎							1				1		
	精神看護学Ⅰ(概論)	1	15	◎					1						1		
	精神看護学Ⅱ(援助論)	2	30	◎						2					2		
	精神看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	◎							1				1		
	実 習 科 目	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	◎			1								1	
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	◎				2							2	
		在宅看護学実習	2	90	◎							2			2		
		公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の支援実習)	★	2	90		○					2			2		
		公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)	★	3	135		○					3			3		
		成人看護学実習Ⅰ	3	135	◎						3				3		
		成人看護学実習Ⅱ	3	135	◎							3			3		
		老年看護学実習	4	180	◎							4			4		
小児看護学実習		2	90	◎							2			2			
母性看護学実習		2	90	◎							2			2			
精神看護学実習		2	90	◎							2			2			
課題実習		2	90	◎								2		2			
発 展 科 目	看護診断学Ⅱ	1	30	◎						1				1			
	リスクマネジメント	1	30	◎						1				1			
	地域保健福祉ネットワーク論	2	30		○					2				2			
	健康と科学	2	30		○					2				2			
	国際・災害看護	2	30		○					2				2			
	看護研究の方法	2	30	◎							2			2			
	卒業研究	4	60	◎								4		4			
		看護管理論	2	30		○						2		2			
計							(看) (保)	81 90	5	7	10	26	19	0	24	7	98
合 計							(看) (保)	125 135	19	21	26	35	23	0	25	7	156

関西看護医療大学カリキュラム

区分		授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当									
								1 年 前期	1 年 後期	2 年 前期	2 年 後期	3 年 前期	3 年 後期	4 年 前期	4 年 後期	計	
基礎 分野	一般 教養 科目	情報処理	2	30	○		必修 13 単位 + 選択 6 単位	2									2
		医療のための生物と化学	2	30	○			2								2	
		セラピーと俳句	1	15	○			1								1	
		人文教養特別講義Ⅰ（自然と文化①）※	1	15		○		1								1	
		思考と表現	2	30		○		2								2	
		健康と運動の理論と実践	2	30		○		2								2	
		統計学	2	30	○				2							2	
		心理学	2	30	○				2							2	
		人間と生き方（哲学）	2	30	○				2							2	
		社会と家族	2	30	○				2							2	
		芸術	2	30		○			2							2	
		人間関係論	2	30		○				2						2	
		人文教養特別講義Ⅱ（自然と文化②）	1	15		○				1						1	
		法と人権	2	30		○	必修 2 単位 + 選択 2 単位				2					2	
		英語Ⅰ	1	30	○			1								1	
		英語Ⅱ	1	30	○				1							1	
		英語Ⅲ	1	30		○				1						1	
		英語Ⅳ	1	30		○					1					1	
		英語Ⅴ	1	30		○						1				1	
		英語Ⅵ	1	30		○							1			1	
		中国語Ⅰ	1	30		○		選択 2 単位	1								1
		中国語Ⅱ	1	30		○				1							1
		韓国語Ⅰ	1	30		○			1								1
		韓国語Ⅱ	1	30		○				1							1
				計						25	13	13	4	3	1	0	1
専門 基礎 分野	医学 系 科目	人体構造機能学Ⅰ	2	60	○		(看) 必修 28 単位 + 選択 4 単位	2								2	
		人体構造機能学Ⅱ	2	60	○				2							2	
		生化学	2	30	○				2							2	
		病態治療学Ⅰ（総論）	2	30	○				2							2	
		病態治療学Ⅱ	2	60	○					2						2	
		病態治療学Ⅲ	2	30	○					2						2	
		生命と倫理	2	30	○					2						2	
		公衆衛生学	1	15	○					1						1	
		薬理学Ⅰ（総論）	2	30	○					2						2	
		薬理学Ⅱ（臨床薬理）	2	30	○						2					2	
		感染と免疫	2	30	○						2					2	
		疫学 ☆	2	30		○						2				2	
	保健・福祉 系科目	食生活と看護	2	30	○		(保) 必修 31 単位 + 選択 2 単位		2							2	
		福祉教育の本質	2	30		○			2							2	
		病態心理学	2	30	○					2						2	
		社会保障と福祉	2	30	○					2						2	
		医療と経済	2	30		○				2						2	
		保健医療福祉行政論Ⅰ	1	15	○						1					1	
		医療と人権	2	30		○					2					2	
		カウンセリング論	2	30		○					2					2	
		保健医療福祉行政論Ⅱ ☆	1	15		○							1		1		
		計					(看) 32 (保) 33	2	10	15	9	2	0	0	1	39	

(留意事項)

①保健師国家試験受験資格を得るためには、以下の選択科目(9科目)をすべて履修することが必要です。

(カリキュラム表中の授業科目に☆及び★印の入っている科目)

【疫学】【保健医療福祉行政論Ⅱ】【公衆衛生看護活動論Ⅱ(対象別公衆衛生看護活動展開論①)】【公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動展開論②)】

【地域看護診断論】【公衆衛生看護技術論】【公衆衛生看護管理論】【公衆衛生看護学実習Ⅰ(個人・家族・集団・組織の支援実習)】

【公衆衛生看護学実習Ⅱ(公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)】

②また、☆印は看護師課程履修でも選択することができる科目を表し、★印は保健師課程履修者のみ選択することができます。

③※【人文教養特別講義Ⅰ(自然と文化①)】は選択必修科目です。

④基礎分野の選択科目については、1セメスターの履修登録上限を選択必修科目及び外国語科目を除いて2単位までとする。

関西看護医療大学カリキュラム

区分		授 業 科 目	単位	時間	必修	選択	卒業要件	年 次 配 当									
								1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	計	
専 門 分 野	専 門 科 目	基礎看護学Ⅰ(概論)	2	30	○		(看) 必修72単位 +選択1単位	2									2
		基礎看護学Ⅱ(フィジカルアセスメントの技術)	1	45	○				1								1
		基礎看護学Ⅲ-a(生活の援助技術)	1	30	○			1								1	
		基礎看護学Ⅲ-b(生活の援助技術)	2	60	○				2							2	
		基礎看護学Ⅳ(診療の補助技術)	1	30	○					1						1	
		基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	2	30	○						2					2	
		看護学原論	1	30	○				1							1	
		看護診断学Ⅰ	1	30	○					1						1	
		在宅看護論Ⅰ(概論)	2	30	○						2					2	
		在宅看護論Ⅱ(援助論)	2	30	○							2				2	
		公衆衛生看護学概論	2	30	○					2						2	
		公衆衛生看護活動論Ⅰ(対象別公衆衛生看護活動論)	1	15	○						1					1	
		公衆衛生看護活動論Ⅱ(対象別公衆衛生看護活動展開論①)★	4	60		○						4				4	
		公衆衛生看護活動論Ⅲ(対象別公衆衛生看護活動展開論②)★	2	30		○							2			2	
		地域看護診断論	★	2	30			○						2			2
		公衆衛生看護技術論	★	2	30			○							2		2
		公衆衛生看護管理論	★	1	15			○								1	1
		成人看護学Ⅰ(概論)	1	15	○					1							1
		成人看護学Ⅱ-a(急性期援助論)	2	30	○							2					2
		成人看護学Ⅱ-b(急性期援助論)	1	15	○							1					1
		成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)	2	30	○							2					2
		成人看護学Ⅳ(援助方法論)	1	45	○								2				2
		老年看護学Ⅰ(概論)	1	15	○						1						1
		老年看護学Ⅱ(援助論)	2	30	○							2					2
		老年看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○								1				1
		小児看護学Ⅰ(概論)	1	15	○						1						1
		小児看護学Ⅱ(援助論)	2	30	○							2					2
		小児看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○								1				1
		母性看護学Ⅰ(概論)	1	15	○							1					1
		母性看護学Ⅱ-a(援助論)	1	15	○							1					1
		母性看護学Ⅱ-b(援助論)	1	15	○								1				1
		母性看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○									1			1
	精神看護学Ⅰ(概論)	1	15	○					1						1		
	精神看護学Ⅱ(援助論)	2	30	○						2					2		
	精神看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30	○							1				1		
	実 習 科 目	基礎看護学実習	3	135	○		(保) 必修88単位			3							3
		看護過程論実習	3	135	○						3					3	
		在宅看護学実習	2	90	○										2		2
		公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の支援実習)★	★	2	90			○							2		2
		公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)★	★	3	135			○							3		3
		成人看護学実習Ⅰ	2	90	○								2				2
		成人看護学実習Ⅱ	2	90	○								2				2
		老年看護学実習Ⅰ	1	45	○			1					1				1
		老年看護学実習Ⅱ	2	90	○								2				2
		小児看護学実習	2	90	○								2				2
		母性看護学実習	2	90	○								2				2
精神看護学実習		2	90	○								2				2	
課題実習		2	90	○									2			2	
発 展 科 目		看護診断学Ⅱ	1	30	○							1					1
	リスクマネジメント	1	30	○						1					1		
	国際看護学・災害看護学	2	30	○						2					2		
	卒業研究	4	60	○								4			4		
	看護管理論	1	15		○								1		1		
	看護倫理	1	15		○									1	1		
計							(看) (保)	73 88	4	5	12	20	15	0	27	7	90
合 計							(看) (保)	130 146	19	28	31	32	18	0	28	8	164

区分		科目名	単位	時間	保健師 課程	卒業要件	年次配当							
							1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後
基礎分野	一般教養科目	セラピーと俳句	1	15		【看護師課程】 必修7単位＋ 選択15単位以上 【保健師課程】 必修7単位＋ 選択15単位以上	◎							
		医療のための生物と化学	2	30			◎							
		論理学入門	2	30			○							
		文章表現法	1	15			○							
		健康と運動の理論と実践	2	30	☆		○				○			
		情報処理	2	30	☆		○				○			
		統計学	2	30				◎						
		心理学	2	30				○						
		人間と生き方(哲学)	2	30				○						
		社会と家族	2	30				○						
		芸術	2	30				○						
		人間関係論	2	30				○						
		人文教養特別講義Ⅰ(自然と文化①)	1	15				◎						
		現代アメリカ事情	2	30				○						
		人文教養特別講義Ⅱ(自然と文化②)	1	15					○					
		法と人権	2	30	☆				○		○			
		医療英語	1	15				◎						
		英語Ⅰ	1	15			○							
		英語Ⅱ	1	15			○							
		英語Ⅲ(コミュニケーション)	2	30	☆						○			
専門基礎分野	医学系科目	人体構造機能学Ⅰ	2	60		【看護師課程】 必修27単位＋ 選択4単位以上 【保健師課程】 必修31単位＋ 選択2単位以上	◎							
		人体構造機能学Ⅱ	2	60				◎						
		生化学	2	30				◎						
		病態治療学Ⅰ(総論)	2	30				◎						
		病態治療学Ⅱ	2	60					◎					
		病態治療学Ⅲ	2	30					◎					
		生命と倫理	2	30					◎					
		公衆衛生学	1	15					◎					
		薬理学Ⅰ(総論)	2	30					◎					
		薬理学Ⅱ(臨床薬理)	2	30						◎				
		感染と免疫	2	30						◎				
		疫学	2	30	必						○			
	保健・福祉系科目	食生活と看護	2	30				◎						
		福祉教育の本質	2	30				○						
		病態心理学	2	30					◎					
		社会保障と社会福祉	1	15					◎					
		医療と経済	2	30					○					
		医療と人権	2	30						○				
		カウンセリング論	2	30						○				
		保健医療福祉行政論Ⅰ	1	15	必					◎				
		保健医療福祉行政論Ⅱ	2	30	必									保

(留意事項)

- ①カリキュラム表中の「◎」は必修科目を、「○」は選択科目を表しています。
- ②保健師国家試験の受験資格を得るためにはカリキュラム表中の「保健師課程」欄の必修科目(13科目)をすべて履修する必要があります。
※このうち、3科目(保健医療福祉行政論Ⅰ、地域看護学Ⅰ、地域看護学Ⅱ)については、看護師課程の必修科目と重複しており、看護師課程の履修によって保健師課程の条件も満たすことができます。
- ③カリキュラム表中の「保」は保健師課程履修者のみ履修することができる科目です。
- ④カリキュラム表中の「☆」は保健師課程修了時に養護教諭2種免許を修得できる科目です。(全4科目の8単位全て修得が必要)

区分		科目名	単位	時間	保健師 課程	卒業要件	年次配当								
							1前	1後	2前	2後	3前	3後	4前	4後	
専門分野	専門科目	基礎看護学Ⅰ(概論)	2	30		【看護師課程】 必修71単位 +選択1単位以上 【保健師課程】 必修90単位	◎								
		基礎看護学Ⅱ-a(生活の援助技術)	1	30			◎								
		基礎看護学Ⅱ-b(生活の援助技術)	2	60				◎							
		基礎看護学Ⅲ(診療の補助技術)	1	30				◎							
		基礎看護学Ⅳ(フィジカルアセスメントの技術)	1	45					◎						
		基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	2	30					◎						
		看護学原論	1	30				◎							
		看護診断学Ⅰ	1	30					◎						
		在宅看護論Ⅰ(概論)	2	30						◎					
		在宅看護論Ⅱ(援助論)	2	30							◎				
		地域看護学Ⅰ(概論)	1	15	必					◎					
		地域看護学Ⅱ(援助論)	1	15	必						◎				
		公衆衛生看護学概論	1	15	必							保			
		公衆衛生看護学活動Ⅰ(対象別公衆衛生看護学活動①)	3	45	必							保			
		公衆衛生看護学活動Ⅱ(対象別公衆衛生看護学活動②)	4	60	必								保		
		地域看護診断論	2	30	必								保		
		公衆衛生看護技術論	2	30	必									保	
		公衆衛生看護管理論	2	30	必									保	
		成人看護学Ⅰ(概論)	1	15					◎						
		成人看護学Ⅱ-a(急性期援助論)	2	30							◎				
		成人看護学Ⅱ-b(急性期援助論)	1	15							◎				
		成人看護学Ⅲ(慢性期援助論)	2	30							◎				
		成人看護学Ⅳ(援助方法論)	1	45								◎			
		老年看護学Ⅰ(概論)	1	15							◎				
		老年看護学Ⅱ(援助論)	2	30								◎			
		老年看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30								◎			
		小児看護学Ⅰ(概論)	1	15							◎				
		小児看護学Ⅱ(援助論)	2	30								◎			
		小児看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30									◎		
		母性看護学Ⅰ(概論)	1	15							◎				
		母性看護学Ⅱ-a(援助論)	1	15							◎				
		母性看護学Ⅱ-b(援助論)	1	15								◎			
		母性看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30									◎		
		精神看護学Ⅰ(概論)	1	15							◎				
		精神看護学Ⅱ(援助論)	2	30								◎			
		精神看護学Ⅲ(援助方法論)	1	30									◎		
	実習科目	基礎看護学実習(コミュニケーション)	3	135				◎							
		看護過程論実習Ⅰ	2	90						◎					
		看護過程論実習Ⅱ	3	135							◎				
		看護過程論実習Ⅲ	1	45									◎		
		地域・在宅看護学実習	2	90										◎	
		公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の生活支援実習)	2	90											保
		公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護学活動展開論実習及び公衆衛生看護管理論実習)	3	135	必										保
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	90	必								◎		
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	90										◎	
小児看護学実習		2	90									◎			
母性看護学実習		2	90									◎			
精神看護学実習		2	90									◎			
課題実習		2	90										◎		
発展科目		看護診断学Ⅱ	1	30							◎				
	リスクマネジメント	1	30							◎					
	国際看護学・災害看護学	2	30							◎					
	看護倫理	1	15										○		
	看護管理論	1	15										○		
	卒業研究	4	60										◎		
			セメスター別配当単位数計			20	31	29	27	25	21	34	13		
			合計		(看)125 (保)145										

卒業要件

本学を卒業するには、本学に4年以上在学し、基礎分野・専門基礎分野・専門分野ごとに定められた、卒業に必要な単位は下記の通りです。

◎ H27～H31年度生は、125 単位以上（看護師）、135 単位以上（保健師）の修得が必要となります。

◎ R2～3 年度生は 130 単位以上（看護師）、146 単位以上（保健師）の修得が必要となります。

◎ R4～5 年度生は 125 単位以上（看護師）、145 単位以上（保健師）の修得が必要となります。

【卒業要件単位数】

〔H27～H31年度生〕

区 分	必修	選択	計
基 礎 分 野	一般教養科目 (看)(保) 8	(看)(保)10	(看)(保)18
専門基礎分野	医 学 系 科 目 (看) 15 (保) 17	(看) 5 (保) 2	(看) 26 (保) 27
	保 健 系 科 目 (看)(保) 4		
	福 祉 系 科 目 (看) 2 (保) 4		
専 門 分 野	専 門 科 目 (看) 46 (保) 54	(看) 4	(看) 85 (保) 94
	実 習 科 目 (看) 23 (保) 28		
	発 展 科 目 (看)(保) 8		
計	(看) 106 (保) 123	(看) 19 (保) 12	(看) 125 (保) 135

〔R2～R3年度生〕

区 分	必修	選択	計
基 礎 分 野	一般教養科目 (看)(保)15	(看)(保)10	(看)(保)25
専門基礎分野	医 学 系 科 目 (看) 21 (保) 23	(看) 4 (保) 2	(看) 32 (保) 33
	保健・福祉系科目 (看) 7 (保) 8		
専 門 分 野	専 門 科 目 (看) 41 (保) 52	(看) 1	(看) 73 (保) 88
	実 習 科 目 (看) 23 (保) 28		
	発 展 科 目 (看)(保) 8		
計	(看) 115 (保) 134	(看) 15 (保) 12	(看) 130 (保) 146

〔R4～5年度生〕

区 分	必修	選択	計
基 礎 分 野	一般教養科目 (看)(保) 7	(看)(保)15	(看)(保)22
専門基礎分野	医 学 系 科 目 (看) 27 (保) 31	(看) 4 (保) 2	(看) 31 (保) 33
	保健・福祉系科目		
専 門 分 野	専 門 科 目 (看) 71 (保) 90	(看) 1	(看) 72 (保) 90
	実 習 科 目		
	発 展 科 目		
計	(看) 105 (保) 128	(看) 20 (保) 17	(看) 125 (保) 145

- 1) 必修科目は、看護学を学ぶ上で必要不可欠な科目であり、決められた年次の開講科目は全て履修してください。
- 2) 選択科目は、選択により卒業要件として修得必要単位数を履修しなければならない科目です。

分野毎に履修すべき単位数が決められています。

- ① 「不開講科目の決定に関する内規」に基づき、受講希望者が5名以下の場合は、開講しないことがあります。
- ② 保健師課程を選択している学生で、養護教諭第2種免許の取得を希望する場合は、「法と人権」「健康と運動の理論と実践」を必ず選択してください。また、「英語Ⅴ」（令和4年度生については「英語Ⅲ」）を出来る限り修得してください。

各科目の履修要件 (H30・31年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスタ	要件科目
基礎看護学実習Ⅰ	必	1	基礎看護学Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 基礎看護学Ⅲ-a } 単位の認定が受けられる出席を行っている
基礎看護学実習Ⅱ	必	2	基礎看護学Ⅰ 基礎看護学Ⅱ 基礎看護学Ⅲ-a 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学Ⅲ-bの単位の認定が受けられる出席を行っている
地域看護学Ⅲ (個人・家族・集団・組織の支援)	必	4	地域看護学Ⅰ } 単位修得 地域看護学Ⅱ
成人看護学Ⅱ-a (急性期援助論)	必	4	成人看護学Ⅰの単位修得
成人看護学Ⅱ-b (急性期援助論)	必	4	成人看護学Ⅰの単位修得
成人看護学Ⅲ (慢性期援助論)	必	4	成人看護学Ⅰの単位修得
老年看護学Ⅱ (援助論)	必	4	老年看護学Ⅰの単位修得
小児看護学Ⅱ (援助論)	必	4	小児看護学Ⅰの単位修得
母性看護学Ⅱ-a (援助論)	必	4	母性看護学Ⅰの単位修得
母性看護学Ⅱ-b (援助論)	必	4	母性看護学Ⅰの単位修得
精神看護学Ⅱ (援助論)	必	4	精神看護学Ⅰの単位修得
成人看護学実習Ⅰ	必	4	人体構造機能学Ⅰ 人体構造機能学Ⅱ 病態治療学Ⅰ 病態治療学Ⅱ 病態治療学Ⅲ 基礎看護学Ⅲ-b 基礎看護学Ⅲ-c 基礎看護学Ⅲ 看護診断学Ⅰ 成人看護学Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ } 単位の認定が受けられる出席を行っている
在宅看護論Ⅱ (援助論)	必	5	在宅看護論Ⅰの単位修得
成人看護学Ⅳ-a (援助方法論)	必	5	成人看護学Ⅱ-a 成人看護学Ⅱ-b 成人看護学Ⅲ } 単位修得
成人看護学Ⅳ-b (援助方法論)	必	5	成人看護学Ⅱ-a 成人看護学Ⅱ-b 成人看護学Ⅲ } 単位修得
老年看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	老年看護学Ⅱの単位修得
小児看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	小児看護学Ⅱの単位修得
母性看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	母性看護学Ⅱ-a 母性看護学Ⅱ-b } 単位修得
精神看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	精神看護学Ⅱの単位修得
看護診断学Ⅱ	必	5	看護診断学Ⅰの単位修得

各科目の履修要件 (H30・31年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスタ	要件科目
全看護学実習 (保健師実習除く)			3年夏期に大学が指定する集中講義を受講していること
在宅看護学実習	必	6-7	成人看護学実習Ⅰの単位修得及び専門基礎分野の必修科目14科目21単位の修得 地域看護学Ⅰ 地域看護学Ⅱ 地域看護学Ⅲ 在宅看護論Ⅰ 在宅看護論Ⅱ } 単位修得
公衆衛生看護学実習Ⅰ ★ (個人・家族・集団・組織の支援実習)	選	7	疫学 保健医療福祉行政論 公衆衛生看護学Ⅰ 公衆衛生看護学Ⅱ } 単位修得
公衆衛生看護学実習Ⅱ ★ (公衆衛生看護活動展開論及び公衆衛生看護管理論)	選	7	疫学 保健医療福祉行政論 公衆衛生看護学Ⅰ 公衆衛生看護学Ⅱ } 単位修得
成人看護学実習Ⅱ	必	6-7	成人看護学実習Ⅰの単位修得及び専門基礎分野の必修科目14科目21単位の修得 成人看護学Ⅱ-a 成人看護学Ⅱ-b 成人看護学Ⅲ 成人看護学Ⅳ-a 成人看護学Ⅳ-b } 単位修得
老年看護学実習	必	6-7	成人看護学実習Ⅰの単位修得及び専門基礎分野の必修科目14科目21単位の修得 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 老年看護学Ⅲ } 単位修得
小児看護学実習	必	6-7	成人看護学実習Ⅰの単位修得及び専門基礎分野の必修科目14科目21単位の修得 小児看護学Ⅰ 小児看護学Ⅱ 小児看護学Ⅲ } 単位修得
母性看護学実習	必	6-7	成人看護学実習Ⅰの単位修得及び専門基礎分野の必修科目14科目21単位の修得 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ-a 母性看護学Ⅱ-b 母性看護学Ⅲ } 単位修得
精神看護学実習	必	6-7	成人看護学実習Ⅰの単位修得及び専門基礎分野の必修科目14科目21単位の修得 精神看護学Ⅰ 精神看護学Ⅱ 精神看護学Ⅲ } 単位修得
課題実習	必	7	原則として、全領域の看護学実習が終了しており、その全ての単位の認定が見込まれること

各科目の履修要件 (R2・3年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスタ	要件科目
基礎看護学実習	必	3	人体構造機能学Ⅰ } 人体構造機能学Ⅱ } 基礎看護学Ⅰ } 単位修得 基礎看護学Ⅱ } 基礎看護学Ⅲ-a } 基礎看護学Ⅲ-b } 基礎看護学Ⅳの受験資格を有している。
			成人看護学Ⅱ-a (急性期援助論)
			成人看護学Ⅱ-b (急性期援助論)
			成人看護学Ⅲ (慢性期援助論)
			老年看護学Ⅱ (援助論)
小児看護学Ⅱ (援助論)	必	4	小児看護学Ⅰの単位取得
母性看護学Ⅱ (援助論)	必	4	母性看護学Ⅰ・母性看護学Ⅱ-aの単位取得
精神看護学Ⅱ (援助論)	必	4	精神看護学Ⅰの単位取得
看護過程論実習	必	4	人体構造機能学Ⅰ } 人体構造機能学Ⅱ } 基礎看護学Ⅰ } 単位修得 基礎看護学Ⅱ } 基礎看護学Ⅲ-a } 基礎看護学Ⅲ-b } 基礎看護学Ⅳ } 基礎看護学Ⅴの受験資格を有している。
			在宅看護論Ⅱ (援助論)
			成人看護学Ⅳ (援助方法論)
			老年看護学Ⅲ
			小児看護学Ⅲ
母性看護学Ⅲ	必	5	母性看護学Ⅱ-bの単位取得
精神看護学Ⅲ	必	5	精神看護学Ⅱの単位取得
看護診断学Ⅱ	必	5	看護診断学Ⅰの単位取得

各科目の履修要件 (R2・3年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスタ	要件科目
全看護学実習 (保健師実習除く)			3年夏期に大学が指定する集中講義を受講していること
在宅看護学実習	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 在宅看護論Ⅰ } 単位修得 在宅看護論Ⅱ }
公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の支援実習)	選	7	疫学 保健医療福祉行政論Ⅰ } 単位修得 公衆衛生看護学活動論Ⅰ } 公衆衛生看護学活動論Ⅱ }
公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護学活動展開論及び公衆衛生看護管理論)	選	7	疫学 保健医療福祉行政論Ⅰ } 単位修得 公衆衛生看護学活動論Ⅰ } 公衆衛生看護学活動論Ⅱ }
成人看護学実習Ⅰ	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 成人看護学Ⅱ-a } 単位修得 成人看護学Ⅱ-b } 成人看護学Ⅲ } 成人看護学Ⅳ }
成人看護学実習Ⅱ	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 成人看護学Ⅱ-a } 単位修得 成人看護学Ⅱ-b } 成人看護学Ⅲ } 成人看護学Ⅳ }
老年看護学実習Ⅱ	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 老年看護学実習Ⅰ } 単位修得 老年看護学Ⅰ } 老年看護学Ⅱ } 老年看護学Ⅲ }
小児看護学実習	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 小児看護学Ⅰ } 単位修得 小児看護学Ⅱ } 小児看護学Ⅲ }
母性看護学実習	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 母性看護学Ⅰ } 単位修得 母性看護学Ⅱ-a } 母性看護学Ⅱ-b } 母性看護学Ⅲ }
精神看護学実習	必	6-7	看護過程論実習の単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目28単位の修得 精神看護学Ⅰ } 単位修得 精神看護学Ⅱ } 精神看護学Ⅲ }
課題実習	必	7	原則として、全領域の看護学実習が終了しており、その全ての単位認定が見込まれること

各科目の履修要件 (R4・R5年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスタ	要件科目
看護過程論実習Ⅰ	必	3	人体構造機能学Ⅰ
			人体構造機能学Ⅱ
			基礎看護学Ⅱ-a
			基礎看護学Ⅱ-b
			基礎看護学Ⅲ
			基礎看護学実習
			基礎看護学Ⅳ、基礎看護学Ⅴの受験資格を有している
地域看護学Ⅱ (援助論)	必	4	地域看護学Ⅰ 単位修得
公衆衛生看護学概論	必	4	地域看護学Ⅰ
			地域看護学Ⅱ
公衆衛生看護活動論Ⅰ (対象別公衆衛生看護活動①)	必	4	地域看護学Ⅰ
成人看護学Ⅱ-a (急性期援助論)	必	4	地域看護学Ⅱ
成人看護学Ⅱ-b (急性期援助論)	必	4	単位修得
成人看護学Ⅲ (慢性期援助論)	必	4	単位修得
老年看護学Ⅱ (援助論)	必	4	単位修得
小児看護学Ⅱ (援助論)	必	4	単位修得
精神看護学Ⅱ (援助論)	必	4	単位修得
看護過程論実習Ⅱ	必	4	基礎看護学Ⅳ
			基礎看護学Ⅴ
			成人看護学Ⅰ
			看護過程論実習Ⅰ
在宅看護論Ⅱ (援助論)	必	5	在宅看護論Ⅰ 単位修得
成人看護学Ⅳ (援助方法論)	必	5	成人看護学Ⅱ-a
			成人看護学Ⅱ-b
			成人看護学Ⅲ
老年看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	老年看護学Ⅱ 単位修得
小児看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	小児看護学Ⅱ 単位修得
母性看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	母性看護学Ⅰ
			母性看護学Ⅱ-a
			母性看護学Ⅱ-b
精神看護学Ⅲ (援助方法論)	必	5	単位修得
看護診断学Ⅱ	必	5	精神看護学Ⅱ 単位修得
			看護診断学Ⅰ 単位修得

各科目の履修要件 (R4・R5年度入学生)

授業科目	必・選	開講 セメスタ	要件科目
公衆衛生看護活動論Ⅱ (対象別公衆衛生看護活動②)	選	6-7	公衆衛生看護学概論
地域看護診断論	選	6-7	公衆衛生看護活動論Ⅰ
看護過程論実習Ⅲ	必	6-7	公衆衛生看護学概論
			公衆衛生看護活動論Ⅰ
【各論実習共通】			看護過程論実習Ⅱ
			看護過程論実習Ⅲ
地域・在宅看護学実習	必	6-7	看護過程論実習Ⅱ 地域・在宅看護学実習、成人・老年看護学実習Ⅰ、成人・老年看護学実習Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学実習、精神看護学実習のすべてを履修し終えている
成人・老年看護学実習Ⅰ	必	6-7	看護過程論実習Ⅰおよび看護過程論実習Ⅱの単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目27単位の修得
成人・老年看護学実習Ⅱ	必	6-7	看護過程論実習Ⅰおよび看護過程論実習Ⅱの単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目27単位の修得
小児看護学実習	必	6-7	看護過程論実習Ⅰおよび看護過程論実習Ⅱの単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目27単位の修得
母性看護学実習	必	6-7	看護過程論実習Ⅰおよび看護過程論実習Ⅱの単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目27単位の修得
精神看護学実習	必	6-7	看護過程論実習Ⅰおよび看護過程論実習Ⅱの単位修得及び専門基礎分野の必修科目15科目27単位の修得
公衆衛生看護技術論	選	7	公衆衛生看護学概論
課題実習	必	7	公衆衛生看護活動論Ⅰ
公衆衛生看護学実習Ⅰ (個人・家族・集団・組織の生活支援実習)	選	7	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開実習及び公衆衛生看護管理論実習)	選	7-8	公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護管理論	選	8	公衆衛生看護活動論Ⅱ

【1 学年】

授 業 科 目 名	セラピーと俳句	英 文 科 目 名	Therapy and Haiku	
担 当 教 員 名	江川 隆子、鈴木 貞雄		実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 前期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－1	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 俳句づくりの基本と心構え、独特の表現法、俳句づくりのポイントおよび俳句づくりの実際と鑑賞を通して、現象を具体的にとらえ、その現象に潜む本質を表現するための方法とその重要性を教授する。さらに現象の表現に伴うリフレクションが、自分自身の癒しに繋がることを教授する。 [学修目標] 1. 俳句についての基本的な知識が理解できる。 2. 俳句の作り方とそのポイントが理解できる。 3. 俳句づくりと鑑賞を通して、現象の奥にある本質を文字に表現することの重要性が理解できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	ガイダンス 俳句とは 俳句の歴史 俳句のユーモア 俳句と写生 季語の働き 五七五の調べ 俳句の表現 セラピーと俳句 俳句を詠む① 俳句を詠む②		各回とも ・事前に参考図書および配布資料の講読と復習	各回 60 分
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	レポート (80%) 出席 (20%)			
課題のフィード バックの方法	担当教員からのコメントを入れて返却			
テ キ ス ト	「富安風生歳時記」著：富安 風生 編（東京美術）第5版			
参 考 図 書	わかりやすい俳句の作り方 俳句づくりの基本から句会、吟行まで」著：鈴木貞雄（日本文芸社）2011			
履修上の留意点	日本の伝統文化である俳句は、「Haiku」の名で国際社会に普及し、ユネスコの文化遺産入りを間近にしています。一方俳句は、高齢化社会を迎えた現代の日本において、高齢者の生き甲斐、心のささえとして大きな役割を果たしています。講義では、俳句の基本と作り方をお話しし、皆さんにも俳句を作る喜びを知っていただくとともに、看護の仕事にも役立てていただきたいと願っています。			
実務経験のある教員	教員①鈴木 貞雄（元同人誌主宰）、教員②江川 隆子（看護師）、③小平 京子（看護師） ④栗井 光代（文学）、⑤箕浦 洋子（看護師）			

授 業 科 目 名	医療のための生物と化学	英 文 科 目 名	Biology and Chemistry for Comedical Students	
担 当 教 員 名	百田 芳春		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 前期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－2	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 生物と化学の様々な基本的な概念や用語を取り上げ解説し、今後の生理学や薬理学また病態生理学の授業時において、授業中に使用される専門用語の円滑な理解を図る。 [学修目標] 生理学や薬理学また病態を説明するには、主に化学的、物理的な専門用語を用いて説明解説される。それらの用語を理解するために、医療系で知っておいた方が有利な化学と生物の基本的な用語が示す内容と、内容の意味の理解を目標とする。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	細胞の構造と機能		教科書の該当する章を概観しておく。また、小テストの結果と内容の確認を行う。	0.5 時間
第 2 回	細胞膜の働き 組成と役割			
第 3 回	遺伝子と染色体			
第 4 回	細胞分裂（体細胞分裂）			
第 5 回	細胞分裂（減数分裂）			
第 6 回	遺伝の多様性・遺伝委の変異や染色体異常			
第 7 回	細胞の増殖と細胞の死・細胞の寿命			
第 8 回	加齢に伴う生体機能の低下			
第 9 回	元素と原子と分子			
第 10 回	水分子の特徴			
第 11 回	化学反応式の見方			
第 12 回	酸化と還元			
第 13 回	酸とアルカリ			
第 14 回	生体を構成する物質			
第 15 回	生体を構成する物質			
学修評価の方法 (成績割合%)	事前課題【小テストなど】（30%）、期末試験（70%）			
課題のフィード バックの方法	小テストなどで業内容の振り返りを行う。			
テ キ ス ト	「楽しくわかる生物・化学・物理」著：岡田隆夫（羊土社）第1版			
参 考 図 書	「理解しやすい生物」著：水野丈夫ら（文英堂）2012 年			
履修上の留意点	専門基礎を学ぶ上で重要な生物や化学の知識の確認しながら、生物と化学の基本事項を修得する。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	論理学入門	英 文 科 目 名	Introduction to Logic	
担 当 教 員 名	山本 道雄		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 前期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－3	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 現代論理学の基本を学びます。 [学修目標] 問題を実際に解くことによって論理的思考とは何かが理解できるようになります。分かるようになればパズルときにも似た快感が得られます。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	論理とは何か 命題について 真理値分析 1 真理値分析 2 真理関数論 1 真理関数論 2 意味論的推理論 1 意味論的推理論 2 意味論的推理論 3 形式的推理論 1 形式的推理論 2 形式的推理論 3 形式的推理論 4 ヴェンの図 命題論理から述語論理へ 1 ヴェンの図 命題論理から述語論理へ 2	各回について教科書の問題を解いてください		1 時間程度
学修評価の方法 (成績割合%)	事前課題 (30%)、期末試験 (70%)			
課題のフィード バックの方法	授業中の練習問題解答によって理解度を判定。			
テ キ ス ト	飯田他「論理学の基礎」昭和堂			
参 考 図 書	なし			
履修上の留意点	受講生の数を抽選によって 30 名程度に制限します。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	文章表現法	英 文 科 目 名	Expression in Japanese Composition	
担 当 教 員 名	栗 井 光 代		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 前 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	1単位・15時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－4	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 将来専門職者となるために、日本語の技法に関する基本的な知識と技能を修得することが重要である。この科目では、日本語の特質への理解、基礎的能力・態度を養うとともに、社会生活を営む上で必要となる文章表現の様々なスキルを向上させることを目的とする。 [学修目標] 1. 言語についての基本的な考え方を理解できる。 2. 言語についての基本的な概念を理解できる。 3. 言語についての特徴、機能、表記法を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間	
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	ガイダンス・ことばとは 話しことばの特性 書きことばの特性 方言の特性とことば 文字と表記、文章の特性 文章の作成（1）事実を書く、考えを書く 文章の作成（2）気持ちを書く、用件を書く まとめ	授業ごとに予習・復習の内容を説明します。授業後に課題を出して、理解度を確認します。 （日々の生活の中で新聞、雑誌等を見て、使われていることばに注意を払うこと。これにより、授業で得た疑問などを解決するために調べたり、考えたりする姿勢が重要です。授業後には講義ノートを整理すること。）	各回30分から60分程度	
学修評価の方法 (成績割合%)	出席状況（25%）、受講態度（25%）、課題・レポート（50%）をあわせて総合的に評価する。			
課題のフィードバックの方法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。			
テ キ ス ト	授業の中で適宜プリントを配布する。配布プリントはテキストに相当するものとして、使用する ので、必ず毎回きちんと整理して持参すること。			
参 考 図 書	適宜紹介する。			
履修上の留意点	言語について学び、表現力(特に話す力・書く力の向上)をめざす。また、自らの考えを表現し、 発信していく力を身につける。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	健康と運動の理論と実践	英 文 科 目 名	Theory and Practice of Health and Exercise	
担 当 教 員 名	高見 栄喜		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 前期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	A－1－5	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 現在、個人や社会において生活習慣病等に対する健康や運動・スポーツの持つ役割が注目されている。それらの現象や問題について、学生が多角的な視点を持ち、生涯にわたって豊かな生活を営むための健康や運動・スポーツの科学的・文化的認識の形成や、実践することの重要性を学ぶ。			
	[学修目標] これらの学習を通じて、学生自身が成人期以降の適切な運動実践と自己のライフステージや心身の状態に応じた身体活動や健康増進活動の理論を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを主体的に形成する能力を醸成する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	オリエンテーション（授業の進め方、内容、評価 etc.）		シラバス確認	0.5時間
第 2 回	健康（人生 100 年時代）と働き方（看護師）		資料の予習と復習	0.5時間
第 3 回	小論文（小テスト・レポート etc.）の書き方について		資料の予習と復習	0.5時間
第 4 回	現代社会での健康について<理論編>		①p2-7	0.5時間
第 5 回	－生活習慣病と健康、予防医学、疫学の視点から－		①p7-13 ②p1-7	1時間
第 6 回	ライフステージと運動・スポーツ 生涯スポーツ		③p55-65 ④p65-92	0.5時間
第 7 回	<実践編>－卓球、テニス、室内バタンク①		ルール(図書館)	0.5時間
第 8 回	<実践編>－卓球、テニス、室内バタンク②		ルール(図書館)	0.5時間
第 9 回	<実践編>－卓球、テニス、室内バタンク③		ルール(図書館)	0.5時間
第 1 0 回	楽しむということ（フロー理論）－運動・スポーツ－		資料の予習と復習	0.5時間
第 1 1 回	がんと健康・ケアについて（視聴覚教材）		資料の予習と復習	0.5時間
第 1 2 回	生活習慣病（メタボリック症候群等）の現状と課題		③p91-101	1時間
第 1 3 回	健康に関する文献①		資料の予習と復習	1時間
第 1 4 回	健康に関する文献②		資料の予習と復習	1時間
第 1 5 回	まとめ 最終課題		資料のまとめ	1時間
学修評価の方法 (成績割合%)	最終・課題レポート、気づき課題等（80%）、講義中の態度・貢献度、出欠、振り返り等（20%）			
課題のフィード バックの方法	課題レポート、気づき課題、振り返り等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをする。			
テ キ ス ト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。			
参 考 図 書	①出村慎一監修「健康・スポーツ科学講義第2版」杏林書院 ②日本疫学会監修「はじめて学ぶやさしい疫学－疫学への招待－改訂第2版」南江堂 ③青木高・太田壽監修、山口泰雄編「健康・スポーツの社会学」健帛社 ④M・チクセントミハイ著、今村浩明訳「楽しみの社会学」新思索社			
履修上の留意点	健康について皆さんと共に考え認識を深め、また、身体を使って楽しく学びたいと思っています。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	情報処理	英 文 科 目 名	Information Processing	
担 当 教 員 名	高見 栄喜		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 前期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	A－1－6	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療現場における定期的、定量的な観察、医療情報の入手や理解、カルテの電子化など、医療・看護・保健分野における情報処理能力の必要性は高まっている。情報処理の基礎知識として、ワードによる文書作成、エクセルによる表計算やグラフ機能、パワーポイントによるプレゼンテーション資料作成の技術などを中心に学び演習する。学生がソフトウェアやネットワークを利用する上でのマナーや倫理、また医療職としてのコミュニケーションの側面からも理解を深めたい。 [学修目標] 学生が医療職としての情報コミュニケーションスキルの基本を習得し、主体的に情報処理ツールを用いて応用し、活用できる基礎的能力を養う。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス、コミュニケーションツールとしての情報技術		シラバス確認	0.5 時間
第 2 回	コミュニケーションの基本の理解		① p2-55	0.5 時間
第 3 回	情報セキュリティ、マナー、モラル、ネットワーク etc.		① p58-92	0.5 時間
第 4 回	PC 等の基本的操作とワード・ドキュメントの使用法		① p168-197	0.5 時間
第 5 回	ワードでの課題、文書作成と演習 (1)		演習課題の予習と復習	0.5 時間
第 6 回	ワードでの課題、文書作成と演習 (2)		演習課題の予習と復習	1 時間
第 7 回	エクセルでの表計算と関数 (1)		演習課題の予習と復習	0.5 時間
第 8 回	エクセルでの表計算と関数 (2)		演習課題の予習と復習	1 時間
第 9 回	エクセルでの課題、作成と演習 (1)		演習課題の予習と復習	0.5 時間
第 10 回	エクセル課題、作成と演習 (2)		演習課題の予習と復習	1 時間
第 11 回	パワーポイントでのプレゼン資料の作成 (1)		プレゼン課題作成	1 時間
第 12 回	パワーポイントでのプレゼン資料の作成 (2)		プレゼン課題作成	1 時間
第 13 回	パワーポイントでのプレゼン発表 (1)		プレゼン課題作成	1.5 時間
第 14 回	パワーポイントでのプレゼン発表 (2)		プレゼン課題作成	1.5 時間
第 15 回	まとめ 最終課題		資料・演習課題まとめ	1.5 時間
学修評価の方法 (成績割合%)	課題発表、最終課題 (40%)、課題提出 (40%)、講義中の態度・貢献度、出欠、振り返り等 (20%)			
課題のフィード バックの方法	提出課題・プレゼン発表等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをする。			
テ キ ス ト	特に指定しない。授業時に資料を配布する。			
参 考 図 書	①大嶋淳俊著、情報活用学入門－情報化社会の「攻め方」・「守り方」、学文社			
履修上の留意点	授業をきっかけとして、PC 室や自宅で積極的に PC 等を使用してください。苦手意識のある方は、1日1回は PC 等に触れ、情報処理技術が身に付く習慣を持ってくださいね。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	英 語 I	英 文 科 目 名	English I	
担 当 教 員 名	西垣 有夏		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 前 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	A－1－18	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 本講義では読解中心のテキストを利用し、基本文法、文章構造の説明をしながら英文を読み進めていく。 [学修目標] 基本単語・熟語を習得し、文章構造を把握して正確に英文を読めるようになることを目標とする。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	Lesson 1 Why Is the Ocean Salty—Reading		各回テキストの読み込み 課題プリントの取り組み	各回60分
第 2 回	Lesson 1 Why Is the Ocean Salty—Post-Reading Tasks			
第 3 回	Lesson 2 Water All Around Us—Reading			
第 4 回	Lesson 2 Water All Around Us—Post-Reading Tasks			
第 5 回	Lesson 3 Sky Art—Reading			
第 6 回	Lesson 3 Sky Art—Post-Reading Tasks			
第 7 回	Lesson 4 The Illusion of a Rainbow—Reading			
第 8 回	Lesson 4 The Illusion of a Rainbow— Post-Reading Tasks			
学修評価の方法 (成績割合%)	課題プリント (30%)、定期試験 (70%)			
課題のフィード バックの方法	課題プリントを採点して次講義時に返却します。			
テ キ ス ト	Our Wonder-Filled World. Mary Tadokoro 著 (朝日出版社)			
参 考 図 書	英和辞典、『ジーニアス英和辞典第3版』(大修館書店)を推奨しますが、すでに所持している辞書があれば本講義で利用できることがあるので担当者に相談してください。			
履修上の留意点	後期開講の必修科目『医療英語』の準備学習として本講義を受講するのが望ましいです。 毎時間課題プリントを配布するので次回授業時までに仕上げて提出してください。受講生の英語力に合わせて基本的な文法も交えて授業進行しますが、主体性をもって取り組むようにしてください。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	英 語 Ⅱ	英 文 科 目 名	English Ⅱ
担 当 教 員 名	西垣 有夏	実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 前 期	必 修 / 選 択	選 択
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義・演 習
カリキュラム記号	A - 1 - 19	D P 記 号	DP-1
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 英会話に特化した教材を用い、英会話の音読を徹底する。さらに語彙力増強のために英作文にも取り組む。 [学修目標] 基本単語・熟語を利用した英会話ができるようになることを目標とする。		
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	第 1 課 : Dialogue 第 1 課 : 発展問題 第 2 課 : Dialogue 第 2 課 : 発展問題 第 3 課 : Dialogue 第 3 課 : 発展問題 第 4 課 : Dialogue 第 4 課 : 発展問題	各回テキストの読み込み 課題プリントの取り組み	各回60分
学修評価の方法 (成績割合%)	課題プリント (30%)、定期試験 (70%)		
課題のフィード バックの方法	課題プリントを採点して次講義時に返却します。		
テ キ ス ト	Putting Core English Words into Action. Shinichiro Torikai 著 (朝日出版社)		
参 考 図 書	英和辞典、『ジーニアス英和辞典第 3 版』(大修館書店)を推奨しますが、すでに所持している辞書があれば本講義で利用できるので担当者に相談してください。		
履修上の留意点	後期開講の必修科目『医療英語』の準備学習として本講義を受講するのが望ましいです。毎時間課題プリントを配布するので次回授業時までに仕上げて提出してください。受講生の英語力に合わせて、基本的な文法も交えて授業進行しますが、主体性をもって取り組むようにしてください。		
実務経験のある 教 員			

授 業 科 目 名	人 体 構 造 機 能 学Ⅰ	英 文 科 目 名	Anatomy and PhysiologyⅠ	
担 当 教 員 名	百 田 芳 春		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・60 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-1	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人体の構造とその機能を理解し、疾病時における形態および機能的な変化の状況を理解するための基礎として、人体を構成する基本単位の細胞と、その組み合わせの組織及び人体各部の構造機能について教授する。本講義は人体構造機能学Ⅱの履修前に先行して開講される。生命の基本単位である細胞から始まり、組織について、その集合体である臓器の機能を器官別に系統に従って、骨・骨格筋、消化器系、呼吸器系、心臓・循環器系、泌尿器系および内分泌系について教授する。 [学修目標] 1. 細胞の構造と機能を説明できるようになる。 2. 組織の区別・種類及び機能について説明できるようになる。 3. 骨・骨格筋について構造と機能を説明できるようになる。 4. 呼吸器系について構造と機能を説明できるようになる。 5. 心臓・循環器系の構造と、その機能に関して説明できるようになる。 6. 肺の構造と機能について説明できるようになる。 7. 泌尿器・体液の酸塩基平衡について説明できるようになる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回 第 16 回 第 17 回 第 18 回 第 19 回 第 20 回 第 21 回 第 22 回 第 23 回 第 24 回 第 25 回 第 26 回 第 27 回 第 28 回 第 29 回 第 30 回	身体の支持と運動 骨と筋の構造と機能 身体の支持と運動 骨と筋の構造と機能 身体の支持と運動 骨と筋の構造と機能 細胞及び体を構成する組織について 組織について 消化器系の構造と機能 口腔 咀嚼・嚥下など 消化器系の構造と機能 胃の構造と働き 消化器系の構造と機能 小腸大腸の構造と働き 消化器系の構造と機能 消化酵素の分泌調節 消化器系の構造と機能 肝臓・膵臓・胆嚢の構造と機能 振り返り 呼吸器系の構造と機能 肺の構造と呼吸運動呼吸器系の構造と機能・排気量区分・呼吸調節のメカニズム 呼吸器系の構造と機能 ガス交換について これまでの復習 循環系の概観 心臓の構造と働き 心臓の構造と働き 血圧調節のメカニズム 体循環 特殊循環 骨髄の構造と機能 血液（細胞と血漿） 振り返り 止血及び血液凝固系と線溶系 止血及び血液凝固系と線溶系、血液型について 腎臓の構造と働き 糸球体濾過と再吸収 腎臓の構造と働き 糸球体濾過と再吸収、排泄 体液の酸塩基平衡 これまでの復習		教科書第1章及び第11章 初回は上記の範囲を簡単に概観してください。 その後は該当するページをお知らせします。期間中に小テストを1回行います。 小テストの実施日はあらかじめ2週間前に知らせます(第12・24回目を想定)	各回0.5時間
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験(90%)、小テスト・課題等(5%)、講義中の態度・出欠、振り返り等(5%)			
課題のフィードバックの方法	小テスト、課題、振り返り等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをする。			
テ キ ス ト	「人体の構造と機能Ⅰ 解剖生理学」著：坂井建雄ら(医学書院)専門基礎分野			
参 考 図 書	「人体の正常機能と構造」著：坂井建夫ら(日本医事新報社)改訂第4版 「ガイトン生理学」石川義弘ら監修(エルゼビア)原著第13版 「グレイ解剖学」塩田浩平ら(エルゼビア)原著第4版			
履修上の留意点	人体構造機能学は病気や怪我、薬物の働き、栄養などを学ぶ上での基礎になります。目標は健康な体の構造や働き・仕組みを説明できるようになることです。			
実務経験のある教員				

授 業 科 目 名	基礎看護学 I (概論)	英 文 科 目 名	Basic Nursing I (Introduction)
担 当 教 員 名	奥津 文子	実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 前期	必 修 / 選 択	必 修
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義・演習
カリキュラム記号	B-1	D P 記 号	DP-2
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護の5概念を基礎にして、看護・看護学の歴史の変遷と今日の看護の機能や役割、実際の活動について学ぶ。 [学修目標] 看護とは何か、現在の看護の考え方はどのような看護理論の歴史の変遷を経てきたのか、特に看護学の5概念(人間、環境、社会、看護目標、看護実践)を基礎に学ぶ。また、今後どのようなことが看護に期待され、看護学として発展するのかについて学ぶ。さらに、保健医療福祉行政・活動の中で、重要な役割を担う看護の位置づけ、看護の機能や役割、継続性をもって行われる看護活動について学際的視野で学ぶ。		
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	コースガイダンス、看護の対象①	①看護職を志望した理由についてまとめる	30 分
第 2 回	看護の対象②	②患者とは、人間とはについてまとめる	30 分
第 3 回	健康と社会	③社会が健康に及ぼす影響について具体例	30 分
第 4 回	看護とは① 保助看法	を考えまとめる	
第 5 回	看護とは②	④看護のイメージについて	30 分
第 6 回	職業としての看護	⑤看護提供の場について	30 分
第 7 回	看護提供の仕組み	⑥看護に関連する法律	30 分
第 8 回	看護実践の現場	⑦看護提供のしくみについてインターネットで	30 分
第 9 回	医療と看護の歴史①	調べる	
第 10 回	医療と看護の歴史②	⑧実践家への質問	30 分:
第 11 回	医療と看護の歴史 発表会②	⑨⑩⑪⑫グループ時間を作り、調べまとめる	2 時間
第 12 回	医療と看護の歴史 発表会②	⑬看護師が守らなければならないことについてまとめる	30 分
第 13 回	看護における倫理①		
第 14 回	看護における倫理②		
第 15 回	まとめ		
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (60%)、小テスト (40%)		
課題のフィード バックの方法	授業の中で解説する。		
テ キ ス ト	系統看護学講座専門分野I基礎看護学①看護学概論 茂野香おる他 医学書院		
参 考 図 書	随時紹介する。		
履修上の留意点	無断欠席は認めない。		
実務経験のある 教 員	奥津 文子 (看護師)		

授 業 科 目 名	基礎看護学Ⅱ－a (生活の援助技術)	英 文 科 目 名	Basic NursingⅡ－a (Assistive Technology for Daily Living)	
担 当 教 員 名	土井 香、奥津 文子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 前期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単位・30 時間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B－2	D P 記 号	DP－2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護ケア技術とは何か、看護の対象に看護ケア技術を用いることの意味を考える。その上で健康障害を持つ対象の療養上のニーズについて理解を深め、安全で安楽に日常生活を送るための看護ケア技術の基本的知識と技術を学ぶ。 [学修目標] 1. 看護の対象の日常生活および治療を受ける上でのニーズについて理解する。 2. 対象にとっても看護者にとっても安全で安楽なADL看護ケア技術を実践するための知識と技術を習得する。 3. 看護ケア技術の学習を通して看護をめざす者としての態度を身につける。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	コースガイダンス 保助看における看護ケア技術	コロナ禍における感染予防対策		20 分
第 2 回	の位置づけ 看護ケア技術とは	についてまとめる		
第 3 回	感染予防の基礎知識	正しいマスクの装着方法、手洗い		60 分
第 4 回	感染予防に関する看護技術 (マスク・手洗い)	方法の自主練習		
第 5・6 回	安全：環境に関する基礎知識 病床環境の整備	自分の生活環境・病室の生活環		60 分
第 6 回	安全：環境整備の看護計画立案・実施・評価修正	境についてまとめる		
第 7 回	看護診断：転倒リスク状態 アセスメントの視点とマネジメント			
第 8 回	更衣動作に関する基礎知識、アセスメントの視点	自分自身の更衣動作について具		60 分
第 9・10 回	更衣に対する看護計画立案・実施・評価修正	体的に振り返りまとめる		
第 11 回	摂食動作に関する基礎知識、アセスメントの視点	自分自身の摂食動作について具		60 分
第 12 回	摂食に対する看護計画立案・実施・評価修正	体的に振り返りまとめる		
第 13 回	看護診断：嚥下障害 アセスメントの視点 治療技術			
第 14 回	看護ケア技術の活用方法：事例検討	事例についての自己学習		90 分
第 15 回	まとめ	援助計画の立案		
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (70%) 小テスト・課題・提出物 (20%) 技術のまとめ・参加状況 (10%)			
課題のフィードバックの方法	小テストは Google Classroom を使用し、結果はすぐに各自に返却し、講義時に解説する。 課題・提出物は提出後にフィードバックする。看護技術演習終了後は全体へフィードバックする。			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス (学研メディカル秀潤社)			
参 考 図 書	随時紹介する。			
履修上の留意点	授業時間だけでは技術習得は不可能 自己のスケジュール管理・空き時間の有効活用による 計画的な技術習得への取り組みが不可欠である。やむを得ない事情以外は欠席を認めない。			
実務経験のある教員	土井 香 (看護師)、奥津 文 (看護師)			

授 業 科 目 名	基礎看護学実習 (コミュニケーション)	英 文 科 目 名	Basic Nursing Practicum (Communication)	
担 当 教 員 名	奥津 文子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	3 単 位・135 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-1	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] コミュニケーションは、看護師にとって必要不可欠な技術・技能である。コミュニケーション理論を学ぶと共に、実際に多くの人々とコミュニケーションを重ね、自分のコミュニケーションを客観的に振り返ることにより、コミュニケーションスキルを効果的に向上させる。 [学修目標] 1. 自身のコミュニケーションを振り返り、効果的なコミュニケーションスキルを身につける。 2. 大学における学びの方法を理解する。 3. 見学をと通し、病院の機能別区分を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	2023 年 4 月 ～ 7 月 ○講義・演習・実習 コミュニケーションとは、効果的コミュニケーション 自分のキャッチコピーを作ってみよう クラスメートを知って仲良くなろう 対人関係スキル ストレス対処スキル 知りたいことを職員からどのように聞くか？ ディスカッションスキル、仲間と学ぶ、教員を活用する 知りたいことを教員からどのように聞くか？ コミュニケーション場面の動画撮影・自己の課題分析 病院見学1 特定機能病院 病院見学2 地域医療支援病院 病院見学3 地域密着型病院		コミュニケーションについて、 文献や資料など検索し、調べる。 医療におけるコミュニケーションについて、看護技術の テキストで調べる。 病院汚機能別区分について、 看護学概論のテキストで調べる。	各 30 分
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	別途配布する「2022 年度基礎看護学実習要項」に記載する。			
課題のフィード バックの方法	グループおよび個別に対しフィードバックする。			
テ キ ス ト	特になし。			
参 考 図 書	随時提示する。			
履修上の留意点	学生自身の健康管理に十分留意し、感染予防行動を徹底して行うこと。			
実務経験のある教員	奥津 文子（看護師）、土井 香（看護師）			

授 業 科 目 名	統計学	英 文 科 目 名	Statistics	
担 当 教 員 名	高見 栄喜		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	A-1-7	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療・保健分野においても統計学が広く活用されており、特に大量の医療データから患者様にとって有効な情報を得るためには、医療従事者は統計学の基礎知識とその活用法を習得しておくことが求められる。記述統計学では、得られた標本データの分布や、その特徴を各種の統計量で要約するための技法を学ぶ。また推測統計学では、母集団から抽出された標本から得られる標本統計量の分布と、その分布に基づく統計的推定、検定の基本的な考え方について学ぶ。学生は、課題に対して PC 等でエクセル等を使って自らが処理、文章化、グラフ化する。課題提出ファイルを作成・提出し、成績評価の資料とする。 [学修目標] 統計に関する基本を理解し、その有用性と限界を知って統計資料を判断できるようにする。自らが調査・収集したデータの統計処理ができるようにする。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	はじめに、統計学とは何か		①1 章 1・テキスト	0.5 時間
第 2 回	医療保健分野と統計学、疫学統計を学ぶ目的		① 2-3・テキスト	0.5 時間
第 3 回	__研究事例 etc.		① 4-6・テキスト	0.5 時間
第 4 回	記述統計学		②p74-79・テキスト	0.5 時間
第 5 回	__母集団と標本、平均、標準偏差、中央値 etc.		②p80-85・テキスト	0.5 時間
第 6 回	__標本の記述：度数分布表とヒストグラム etc.		②p87-93・テキスト	0.5 時間
第 7 回	__記述統計量：平均値と期待値、分散と標準偏差 etc.		②p94-99・テキスト	0.5 時間
第 8 回	確認テスト __統計の基本用語、具体例 etc.		③p48-61・テキスト	2 時間
第 9 回	__国家試験問題（保健師）の演習 etc.		資料・テキスト予習と復習	2 時間
第 10 回	中間テスト		資料・テキストの復習	2 時間
第 11 回	統計的検定の基礎について（演習）		①2 章 1-2・テキスト	1 時間
第 12 回	__パラメトリック検定、対応のないスチューデント t 検定		①3 章 1-3・テキスト	1 時間
第 13 回	__パラメトリック検定、対応のあるスチューデント t 検定		①4 章 2-3・テキスト	1 時間
第 14 回	__相関分析、ピアソンの積率相関、課題演習（応用編）		資料・テキストの復習	1 時間
第 15 回	まとめ		資料・テキストまとめ	1 時間
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験（40%）、中間・確認テスト、課題等（40%）、講義中の態度・貢献度、出欠、振り返り等（20%）			
課題のフィード バックの方法	中間・確認テスト、課題、振り返り等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをする。			
テ キ ス ト	白戸亮吉、鈴木研太著「ていねいな保健統計学」羊土社			
参 考 図 書	①山蔭道明監修、及川慶浩著「超入門らくらく使えるはじめての統計学」メディカ出版②福富和夫・橋本修二著「保健統計・疫学5版」南山堂③横川博英監修、藤林和俊著「統計と臨床疫学」学研メディカル秀潤社			
履修上の留意点	統計学は、科学的研究や思考、また EBM の基礎を支えます。1つ1つ着実に理解し、医療・看護・保健分野での応用や研究活動に、ぜひ活かせるようになってください。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	心理学	英 文 科 目 名	Psychology	
担 当 教 員 名	花村 カテリーナ		実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-1-8	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 患者を理解するためにはまず自分を理解することが大切である。私たちの心の仕組みと人格の形成・発達について、基本的な致死異を幅広く教授する。心理学の古典的研究に加えて、最新の研究成果を概観するとともに、心の働きの生物学的基礎についても教授する。 [学修目標] 1. 認知機能、感情、無意識などの心の仕組み、その発達と生物学的基盤を理解する。 2. 対人関係と集団における人の心理と行動の特徴を理解する。 3. 人格の形成と発達についての概観をつかむ。 4. ストレスの心理的・生理学的基盤を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス。心とは		各回ともテキストを復習してください。	各回とも 30 分程度
第 2 回	日常生活の認知心理学 感覚と知覚			
第 3 回	勉強に活かす認知心理学 1 注意			
第 4 回	勉強に活かす認知心理学 2 記憶			
第 5 回	勉強に活かす認知心理学 3 思考と問題解決			
第 6 回	勉強に活かす認知心理学 4 知能			
第 7 回	感情の心理学			
第 8 回	ストレスに強くなる心理学			
第 9 回	人間関係に強くなる心理学 1 行動の仕組み			
第 10 回	人間関係に強くなる心理学 2 私とあなた			
第 11 回	人間関係に強くなる心理学 3 私とみんな			
第 12 回	人間関係に強くなる心理学 4 無意識の仕組み			
第 13 回	性格心理学			
第 14 回	発達心理学			
第 15 回	まとめ			
学修評価の方法 (成績割合%)	授業参加度 (30%)、小テスト (30%)、期末試験 (40%)			
課題のフィード バックの方法	Google Classroom を用いて授業資料、小テストとその結果を配信する。			
テ キ ス ト	「系統看護学講座基礎分野 心理学」(医学書院)			
参 考 図 書	その都度紹介する。			
履修上の留意点	自分や他者の心について理解を深めるための手がかりがたくさん詰まった授業です。各回ともに「何かひとつ自分について発見をしよう」という気持ちで臨んでください。			
実務経験のある 教 員	花村 カテリーナ (臨床心理士、公認心理師)			

授 業 科 目 名	人間と生き方（哲学）	英 文 科 目 名	People and Life (Philosophy)	
担 当 教 員 名	山本 道雄		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-1-9	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] この講義では「人間と生き方」というテーマを、将来医療職に就かれる皆さんの関心に応えて、「科学・社会・医療」という切り口から具体的に考えていきます。特に現代科学・技術の根底にある特定の自然観を取り出すようにします。後半では脳死と臓器移植の問題について少し詳しく見ていきます。 [学修目標] 科学という営み（医療もここに含まれます）の意味を世界と人間との関わりのなかから捉え直すのが、この講義の目的です。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	総序：人間の文明的活動の限界について 文化＝耕作＝破壊 現代の科学・技術文明の根底にある世界像 第一次科学革命：因果的・決定論的世界像 1 第一次科学革命：因果的・決定論的世界像 2 「自然は人間の作品である」という命題について 第 2 次科学革命：統計的世界像（「偶然を飼い慣らす」） 生命科学の展開：ダーウィンの進化論について デカルト哲学：心身問題 心身問題の現代的展開：心脳問題 信仰・知識（科学）・生 脳死問題：理論的・歴史的考察 アメリカにおける心臓移植の経緯 日本における心臓移植の経緯 心臓移植の法的・倫理的問題	講義中に指示した問題について調べること。		1 時間程度
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	単位認定は出席と、グーグルミートの「質問」に対する回答の双方で判定する。			
課題のフィード バックの方法	グーグルミートの「質問」に対する回答によって判定。			
テ キ ス ト	特になし。			
参 考 図 書	講義中に随時紹介。			
履修上の留意点	ノートをしっかりとってください。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	社会と家族	英 文 科 目 名	Society and Family	
担 当 教 員 名	西村 由実子、山中 昌幸		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－10	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人は社会の中に生まれ、日常生活における他者との相互作用の中で様々な行動様式・規範を身につける。家族はその社会を構成する基本的な単位の一つである。多様かつダイナミックに変化し続ける現代社会と家族のあり様を家族社会学の視点を通して学ぶ。			
	[学修目標] 1. 家族に関する諸理論を理解する 2. 現代の社会と家族が抱える課題と解決のための方法を探る 3. 家族研究の方法を理解する			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス		好きな季節を考える	30 分
第 2 回	家族の構造と機能		(a)はじめに通読	30 分
第 3 回	日本の近代家族論		(a)第1、2章通読	30 分
第 4 回	家族の比較文化論		課題「この社会を通じて」	30 分
第 5 回	家族の人口学		(a) 第3章通読	30 分
第 6 回	多様化する家族（1）		(a) 第4章通読	30 分
第 7 回	多様化する家族（2）		(a) 第5章通読	30 分
第 8 回	中間テスト		第1～7回の復習	30 分
第 9 回	ジェンダーとセクシュアリティ		(a)第7章通読	30 分
第 10 回	ファミリー・バイオレンス		(a)第8、10章通読	30 分
第 11 回	子育てと介護		(b)3章通読	30 分
第 12 回	コミュニティと地域社会		(b)7章通読	30 分
第 13 回	国家と国際社会		(b)8章通読	30 分
第 14 回	疾病・災害と遺児		(b)7章通読	30 分
第 15 回	家族研究の方法・まとめ		第1～14回の総復習	30 分
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	授業参加（15%）、中間テスト（20%）、課題レポート（15%）、定期試験（50%）			
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板および返却物を通じて、個別フィードバックと全体への講評を行う。			
テ キ ス ト	準備学修資料を前半と後半に分けて配布する。			
参 考 図 書	「家族社会学を学ぶ人のために」井上眞理子編（世界思想社）…（a） 「ナースング・グラフィカー健康支援と社会保障①健康と社会・生活」平野かよ子ら編（メディ カ出版）最新版…（b）			
履修上の留意点	履修希望者は第1回のガイダンスに必ず出席してください。自分自身やクラスのメンバー、様々 な組織や地域といった社会についての気づきを大切に学びましょう。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	芸術	英 文 科 目 名	Art	
担 当 教 員 名	吉村 誠		実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 後 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－11	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 音楽や映像は、人間のさまざまな感情を表現したり誘発したりすることによって、心と身体を健康を大きく向上させます。また、言葉や映像が音楽と一緒にあった時には、より一層大きな感動を産み出します。この授業では、音楽や映像を創造する人の立場から捉えることで音楽や映像を意識的に使いこなす術を体得することを目指し、現代社会に生きる人間のストレス解消や看護対象者への心のケアをはかる方法を学びます。			
	[学修目標] 看護には看護対象者への共感能力が必要です。この授業では共感能力の基である「聴く力」と「観る力」を高め、看護の現場で音楽や映像を使いこなせるようになることが目標です。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	芸術は「生きる力」を養い、音楽は感情を誘発する。		好きな音楽を視聴・確認	30 分
第 2 回	米国映画『君に読む物語』から、恋愛と老人医療と。		『君に読む物語』確認	1 時間
第 3 回	ダンスは身体を使って人の感情を表現する。		好きなダンスを確認・実践	30 分
第 4 回	日本映画『フラガール』から、別離と昂揚の音楽。		『フラガール』確認	1 時間
第 5 回	韓国映画から国や社会による価値観の相違を知る。		アジアを中心に世界地図を確認	30 分
第 6 回	韓国映画『カンナさん大成功です!』の音楽。		『カンナさん大成功です』確認	1 時間
第 7 回	LGBT(性的マイノリティ)と芸術による自己確認。		好きな絵画を鑑賞・確認	30 分
第 8 回	米国映画『リリーのすべて』に見る絵画表現。		『リリーのすべて』確認	1 時間
第 9 回	感情移入や喜怒哀楽を体験する。		「共感能力」を調べる	30 分
第 10 回	テレビ番組『探偵ナイトスクープ』を見る。		『探偵ナイトー』視聴・確認	1 時間
第 11 回	世界の貧困と格差の生活実態を知る。		世界地図と各国人口の確認	30 分
第 12 回	英国映画『スラムドッグミリオネア』とインド社会。		『スラムドグー』確認	1 時間
第 13 回	普通の人の普通の生活という「日常」こそが人生。		自分の家族関係図を作成	30 分
第 14 回	アニメ映画『この世界の片隅に』に見る人生の日常。		『この世界の片隅に』確認	1 時間
第 15 回	まとめ、「芸術」を効果的に使って看護する。		「私の一曲」の CD 作成	2 時間
学修評価の方法 (成績割合%)	出席回数と受講態度 50%（私語があまりにも多いと減点します）、課題 50%（表現力を評価します）			
課題のフィード バックの方法	提出された課題をコメント付きで返却します。			
テ キ ス ト	講義内で資料を配布します。			
参 考 図 書	吉村誠『お笑い芸人の言語学』（ナカニシヤ出版）、『ことばの「なまり」が強みになる!』（自由国民社） 正高信男『ヒトはいかに人になったか』（岩波書店）			
履修上の留意点	興味と好奇心を持って音楽や映像を視聴して下さい。			
実務経験のある教員	吉村 誠（TV プロデューサー）			

授 業 科 目 名	人 間 関 係 論	英 文 科 目 名	Theory of Human Relations	
担 当 教 員 名	栗 井 光 代		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数 ・ 時 間	2 単 位 ・ 30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－12	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人間の社会性を支える心の特性について、基本的な知識を幅広く教授する。さらに、学習者自身の日常経験を踏まえつつ、他者の心的状態を理解し、共感するときの心の働きはどのようなものか、自己と他者はどのように区別されるのか、人間社会はどのように成立し、存続しうるのか、等の問題について社会心理学などの知見を中心に教授する。 [学修目標] 1. 社会性という観点から、私たちの心の働きにはどのような基本的特徴があるのか理解できる。 2. よりよい人間関係を築くための基本的な知識を理解できる。 3. 他者の心について理解し、組織の活動にかなった人間関係・社会集団を形成するうえで必要な視点が何か理解できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	ガイダンス・心の働きとは 心の発達 性格と行動の発達 人とのつながり 集団と心理 自己とは（1） 自己とは（2） 他者とは（1） 他者とは（2） 非言語コミュニケーション 言語コミュニケーション 対人コミュニケーション 組織内コミュニケーション 社会とコミュニケーション まとめ		授業ごとに、予習・復習の内容を説明します。授業後に課題を出して、理解度を確認します。（人間関係論は人、生活に関係している。日々の生活の中で起こっていることを意識できるようにすること。そのことが授業の内容に関連して、深く考えることができる。）	各回 30 分 から 60 分 程度
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	出席状況（25%）、受講態度（25%）、課題・レポート（50%）をあわせて総合的に評価する。			
課題のフィード バックの方法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。			
テ キ ス ト	授業の中で適宜プリントを配布する。配布プリントはテキストに相当するものとして、使用する ので、必ず毎回きちんと整理して持参すること。			
参 考 図 書	適宜紹介する。			
履修上の留意点	人間関係とは何かを探求し、人間関係に関する考え方やコミュニケーションの知識とスキルを身につける。心を読み取る姿勢や行動を知り、円滑な人間関係を築くことができるようになる。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	人文教養特別講義Ⅰ （自然と文化①）	英 文 科 目 名	Special Lectures on HumanitiesⅠ （Japanese Nature and Culture 1）	
担 当 教 員 名	栗 井 光 代		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－13	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	〔授業の概要〕 将来専門職を目指すものにとって人間としての、あるいは社会人としての教養は自らの専門職を深めるためにも、また専門職であるが故に陥りがちな視野狭窄から免れるためにも、きわめて重要である。この科目では、「自然と文化」という大枠の中から、必ずしも看護と直接関係しない任意のテーマ（例えば政治、社会、言語、歴史、人間、科学、生命、物質）を講義する。人文教養特別講義Ⅰでは主として「文化」に関わるテーマを、人文教養特別講義Ⅱでは主として「自然」に関わるテーマを選ぶ。 〔学修目標〕 1. 言語についての基本的な考え方を理解できる。 2. 言語についての基本的な概念を理解できる 3. 言語についての特徴、機能、表記法を理解する。 4. 言語を用いて他者に分かりやすく伝えることができる。 5. 言語を用いて多様な表現活動を実践することができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	ガイダンス・ことばと表現 表現・話すこと（スピーチ・説明） 敬語について 書くこと（1）要約、論作文 書くこと（2）手紙文、案内文、ビジネス文書 分析と考察について（1） 分析と考察について（2）、レポート・論文の構成 まとめ		授業ごとに予習・復習の内容を説明します。授業後に課題を出して、理解度を確認します。各回ともテキスト並びに講義資料等を復習・整理すること。また、日々の生活の中で、使われていることばに注意を払うこと。授業で得た疑問などを解決するために調べたり、考えたりする姿勢が重要。	各回 30 分 から 60 分 程度
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	出席状況（25%）、受講態度（25%）、課題・レポート（50%）をあわせて総合的に評価する。			
課題のフィード バックの方法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。			
テ キ ス ト	大学生のための日本語表現実践ノート（改訂版）風間書房			
参 考 図 書	適宜紹介する。			
履修上の留意点	日本語表現に関する基本的な内容を身につけ、表現力の向上をめざす。また、自らの考えを表現し、発信していく力を身につける。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	現代アメリカ事情	英 文 科 目 名	The Present Situation in the United States of America	
担 当 教 員 名	西垣 有夏		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－14	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] アメリカ合衆国といえば日本にとって政治外交面、経済的観点などにおいて重要なパートナーと言っても過言ではない。海外からの日本への移住者は今後増加し、もちろん医療現場においても異文化理解は欠かせないものとなる。今もなお変化を続けるアメリカ合衆国を文化、人種、宗教などの観点から学んでいく。 [学修目標] 異文化や価値観の違いに対する理解、幅広い見識を身に着け、今後のアメリカと日本との国際関係や情勢に対する意見を明確にできることを目的とする。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	ガイダンス、自由の国アメリカ 地域文化―中西部アメリカと西部アメリカ 地域文化―東部アメリカと南部アメリカ 人種問題―移民の国アメリカ 人種問題―同一コミュニティは何のため？ 宗教問題―神への強い信仰心 宗教問題―アメリカ人はカルト好き？ 政治システム―連邦政府と大統領制 政治システム―国民が連邦政府を覆す？ アメリカの家族―夫婦関係は？子どもはいつ成人に？ アメリカの教育―義務教育でも学校に行かない？ 銃規制―何のための銃？ アメリカの経済―自由、効率、公正の三本柱 アメリカの軍事力―ポスト冷戦時代の「世界の警察」 アメリカの外交姿勢―世界を視野に入れた外交スタンス		各回資料の予習と復習	60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	毎授業時のコメント（40%）、期末レポート（60%）			
課題のフィード バックの方法	毎時間コメントを記入してもらい、次の講義以降に復習やフィードバックします。			
テ キ ス ト	指定しません。授業時に資料を配布します。			
参 考 図 書	随時紹介する。			
履修上の留意点	ニュースなどをみて国際情勢について関心をもち、授業ではしっかりメモを取るように心がけてください。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	医療英語	英 文 科 目 名	Medical English	
担 当 教 員 名	西垣 有夏		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－17	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療現場で必要とされる基本的な英会話表現を学び、医療専門用語を学習する。 [学修目標] 医療現場で基本的な英会話ができ、英語での医療専門用語を習得することを目標とする。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス、Unit 1:Is this your first visit to this hospital? —KEY EXPRESSIONS		各回テキストの読み込み 課題プリントの取り組み	各回 60 分
第 2 回	Unit 1:Is this your first visit to this hospital?—DIALOGUE			
第 3 回	Unit 2:What’ s the matter?—KEY EXPRESSIONS			
第 4 回	Unit 2:What’ s the matter?—DIALOGUE			
第 5 回	Unit 3:You need to see a Dermatologist —KEY EXPRESSIONS			
第 6 回	Unit 3:You need to see a Dermatologist—DIALOGUE			
第 7 回	Unit 4:Let me direct you to Radiology —KEY EXPRESSIONS			
第 8 回	Unit 4:Let me direct you to Radiology—DIALOGUE			
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	課題プリント (30%)、期末試験 (70%)			
課題のフィードバックの方法	課題プリントを採点して次講義時に返却します。			
テ キ ス ト	English for Nurses. Margaret Yamanaka 編著 (朝日出版社)			
参 考 図 書	英和辞典。『ジーニアス英和辞典第3版』(大修館書店)を推奨しますが、すでに所持している辞書でも本講義で利用できる可能性があるので相談してください。			
履修上の留意点	毎時間課題プリントを配布するので次回授業時までに仕上げて提出してください。受講生の英語力に合わせて、基本的な文法も交えて授業進行しますが、主体性をもって取り組むようにしてください。			
実務経験のある教員				

授 業 科 目 名	人体構造機能学Ⅱ	英 文 科 目 名	Anatomy and Physiology Ⅱ	
担 当 教 員 名	百田 芳春		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単位・60 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-2	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人体の構造とその機能を理解し、疾病時における形態および機能的な変化を理解するための基礎として、人体を構成する基本単位の細胞と、その組み合わせの組織及び人体各部の構造機能について教授する。本講義は人体構造機能学Ⅰの履修後に連動して開講される。最終的な講義の目的は、人体の無意識に行われる植物性功能と、意識して行われる動物性功能を教授した上で、これら神経系・内分泌系の統率の下で、協調的にあるいは、拮抗的に全体として個体の維持および生存にとって合目的な人体の構造と機能を教授する。 [学修目標] 1. 内分泌系について説明できるようになる。 2. 栄養素及び体液の電解質の調節について内分泌系と関連して説明できるようになる。 3. 身体の重要な骨及び筋の名称と機能並びに、身体の基本的な動作と関連して説明できるようになる。 4. 中枢神経系及び末梢神経系の基本構造及びその役割を説明できるようになる。 5. 自律神経系機能の構造と、その機能に関して説明できるようになる。 6. 神経系の情報伝達の仕組みを組織学的及び機能的に説明できるようになる。 7. 感覚系及び皮膚感覚の構成と機能に関して説明できるようになる。 8. 特殊感覚について構造及び機能みを説明できるようになる。 9. 生殖器の構造と機能に関して説明できるようになる。 10. 生体防御系に関して説明できるようになる。 11. 加齢による身体の変化・生理機能の変化に関して説明できるようになる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	前期の振り返り：問題を解きながら		該当するページをあらかじめお知らせします。期間中に小テストを1回行います。	
第 2 回	前期の振り返り：問題を解きながら			
第 3 回	内分泌系 1: 概観			0.5 時間
第 4 回	内分泌系 2: 細胞内情報伝達とホルモン			0.5 時間
第 5 回	内分泌系 3: 視床下部－下垂体系ホルモン			0.5 時間
第 6 回	内分泌 4: 栄養素の代謝			0.5 時間
第 7 回	内分泌 5: 体液と電解質			0.5 時間
第 8 回	内分泌 6: 振り返り			0.5 時間
第 9 回	生殖系 1: 概観			0.5 時間
第 10 回	生殖系 2: 生殖器の構造			0.5 時間
第 11 回	生殖系 3: 性周期			0.5 時間
第 12 回	生殖系 4: 受精から着床と初期発生			0.5 時間
第 13 回	振り返り：問題を解きながら			0.5 時間
第 14 回	自律神経：概観			0.5 時間
第 15 回	自律神経：働き			0.5 時間
第 16 回	神経系：概観			0.5 時間
第 17 回	神経系：中枢神経			0.5 時間
第 18 回	神経系：中枢神経			0.5 時間
第 19 回	神経系：末梢神経			0.5 時間
第 20 回	神経系：末梢神経			0.5 時間
第 21 回	眼の構造と機能			0.5 時間
第 22 回	耳の構造と機能			0.5 時間
第 23 回	神経系：振り返り 問題を解きながら			0.5 時間
第 24 回	舌と鼻：味覚嗅覚について			0.5 時間
第 25 回	免疫系：概観			0.5 時間
第 26 回	免疫系：非特異的免疫と特異的免疫			0.5 時間
第 27 回	免疫系：振り返り 問題を解きながら			0.5 時間
第 28 回	加齢による身体機能の変化			0.5 時間
第 29 回	後期授業の振り返り 栄養素の異化同化			
第 30 回	後期授業の振り返り 問題を解きながら			
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (90%)、小テスト・課題等 (5%)、講義中の態度・出欠、振り返り等 (5%)			
課題のフィードバックの方法	小テスト、課題、振り返り等は、当日や次講義以降に復習・確認やフィードバックをする。			
テ キ ス ト	「人体の構造と機能1 解剖生理学」著：坂井建雄ら（医学書院）専門基礎分野			
参 考 図 書	「人体の正常機能と構造」著：坂井建夫ら（日本医事新報社）改訂第4版 「ガイトン生理学」石川義弘ら監修(エルゼビア) 原著第13版 「グレイ解剖学」塩田浩平ら(エルゼビア) 原著第4版			
履修上の留意点	人体構造機能学は病気や怪我、薬物の働き、栄養などを学ぶ上での基礎になります。目標は健康な体の構造や働き・仕組みを説明できるようになることです。			
実務経験のある教員				

授 業 科 目 名	生化学	英 文 科 目 名	Biochemistry	
担 当 教 員 名	芝崎 誠司、唐崎 美樹		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-3	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 体内での物質変化を代謝系の機能とともに解説し、栄養や臨床とのつながりについて解説する。 [学修目標] 1. 生体を構成する成分である糖・脂質・タンパク質の役割を理解する。 2. エネルギーの代謝とホメオスタシスについて学び、これらの異常がどのように疾患と関連するのかを理解する。 3. 遺伝情報の流れを学び、遺伝子の変異がもたらす疾患について理解を深める。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	生体の成り立ちと生体分子	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 2 回	タンパク質の性質	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 3 回	酵素の性質と働き	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 4 回	糖質の代謝1	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 5 回	糖質の代謝2	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 6 回	脂質の代謝1	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 7 回	脂質の代謝2	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 8 回	タンパク質の代謝	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 9 回	生化学的診断	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 10 回	ホルモン	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 11 回	遺伝子のはたらき1	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 12 回	遺伝子のはたらき2	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 13 回	遺伝子のはたらき3	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 14 回	病気と生化学	高等学校履修内容の復習		2 時間
第 15 回	まとめ	高等学校履修内容の復習		2 時間
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	出席と定期試験により成績評価する。適宜演習を行い評価に加える。 期末試験 (90%)、出席と演習 (10%)			
課題のフィード バックの方法	講義内で演習の解答、解説を行う。			
テ キ ス ト	「ここが知りたい 生化学～生命のふしぎを理解する～」芝崎誠司 (学術研究出版) 2019 年			
参 考 図 書	「Essential 細胞生物学 (原書第 4 版)」中村 桂子、松原 謙一 (南江堂) 2016 年			
履修上の留意点	双方向の講義を心がけますので、学生諸君の積極的な発言を期待します。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	病態治療学 I (総論)	英 文 科 目 名	Pathophysiology and Therapeutics I (General Theory)
担 当 教 員 名	川 口 哲 郎	実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義
カリキュラム記号	A-2-4	D P 記 号	DP-1
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護を学ぶにおいて基礎となる病理総論的な考え方を説明し、炎症、免疫、腫瘍、細胞・組織とその障害や再生と修復、循環障害、免疫とアレルギー、先天異常などの総括的病変について教授する。(病理病態論)。種々の症候とその機序および、それぞれの症候を呈する疾患を説明する。(病態症候論) [学修目標] 1. 病態に関する医学用語が正しく理解できる。 2. 看護の基盤となる、各疾患の病理の総論的なことが理解できる。 3. 種々の症候を説明でき、その原因疾患を列記できる。		
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	病理病態論 1. バイタルサイン 2. 体液の異常 3. 血行障害、炎症と修復 4. 免疫および免疫疾患 5. 感染 6. 変性・壊死・萎縮・老化、腫瘍と過形成 7. 先天異常、代謝異常 8. 代謝異常、前半テストと解説 レポート提出 病態症候論 9. 咳嗽・喀痰・喀血、呼吸困難、胸痛 10. 不整脈、チアノーゼ、ショック、腹痛、肥満、やせ、食欲不振、嘔下障害、 11. 嘔気・嘔吐、吐血・下血、便秘、下痢、腹部膨満、腹水、黄疸、貧血 12. 出血傾向、リンパ節腫脹、皮膚掻痒、レイノー症状、意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、運動失調 13. 歩行障害、嘔声、めまい、視力障害、難聴、耳鳴、味覚障害、感覚障害、しびれ、腰痛、関節症状、 14. 発熱・低体温、浮腫、脱水、排尿異常、尿量異常、尿所見異常、 15. 睡眠障害、倦怠感、後半テストと解説 レポート提出	授業の内容に該当するところをテキストと配布したレジメに目を通しておく。	各回ごとに 30～60分
学修評価の方法 (成績割合%)	出席状況、レポート提出状況、前半・後半テストの結果などを参考にすが、基本的に期末テストの結果で(100%の割合)成績評価を行う。 オンライン授業が行われた場合、レポート形式に変更になる可能性もある。		
課題のフィードバックの方法	授業中に小テスト(2回)を行い終了後に答え合わせと解説をする。 レポートは提出後に解答例を配布する。		
テ キ ス ト	ナーシング・グラフィカ 疾患の成り立ち① 病態生理学 メディカ出版		
参 考 図 書	系統看護学講座 疾患の成り立ちと回復の促進(1) 病理学 医学書院 看護のための臨床病態学 南山堂		
履修上の留意点	予め配布するレジメを中心に講義を進めますが、テキストも必ず授業に持参してください。		
実務経験のある教員	川口 哲郎(医師)		

授 業 科 目 名	食生活と看護	英 文 科 目 名	Diet and Nursing	
担 当 教 員 名	關戸 啓子、竹市 仁美		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-13	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 対象者の食生活や栄養状態をアセスメントし、適切な看護援助を提供するために必要な栄養学の基本知識について学習する。 [学修目標] 1. 5大栄養素の体内における役割と栄養学的意義を理解する。 2. 日本人の食事摂取基準の考え方と利用方法を理解する。 3. 栄養アセスメントの意義と方法を理解する。 4. 健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活を理解する。 5. 疾病回復のための食事療法についての根拠と方法を理解する。 6. 疾病予防・健康増進のための食事指導および食育の留意点と方法を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	栄養とは (1)：栄養と栄養素		各回、その時間に学習する授業の内容に該当するテキストのページを事前に読んでおいてください。 また、授業は前回の知識に積み上げていく内容ですから、前回学習した要点を自分でノート(A4サイズで1～2ページ)にまとめておいてください。	各回 90 分 程度
第 2 回	栄養とは (2)：栄養素の分類			
第 3 回	検査食、治療による回復を促すための食事			
第 4 回	経口摂取できない患者のための栄養管理			
第 5 回	日本人の食事摂取基準			
第 6 回	栄養アセスメント			
第 7 回	食文化			
第 8 回	人生各期における健康生活と栄養			
第 9 回	運動と栄養			
第 10 回	疾患を治療するための食事 (1)：消化器系疾患			
第 11 回	疾患を治療するための食事 (2)：内分泌、代謝疾患			
第 12 回	疾患を治療するための食事 (3)：循環器、腎疾患			
第 13 回	嚥下障害のある人のための食事			
第 14 回	食事指導・食育の実際			
第 15 回	まとめ			
学修評価の方法 (成績割合%)	授業の区切りで数回実施する小テストの結果(100%)で成績評価を行います。			
課題のフィードバックの方法	小テストを実施した次の回の授業で、フィードバックを行います。			
テ キ ス ト	關戸啓子編：ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進(4)臨床栄養学 第6版、メディカ出版 東あかね他編：社会・環境と健康 健康管理概論 第3版、講談社サイエンティフィク			
参 考 図 書	授業中に適宜紹介します。			
履修上の留意点	小テストについて授業の初回に説明します。小テストの日は特に欠席しないよう気を付けてください。			
実務経験のある教員				

授 業 科 目 名	福祉教育の本質	英 文 科 目 名	Essence of Socio & Lifelong Education	
担 当 教 員 名	松岡 広路		実 務 経 験	無
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-14	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 生涯にわたる教育や ESD（持続可能な開発のための教育）の中核として福祉教育・ボランティア学習の理論・実線の枠組みを概説しつつ、そこでの「学びの型（かた）」を体験するワークショップを実施する。 [学修目標] 福祉教育・ボランティア学習の現代的意義、目的、実践方法などを原理研究・事例分析を通して理解するとともに、ワークショップなどのアクティブラーニングを体験しつつ、福祉教育・ボランティア学習の実際を体験する。新しい教育のあり方を理解するようになる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	福祉教育・ボランティア学習の魅力			
第 2 回	生涯教育としての福祉教育 1	前回の復習		0.5H
第 3 回	生涯教育としての福祉教育 2	前回の復習		0.5H
第 4 回	脱学校論を基盤とする福祉教育・ボランティア学習	前回の復習		0.5H
第 5 回	被抑圧者の教育学とエンパワメント 1	前回の復習		0.5H
第 6 回	被抑圧者の教育学とエンパワメント 2	前回の復習		0.5H
第 7 回	ニューエイジング時代の福祉教育	前回の復習		0.5H
第 8 回	インクルーシヴ社会と福祉教育・ボランティア学習	前回の復習		0.5H
第 9 回	災害支援と福祉教育・ボランティア学習	前回の復習		0.5H
第 10 回	福祉教育づくりワークショップ 1	前回の復習		0.5H
第 11 回	福祉教育づくりワークショップ 2	前回の復習		0.5H
第 12 回	福祉教育づくりワークショップ 3	前回の復習		0.5H
第 13 回	ESD とボランティア 1	前回の復習		0.5H
第 14 回	ESD とボランティア 2	前回の復習		0.5H
第 15 回	総括討議	前回の復習		2H
学修評価の方法 (成績割合%)	毎回の授業のリフレクションペーパーと総括レポートによって評価する。 (概ね、優 30% 良 50% 可 20%を目安とする。)			
課題のフィード バックの方法	授業の冒頭でリフレクションシートへのコメントタイムを設けるとともに、第 15 回の授業で総括 レポートシェアリングワークショップを行う。			
テ キ ス ト	使用しない。			
参 考 図 書	フレイレ『被抑圧者の教育学』亜紀書房、2011 松岡広路『生涯学習論の探求』学分社、2006 など			
履修上の留意点	ワークショップ形式も採用するので、遅刻・欠席をしないように。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	基礎看護学Ⅱ-b (生活の援助技術)	英 文 科 目 名	Basic Nursing II-b (Assistive Technology for Daily Living)	
担 当 教 員 名	土 井 香		実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・60 時 間	授 業 形 態	講 義・演 習	
カリキュラム記号	B－3	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康障害を持つ対象の療養上のニーズについて理解を深め、安全で安楽に日常生活を送るための看護ケア技術の基本的知識と技術を学ぶ。 [学修目標] 1. 看護の対象の日常生活および治療を受ける上でのニーズについて理解する。 2. 対象にとっても看護者にとっても安全で安楽なADL看護ケア技術を実践するための知識と技術を習得する。 3. 看護ケア技術の学習を通して看護をめざす者としての態度を身につける。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	コースガイダンス、保助看法と看護が関わる問題		皮膚の構造と機能(解剖生理学)の復習	30 分
第 2 回	皮膚の清潔・入浴動作について、アセスメントの視点			
第 3・4 回	保清のための援助計画・実施・評価修正		清潔(入浴)動作の分析	90 分
第 5 回	看護診断:褥瘡リスク状態 アセスメントの視点と看護治療		排尿・排便のメカニズム	30 分
第 6 回	排泄および排泄動作について、アセスメントの視点			
第 7・8 回	排泄の援助に関する計画立案・実施・評価		排泄習慣の振り返りと観察	30 分
第 9 回	看護診断:腹圧性尿失禁 アセスメントの視点と看護治療		援助計画立案・修正	30 分
第 10 回	看護診断:便秘 アセスメントの視点と看護治療		移乗・移送に使用する物品の名称を覚える	30 分
第 11 回	活動・運動に関する基礎知識 骨・関節・筋肉			
第 12 回	活動・運動に関する看護の問題とアセスメントの視点		自分自身の睡眠パターンを振り返る	60 分
第 13・14 回	活動・運動に関する計画立案・実施・評価			
第 15 回	看護診断:不眠 アセスメントの視点と援助		自分自身のリラクゼーションの方法	30 分
第 16 回	リラクゼーションと看護			
第 17・18 回	リラクゼーションに向けた計画立案・実施・評価		既習の看護技術の復習	30 分
第 19 回	医療問題・看護診断・看護ケア問題と記録			
第 20・21 回	事例の提示 工夫・配慮した安全安楽な技術			
第 22・23 回	動画撮影・解説 プレゼンテーションの準備			
第 24・25 回	技術のプレゼンテーション①			
第 26・27 回	技術のプレゼンテーション②			
第 28・29 回	日常生活の援助 看護ケア問題について			
第 30 回	まとめ			
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	定期試験 (70%) 小テスト・課題・提出物 (20%) 技術のまとめ・参加状況 (10%)			
課題のフィードバックの方法	小テストは Google Classroom を使用。結果はすぐに各自に返却し講義時に解説する。 課題・提出物は提出後にフィードバックする。 看護技術演習終了後は全体へフィードバックする。			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 看護技術プラクティス (学研メディカル秀潤社)			
参 考 図 書	随時紹介する。			
履修上の留意点	授業時間だけでは技術習得は不可能 自己のスケジュール管理・空き時間の有効活用による計画的な技術習得への取り組みが不可欠である。やむを得ない事情以外は欠席を認めない。			
実務経験のある教員	土 井 香 (看護師)			

授 業 科 目 名	基礎看護学Ⅲ (診療の補助技術)	英 文 科 目 名	Basic Nursing III (Assistive Technology for medical care)	
担 当 教 員 名	土 井 香		実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-5	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康状態の向上や回復、障害を予防するために対象に行われている治療の必要性を理解し、診療の補助技術を安全に提供するための基礎知識と技術を身につける。 [学修目標] 1. 診断・治療過程にある看護の対象が治療を受ける上でのニーズについて理解する。 2. 健康状態を回復するために必要な診療の補助技術について、基本的知識と技術を学ぶ。 3. 安全かつ安楽な看護技術を実践するために、解剖生理学の知識と合わせて学ぶ。 4. 看護技術の学習を通して看護をめざす者としての態度を身につける。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	コースガイダンス 医療問題・看護診断・看護ケア問題について 感染予防の基礎知識 洗浄・消毒・滅菌		医療問題・看護診断・看護ケア問題について復習	30 分
第 2 回	演習:滅菌操作(滅菌手袋・ガウンテクニック)		滅菌手袋・無菌操作の確認	30 分
第 3 回	排尿のメカニズム		腎臓・尿管・膀胱・尿道の解剖と排尿のメカニズム	60 分
第 4 回	医療問題:尿閉に対する看護技術 一時的導尿		消化管の解剖と排便のメカニズム	60 分
第 5 回	一時的導尿の技術(含: 滅菌物の取り扱い)		薬物動態	30 分
第 6 回	排便のメカニズム、便秘について		薬剤の剤型と特徴	30 分
第 7 回	演習:医療問題:便秘に対する看護技術 浣腸		注射に使われる部位(皮下／筋肉)の解剖学的位置の確認	30 分
第 8 回	与薬に関する基礎知識 薬物動態 / 薬剤の管理		採血に使用する血管の確認	60 分
第 9 回	与薬に関する基礎知識 経口与薬・口腔内与薬他		発熱のメカニズムの復習	60 分
第 10 回	与薬に関する基礎知識 皮下注射・筋肉内注射		包帯材料の名称と使い方	30 分
第 11 回	与薬に関する基礎知識 静脈内注射 / 点滴管理		発熱時の観察計画	30 分
第 12 回	創傷処置:包帯法・ドレッシング剤の使い方			
第 13 回	罨法:発熱時のケア技術			
第 14 回	医療問題:インフルエンザによる発熱時の看護計画立案			
第 15 回	全体のふりかえり・まとめ			
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (70%) 技術のまとめ・小テスト・課題・提出物 (30%)			
課題のフィードバックの方法	技術のフィードバックは演習時に対面で実施する。小テストは遠隔教育システムを活用し、終了後は解答を返却・解説する。課題・提出物は提出後にコメントをつけて返却する。必要時、遠隔教育システムを活用し資料添付やフィードバックを行う。			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ、医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学、医学書院 看護技術プラクティス、学研秀潤社			
参 考 図 書	随時紹介する。			
履修上の留意点	自己のスケジュール管理、空き時間の有効活用、解剖生理学や薬理学と並行して計画的な自己学習が重要である。やむを得ない事情以外は欠席を認めない。			
実務経験のある教員	土井 香 (看護師)、奥津 文子 (看護師)			

授 業 科 目 名	看護学原論	英 文 科 目 名	Nursing Principles	
担 当 教 員 名	江川 隆子、小平 京子、下舞 紀美代		実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B-7	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護理論の講読を通して、看護の5概念について教授する。さらに、看護とは何か、看護の歴史、看護教育の歴史、看護理論の変遷、看護の哲学と倫理、看護をとり巻く医療行政および医療状況、また看護に対する社会のニーズなど多軸的な観点からも教授する。 [学修目標] 1. それぞれの看護理論の特徴を学ぶことができる。 2. 看護理論の現在の看護実践への影響について学ぶことができる。 3. 看護理論の講読や討論を通して、看護観とは何かを学ぶことができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	看護理論の読み方について① 看護理論の読み方について② 看護理論について ナイチンゲールの看護論を通して① 同上② 看護理論について ヘンダーソンの看護論を通して① 同上② 看護理論について オレムの看護論を通して① 同上② 同上③ 看護理論について ロイの看護論を通して① 同上② 同上③ 同上④ 看護理論の現在の看護への影響について まとめ		各回事前のテキスト講読 配布資料の復習	各回 60 分
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	筆記試験 (80%) レポート (20%)			
課題のフィード バックの方法	個別指導			
テ キ ス ト	看護の基本となるもの (日本看護協会出版会) V. ヘンダーソン著／湯楨ます他 訳 (2012) フロレンス・ナイチンゲール看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 (日本看護協会出版会) 小玉香津子・尾田葉子訳 (2014) オレム看護論入門ーセルフケア不足看護理論へのアプローチ (医学書院) コニー・M・デニス 著／小野寺杜紀 監訳 (2012) ロイ適応看護論入門 (医学書院) ヒーサー A. アンドリュース シスター C. ロイ著／松本光子 監訳 (2010)			
参 考 図 書	・看護学概論 看護迫及へのアプローチライダー (医歯薬出版) 島崎玲子他編著 (2013)			
履修上の留意点	各看護理論に関わる用語については、自らテキスト・資料で確認し理解を深めること			
実務経験のある教 員	江川 隆子 (看護師)、小平 京子 (看護師)、下舞 紀美代 (看護師)			

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅰ（概論）	英 文 科 目 名	Adult NursingⅠ（Introduction）	
担 当 教 員 名	神谷 千鶴		実 務 経 験	有
履 修 年 次	1 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－19	D P 記 号	DP－2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 成人期にある人を全人的（身体・心理・社会的な統合体）にとらえ、生活者としての健康の維持・破綻・回復過程における特性及び健康問題の特徴の理解を図り、看護を実践するための理論的知識を学習する。 [学修目標] 1. 成人看護の対象である成人を、成長・発達の視点から理解する。 2. 成人期にある人の家族および社会における役割とともに、成人の健康・福祉に係る法律・制度・政策について理解する。 3. 成人の健康のとらえ方と健康障害の特性を理解する。 4. 成人看護の目標および役割と機能を理解する。 5. 健康障害によって生じる成人の反応や現象を説明する理論やモデルを理解し、健康レベルに応じた看護実践の考え方を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	成人看護の目標（成人とは、成人期の特徴） 成人をとりまく今日の状況：家族・仕事・日常生活・環境問題・死生観 成人期にある人の健康（健康とは、成人保健と今日の健康動向、保健・医療・福祉政策と今日の健康課題） 成人期にある人の健康（生活習慣・職業・生活ストレス・セクシャリティ・更年期に関連する健康障害） 成人期にある人を看護するための基本的な考え方・成人の反応や現象を説明する理論やモデルの理解（ケアリング、エンパワメント、パートナーシップ、ストレスコーピング、危機、セルフケア、セルフエフィカシー、アンドラゴジー） 健康状態に応じた看護（ヘルスプロモーション、生活機能障害、急性期、慢性期、終末期） 成人看護を充実させる実践的環境看護者の倫理綱領		教科書の当該ページを読んでもくる。（全回）	各 30 分
学修評価の方法 (成績割合%)	筆記試験（60%）・レポート課題（30%）・小テスト（10%）			
課題のフィードバックの方法	小テストはその時間のうちに解答解説を行う。レポート課題については評価指標に基づき点数化し、個別に返却を行う。筆記試験は後日解答解説の時間を設ける。			
テ キ ス ト	林直子他編集（2020）：成人看護学概論（改訂第3版）、南江堂、東京			
参 考 図 書	基礎看護学概論、看護学原論で使用したテキストおよび資料			
履修上の留意点	小テストは適宜、授業時間内で Google classroom から解答してもらうので、通信環境を整えておくこと			
実務経験のある教員	神谷 千鶴（看護師）			

【2学年】

授 業 科 目 名	人文教養特別講義Ⅱ (自然と文化②)	英 文 科 目 名	Special Lectures on Humanities Ⅱ (Japanese Nature and Culture2)	
担 当 教 員 名	栗 井 光 代		実 務 経 験	無
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－13	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 将来専門職を目指すものにとって人間としての、あるいは社会人としての教養は自らの専門職を深めるためにも、また専門職であるが故に陥りがちな視野狭窄から免れるためにも、きわめて重要である。この科目では、「自然と文化」という大枠の中から、必ずしも看護と直接関係しない任意のテーマ（例えば政治、社会、言語、歴史、人間、科学、生命、物質）を講義する。人文教養特別講義Ⅰでは主として「文化」に関わるテーマを、人文教養特別講義Ⅱでは主として「自然」に関わるテーマを選ぶ。 [学修目標] 1. 自然と文学について学ぶ意義を理解できる。 2. 自然と文学について基本的な概念を理解できる。 3. 文学を通して、文化、社会、歴史についての理解を深め、国語力を培う。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回	ガイダンス・文学とは 文学から自然を見る（1） 文学から自然を見る（2） 文学から命を考える（1） 文学から命を考える（2） 文学から自然現象を知る（1） 文学から自然現象を知る（2） まとめ		授業ごとに予習・復習の内容を説明します。授業後に課題を出して、理解度を確認します。次回扱う資料(作品等)を読み、理解しておくこと、授業後には講義ノートを整理、まとめることを確認します。	各回 30 分 から 60 分 程度
学修評価の方法 (成績割合%)	出席状況（25%）、受講態度（25%）、課題・レポート（50%）をあわせて総合的に評価する。			
課題のフィードバックの方法	講義の中で説明する。参考資料を配布する。個別に指導する。			
テ キ ス ト	授業の中で適宜プリントを配布する。配布プリントはテキストに相当するものとして、使用する ので、必ず毎回きちんと整理して持参すること。			
参 考 図 書	適宜紹介する			
履修上の留意点	文学作品、作者への理解を通して、速読力・読解力を身につけるとともに、論理的に書く 力や目的に応じて書く能力の育成をめざす。また、文学が日々の生活を豊かにすることを学ぶ。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	法と人権	英 文 科 目 名	Law and Human Rights	
担 当 教 員 名	白 鳥 義 彦		実 務 経 験	無
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－1－14	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 近代的な人権思想が成立してきた背景や展開の過程を概観した上で、立憲主義の考え方を踏まえながら、日本国憲法の主要原理である国民主権・平和主義・基本的人権の尊重を中心に教授する。さらに憲法に定められる統治機構（内閣、国会、裁判所）についても考察する。 [学修目標] 看護者として、またそれ以前に人間として必要不可欠な、人権の知識と人権感覚を身につけるために、憲法ならびに国際的な諸法規が保障する人権の歴史的展開や内容やその意義、社会的に不利な立場の人々が直面する人権問題について、具体例を交えて解説し、法と人権との関わりという観点から現実をとらえる視点を得ること、また人権を保障するための制度としての統治機構についての基本的な知識を得ることを目的とする。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	Q&A 暮らしの中の人権問題		具体例から人権を考える	
第 2 回	人権の履歴書－人権思想のあゆみ（1）		人権の歴史的展開を学ぶ	
第 3 回	人権の履歴書－人権思想のあゆみ（2）		人権の歴史的展開を学ぶ	
第 4 回	人権の履歴書－人権思想のあゆみ（3）		人権の歴史的展開を学ぶ	
第 5 回	人権思想の現代的な展開（1）		人権の現代的展開を学ぶ	
第 6 回	人権思想の現代的な展開（2）		人権の現代的展開を学ぶ	
第 7 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表（1）		（第7回～第9回）グループ	
第 8 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表（2）		発表の準備と、他のグループ	
第 9 回	法と人権の諸問題に関するグループ発表（3）		の発表内容の復習	
第 10 回	国際機関と人権		人権への国際機関の役割	
第 11 回	憲法と人権		人権に対する憲法の役割	
第 12 回	統治機構－歴史的、国際的な考察		統治機構の概要を学ぶ	
第 13 回	統治機構－内閣		特に内閣について学ぶ	
第 14 回	統治機構－国会		特に国会について学ぶ	
第 15 回	統治機構－裁判所		特に裁判所について学ぶ	
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	各授業後のコメント（10%）、グループ発表（20%）、テスト（70%）			
課題のフィード バックの方法	各授業後のコメントに対しては、次の授業時に重要なものを取り上げてフィードバックする。 グループ発表に対しては、授業の中で発表後にフィードバックする。			
テ キ ス ト	通常の授業はプリントを配布して行う。			
参 考 図 書	樋口陽一著『一語の辞典 人権』三省堂 渋谷秀樹・赤坂正浩『憲法1人権』、『憲法2統治』有斐閣			
履修上の留意点	具体的な事例とも関連づけながら授業を進めたいと思いますので、ニュース等にも幅広く関心を持ってください。人権を自らの問題と感じられるよう、楽しく授業を進めていきたいと思います。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	病態治療学Ⅱ	英 文 科 目 名	Pathophysiology and Therapeutics II	
担 当 教 員 名	川口 哲郎		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・60 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-5	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護を学ぶにおいて必要な各臓器の代表的な内科的疾患について、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて学ぶ。循環器系、呼吸器系、腎・泌尿器系、消化器系、肝・胆道系、代謝系、内分泌系、血液系、免疫・アレルギー系、神経・筋肉疾患系に分類して教授する。 [学修目標] 1. 看護学を勉強する上で、臨床医学の基礎知識が理解できる。 2. 代表的な内科的疾患の定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法及び予後についての内容が理解できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第1回 第2回 第3回 第4回 第5回 第6回 第7回 第8回 第9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回 第16回 第17回 第18回 第19回 第20回 第21回 第22回 第23回 第24回 第25回 第26回 第27回 第28回 第29回 第30回	第1～4回. 呼吸器疾患 第5～9回. 循環器疾患 第10～11回. 腎・泌尿器疾患 第12～16回. 消化器疾患、肝・胆道・脾疾患 第17～18回. 内分泌疾患 第19～20回. 代謝疾患(糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症など) 第21～23回. 血液・造血器疾患 第24～25回. アレルギー・自己免疫疾患 第26～30回. 神経・筋疾患 各項目ごとに記述問題を課し解答をレポートとして提出、さらに数項目終了後に小テスト(4回を予定)を行い、知識を深める。		授業の内容に該当するところをテキストと配布したレジメに目を通しておく。	各回ごとに30～60分
学修評価の方法 (成績割合%)	出席状況、レポート提出状況、小テストの結果などを参考にすが、基本的に期末テストの結果で(100%の割合)成績評価を行う。ただし、登校規制などによりオンライン授業が行われた場合、小テスト、期末テストはレポート形式などに変更になる可能性もある。			
課題のフィードバックの方法	授業中に小テスト(4回)を行い終了後に答え合わせと解説をする。各項目ごとのレポートは提出後、解答例を配布する。			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [2～15]			
参 考 図 書	ナーシング・グラフィカ イーエックス 2 疾病と治療 メディカ出版 新体系看護学全書 疾患の成り立ちと回復の促進(第4巻～13巻) メヂカルフレンド社			
履修上の留意点	予め配布するレジメを中心に講義を進めますが、テキストも必ず授業に持参してください。			
実務経験のある教員	川口 哲郎(医師)			

授 業 科 目 名	病態治療学Ⅲ	英 文 科 目 名	Pathophysiology and Therapeutics Ⅲ	
担 当 教 員 名	川口 哲郎、百田 芳春、浦浜 憲永 松井 祥治、蘭 潤、藤岡 政行		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-16	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 外科的治療を成功に導く諸因子の中で看護の果たす役割は大きい。ここでは主に外科に関する臨床看護学に必要な知識と技術、考え方や理念を学ぶ。また、各臓器の代表的な疾患について、病因、病理、病態および外科的治療法を学ぶ。 [学修目標] 総論（外科看護の基礎）として、周術期（術前・術中・術後）の看護に必要な知識、技術、考え方を学ぶ。各論として、頭部および頸部、肺および胸部、心臓および脈管系、消化器および腹部、脳神経系、運動器系など各臓器の疾患の外科的治療法について学ぶ。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	1. 外科診断、外科治療の基本的な考え方 2. 腫瘍、外傷、熱傷 3. 麻酔法、輸血療法、体液・栄養管理 4. 放射線診療 5. 呼吸管理（酸素療法と機械的人工換気） 6. 緩和治療 7. 外傷とショック 8. 救急処置法 9. 災害医療 10. 外科的処置が必要な疾患（病態と基礎及び治療の実態） 11. 外科的処置が必要な疾患（各論）①消化器及び腹部 12. 外科的処置が必要な疾患（各論）②頭頸部および運動器 13. 外科的処置が必要な疾患（各論）③脳及び神経 14. 外科的処置が必要な疾患（各論）④肺及び胸部 15. 外科的処置が必要な疾患（各論）⑤心臓及び脈管系		授業の内容に該当するところをテキストと配布したレジメに目を通しておく。	各回ごとに 30～60分
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	出席状況などを参考にして、期末テストの結果を中心に（90%以上の割合）成績評価を行う。 ただし、登校規制などによりオンライン授業が行われた場合、期末テストはレポート形式などに変更になる可能性もある。			
課題のフィードバックの方法	レポートは提出後、解答例を配布する。			
テ キ ス ト	系統看護学講座 臨床外科看護総論および各論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
参 考 図 書	新体系看護学 別巻 臨床外科看護学Ⅰ・Ⅱ メヂカルフレンド社、 スタンダードテキストブック 標準外科学 医学書院、ナースの外科学 改定4版 中外医学社			
履修上の留意点	構造機能学、病態治療学Ⅰ、Ⅱで習得した知識を基礎に、外科疾患の病態を理解し、なぜそういう治療をするのか、なぜそういう看護をするのか、の因果関係を十分に理解し、身につけることが大切です。			
実務経験のある教員	川口 哲郎（医師）、浦浜 憲永（医師）、松井 祥治（医師） 蘭 潤（医師）、藤岡 政行（医師）			

授 業 科 目 名	生命と倫理	英 文 科 目 名	Bioethics	
担 当 教 員 名	山本 道雄		実 務 経 験	無
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-7	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護の臨床で求められる倫理の前提にある諸問題を、下の「授業内容」に見られる様に、倫理学の原理的次元から順を追って学びます。 [学修目標] マニュアル的に倫理を理解するのではなく、倫理の背景にある原理や歴史にまで理解を深めるのがこの講義の目的です。いささか抽象的で原理的な議論もありますが、辛抱して下さい。問題意識さえあれば、将来必ず役に立ちます。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	倫理の規範としてのメタ倫理 規範倫理 義務倫理 功利主義 (1) 功利主義 (2) 徳倫理 応用倫理としてのバイオエクス (1) 応用倫理としてのバイオエクス (2) 現代バイオエクスの歴史 (1) 現代バイオエクスの歴史 (2) 看護倫理 患者の権利という思想 (1) 患者の権利という思想 (2) インフォームドコンセント 終末期医療の問題	指示した文献をよく読んでくること		1時間程度
学修評価の方法 (成績割合%)	成績は定期試験と Google Meet の「質問」に対する「回答」の双方で判定。 この「回答」でもって出席と見なす。			
課題のフィード バックの方法	Google Classroom を利用して理解度を判定しながら進める。			
テ キ ス ト	特にない			
参 考 図 書	小林編「医療倫理 1」、勁草書房			
履修上の留意点	Google Meet の「質問」にしっかり応えてください。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	公衆衛生学	英 文 科 目 名	Public Health
担 当 教 員 名	西村 由実子	実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前期	必 修 / 選 択	必 修
単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講 義
カリキュラム記号	A-2-8	D P 記 号	DP-3
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人々が疾病を予防し健康を維持・促進するには、そのための仕組みや環境が必要である。視点を個人から集団、組織、地域社会、国、地球へと広げ、公衆衛生学の基礎を学ぶ。基本的な概念や歴史をおさえた上で、集団を把握し人々にアプローチするための方法を学び、多様な健康課題に実践的に取り組む態度と姿勢を身につける。 [学修目標] 1. 公衆衛生の基本理念を理解し具体的事例と関連させて説明できる。 2. 健康指標と行動理論の意味を理解し活用できる。 3. 学校や職場などの特性と健康課題を理解し説明できる。 4. 地球規模の諸課題を理解し説明できる。		
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	公衆衛生の概念と歴史	テキスト第1章通読	30 分
第 2 回	日本の地域保健活動の歩み	テキスト第3、8章通読	30 分
第 3 回	健康指標と疫学 (1)	テキスト第2章通読	30 分
第 4 回	健康指標と疫学 (2)	テキスト第4章通読	30 分
第 5 回	健康教育と行動理論	テキスト第8章通読	30 分
第 6 回	学校保健と産業保健	テキスト第9、10章通読	30 分
第 7 回	地球環境と国際保健	テキスト第5、7章通読	30 分
第 8 回	感染症・まとめ	テキスト第6、11章通読	30 分
学修評価の方法 (成績割合%)	授業参加 (24%)、課題レポート (26%)、定期試験 (50%)		
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板および返却物を通じて、個別フィードバックと全体への講評を行う。		
テ キ ス ト	「系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生」 神馬征峰ら著 (医学書院) 最新版		
参 考 図 書	「ナースング・グラフィカー健康支援と社会保障①健康と社会・生活」平野かよ子ら編 (メディカ出版) 最新版		
履修上の留意点	履修希望者は第 1 回のガイダンスに必ず出席してください。俯瞰的な視野を持ち、ワークを交えて実践的に学びましょう。テキストは 2 年後期の保健医療福祉行政論 I でも使います。		
実務経験のある 教 員	西村 由実子 (WHO 勤務)		

授 業 科 目 名	薬理学 I（総論）	英 文 科 目 名	Pharmacology I（General）	
担 当 教 員 名	百田 芳春		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－2－9	D P 記 号	DP－2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 薬理学は様々な科学的分野と関連しながら、化学物質が生体に機能を調整し正常水準に戻す役割がある。本科目では、薬物全般の人体への作用様式、薬物の形状、薬物の細胞レベルでの応答について学ぶ。 [学修目標] 薬物と受容体、細胞内情報伝達機構、薬物の体内動態、有害作用・副作用、薬物の投与方法、薬物の形状について説明できるようになる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	薬理学とは何か・薬物療法の目的 薬理作用と作用機序 副作用と有害作用 薬害事件 薬物相互作用・中毒 薬物療法に影響を与える因子 薬物輸送システム 医薬品の開発と医薬品の安全な使用 小児、妊婦、高齢者の薬物療法・薬物の管理保管など 薬理作用の考え方【自律神経作動薬を例に】 薬理作用の考え方【自律神経作動薬を例に】 ウイルス感染症 漢方薬の治療薬 漢方薬の治療薬 振り返り		テキストの該当する項目を概観する。 期間中に小テストを2回行います。小テストの実施日はあらかじめ2週間前に知らせます。	各 回 と も 30 分 程 度
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	授業参加度（5%）、期末試験（85%）、小テスト（10%）			
課 題 の フ ィ ー ド バ ッ ク の 方 法	Google Classroom を用いて授業資料、課題、小テスト とその結果を配信する。			
テ キ ス ト	「わかりやすい薬理学」著：安原一・小口勝司（ノーベルヒロカワ）第3版			
参 考 図 書	その都度紹介する			
履修上の留意点	薬の保管方法や、投与方法、薬物動態など主に薬学の基本事項を学び、臨床での薬物との接し方の基本を履修する。			
実務経験のある教員	百田 芳春			

授 業 科 目 名	病態心理学	英 文 科 目 名	Pathopsychology	
担 当 教 員 名	花村 カテリーナ		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-15	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 病気になると人は様々な心理的变化を体験する。そこにはいくつかの共通傾向がみられる。それらを理解するために、患者の心理と行動の一般的特徴や、それぞれの疾病に特有の心の状態（感情・考え・行動）について具体的な事例を紹介しながら教授する。 [学修目標] 1. 病に対する人間の精神的反応（心理のプロセス）を理解する。 2. 次にあげる様々な状態、および、健康障害に特徴的な心の状態と望ましい関わり方を理解する。 ① 糖尿病、がん ② ストレスによる健康障害 ③うつ（気分障害） ④摂食障害 ⑤ 神経症性障害 ⑥ 様々な依存症 ⑦ 神経発達障害 ⑧ 小児・思春期・成人・老年期の心の不適応 ⑨ 性別違和と LGBTQ+ 3. 患者の家族に生じる心理的・社会的変化を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス。心理学の観点から捉える「病」		講義資料の復習	各 回 と も 30 分 程 度
第 2 回	患者になることによって生じる心理的变化		授業後、小テスト①	
第 3 回	疾病の心理特性 1 糖尿病とがん		授業後、課題①	
第 4 回	疾病の心理特性 2 ストレス反応と健康障害		授業後、課題②	
第 5 回	疾病の心理特性 3 うつ		授業後、小テスト②	
第 6 回	疾病の心理特性 4 摂食障害		授業後、課題③	
第 7 回	疾病の心理特性 5 神経症性障害		授業後、課題④	
第 8 回	疾病の心理特性 6 様々な依存症		授業後、小テスト③	
第 9 回	神経発達障害		授業後、課題⑤	
第 10 回	子どもの心と不適応		授業後、小テスト④	
第 11 回	思春期・青年期の心と不適応		授業後、課題⑥	
第 12 回	性別違和と LGBTQ+		授業後、小テスト⑤	
第 13 回	加齢に伴う心の変化と不適応		授業後、課題⑦	
第 14 回	患者の家族に生じる心理的变化		授業後、小テスト⑥	
第 15 回	患者による暴力行為の理解、対応、予防		授業後、小テスト⑦	
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	授業参加度（20%）、課題（40%）、小テスト（40%）			
課題のフィードバックの方法	Google Classroom を用いて授業資料、課題、小テストとその結果を配信する。			
テ キ ス ト	プリントを配布する。			
参 考 図 書	その都度紹介する			
履修上の留意点	授業の最後に出される課題または小テストに取り組むことで、講義の内容の理解がスムーズになります。いずれも締め切りを厳守してください。			
実務経験のある教員	花村 カテリーナ（臨床心理士、公認心理師）			

授 業 科 目 名	社会保障と社会福祉	英 文 科 目 名	Social Security and Social welfare	
担 当 教 員 名	西村 由実子、池田 英生、丹野 康之		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－2－16	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 社会保障と社会福祉の歴史と基本的な考え方を学び、現代の我が国における意義と課題を理解する。特に、人々の健康と生活の支援に必要な保健・医療・福祉の諸制度について、法的基盤や行政の仕組みなどの実践体系を含めて理解を深める。 [学修目標] 1. 社会保障と社会福祉の歴史と基本的な考え方を理解する 2. 実践において必要な社会保障と社会福祉の諸制度に関する基本的知識を習得する 3. 医療従事者として人々の社会生活全体を関連づけて関わる態度を身につける			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	ガイダンス / 社会保障・社会福祉とは	第1章・第6章		30 分
第 2 回	社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	第2章・第9章		30 分
第 3 回	障害者福祉	第7章 B		30 分
第 4 回	児童家庭福祉	第7章 C		30 分
第 5 回	社会保険制度	第3章・第5章		30 分
第 6 回	介護保険制度の概要	第4章・第7章 A		30 分
第 7 回	地域包括ケアと地域共生社会への取組み	第8章		30 分
第 8 回	地域における医療と福祉の連携	第8章		30 分
学修評価の方法 (成績割合%)	授業参加 (24%)、課題レポート (16%)、定期試験 (60%)			
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板および返却物を通じて、個別フィードバックと全体への講評を行う。			
テ キ ス ト	「系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉」福田素生ら著 (医学書院) 最新版			
参 考 図 書	「ナースング・グラフィカ・健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障」増田雅暢ら編 (メディカ出版) 最新版			
履修上の留意点	生活者としての基本知識であり看護師国家試験にも頻出なのでしっかり学びましょう。テキストは、2年後期の保健医療福祉行政論 I でも使います。			
実務経験のある 教 員	池田 英生 (社会福祉士・介護支援専門員) 丹野 康之 (社会福祉士・介護支援専門員・介護福祉士)			

授 業 科 目 名	医療と経済	英 文 科 目 名	Health Care and Economics	
担 当 教 員 名	永合 位行		実 務 経 験	無
履 修 年 次	2 年 前期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-17	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療を取り巻く問題を考えるにあたっては、経済学的な視点も持つ必要があります。授業では、前半で経済学の基本的な考え方を学び、後半でそれを用いて医療の諸問題を考えます。			
	[学修目標] まず、経済学の基本的な考え方やツールをしっかりと理解します。その上で、医療を取り巻く諸問題を経済学的な視点に立って見ていくことで、それらの諸問題の深い理解へとつなげていくことを目指します。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	授業概要と経済学的視点の必要性の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 2 回	経済学の基本的な考え方の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 3 回	市場の機能（1）：需要についての説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 4 回	市場の機能（2）：供給についての説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 5 回	市場の機能（3）：市場と効率性の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 6 回	医療サービスの性質の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 7 回	医療サービスの性質の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 8 回	医療情報の非対称性の問題の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 9 回	医療情報の非対称性の問題の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 10 回	医療保障制度の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 11 回	医療保障制度の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 12 回	国民医療費の問題の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 13 回	国民医療費の問題の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 14 回	医療供給体制の問題の説明	復習と小テストの準備		1 時間
第 15 回	医療供給体制の問題の説明	復習と期末試験の準備		7 時間
学修評価の方法 (成績割合%)	小テスト（30%）、定期試験（70%）			
課題のフィード バックの方法	各回の最初に小テストの答え合わせを実施する。			
テ キ ス ト	使用しません（毎回、資料を配布します）。			
参 考 図 書	『医療の経済学第 4 版』（2006 年）（日本評論社）河口洋行（2020 年）、 『入門医療経済学』（中公新書）真野俊樹			
履修上の留意点	毎回、授業の最後に前回授業の内容に関する小テストを実施します。毎回、欠かさず復習をし、理解を深めることが求められます。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	基礎看護学Ⅳ (フィジカルアセスメントの技術)	英 文 科 目 名	Basic Nursing IV (Physical Assessment)	
担 当 教 員 名	奥津 文子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・45 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-5	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 臨床における看護判断の根拠となる身体に関する情報の必要性和その意味について理解し、身体アセスメントの知識と技術について学ぶ。 [学修目標] 看護過程のアセスメント段階における情報収集の目的と意義、方法を学ぶ。 また、フィジカルアセスメントの目的と方法を理解し、身体各部の基本的なアセスメントに必要なフィジカルアセスメントの技術を習得する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	コースガイダンス フィジカルアセスメントとは	フィジカルアセスメントの目的・	30 分	
第 2 回	フィジカルアセスメントの目的と方法、基本技術	技術・方法		
第 3 回	フィジカルアセスメント①頭頸部・皮膚・爪	自分自身の頭頸部・皮膚・爪を	30 分	
第 4 回	フィジカルアセスメント②胸腹部	フィジカルアセスメントする		
第 5 回	フィジカルアセスメント③筋・骨格・神経系	家族・友人の胸腹部をフィジカ	30 分	
第 6 回	フィジカルアセスメント技術の練習①	ルアセスメントする	30 分	
第 7 回	フィジカルアセスメント技術の練習②	家族・友人の金・骨格・神経系		
第 8 回	フィジカルアセスメント技術の練習③	をフィジカルアセスメントする		
第 9～14 回	フィジカルアセスメント技術のチェック	フィジカルアセスメント技術を	60 分	
第 15 回	模擬患者に対するフィジカルアセスメント①	繰り返し練習する		
第 16 回	模擬患者に対するフィジカルアセスメント①	全身をフィジカルアセスメントす	30 分	
第 17 回	模擬患者に対するフィジカルアセスメント②	る場合の効率的な手順につい		
第 18 回	模擬患者に対するフィジカルアセスメント②	て検討		
第 19 回	模擬患者に対するフィジカルアセスメント②	フィジカルアセスメント実施時	30 分	
第 20 回	模擬患者に対するフィジカルアセスメント③	の声掛け・配慮について		
第 21 回	模擬患者に対するフィジカルアセスメント③	異常が見られた際に考えられる		
第 22 回	まとめ	疾患・状態	60 分	
学修評価の方法 (成績割合%)	技術チェック (30%) 定期試験 (70%)			
課題のフィード バックの方法				
テ キ ス ト	小野田千恵子監；実践フィジカルアセスメント、金原出版			
参 考 図 書	随時提示する。			
履修上の留意点	やむを得ない事情(体調不良時は診断書を提出) 以外の欠席は認めない。			
実務経験のある 教 員	奥津 文子(看護師)			

授 業 科 目 名	基礎看護学Ⅴ(問題解決技法)	英 文 科 目 名	Basic Nursing V (Problem Solving Techniques)	
担 当 教 員 名	奥津 文子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-6	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 対象を統合体として把握し、看護問題を抽出する思考過程と、看護問題を解決するための計画・実践・評価のプロセスについて学ぶ。 [学修目標] 1. 看護師が科学的に看護実践するための思考過程である看護過程について学ぶ。 2. 看護診断過程のそれぞれの段階について学ぶ。 3. 看護診断過程の展開および看護計画の実際について学ぶ。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	コースガイダンス 看護診断過程	テキスト(特に「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」を熟読してくる		1 時間
第 2 回	看護診断過程 情報収集 情報の整理 解釈 総合	情報をデータベースにク		
第 3 回	看護診断過程 ステップ 問題の統合	ラスターごとにまとめる		
第 4 回	看護診断過程 成果の設定と看護計画	データベースの情報を整		
第 5 回	診断過程の実際(事例展開) 情報収集	理する		30 分
第 6 回	診断過程の実際(事例展開) 情報の整理	解釈・総合をやってみる		30 分
第 7 回	診断過程の実際(事例展開) 解釈 総合	ステップ1・2・3・4を		1 時間
第 8 回	診断過程の実際(事例展開) ステップ1、2	やってみる		1 時間
第 9 回	診断過程の実際(事例展開) ステップ3、4	疑問点の整理		
第 10 回	発表 Discussion、質問タイム	成果・目標を立案		20 分
第 11 回	診断過程の実際(事例展開) 問題の統合	看護計画を立案		1 時間
第 12 回	診断過程の実際(事例展開) 成果・目標の設定	疑問点の整理		1 時間
第 13 回	診断過程の実際(事例展開) 看護計画立案			
第 14 回	診断過程の実際(事例展開) 看護計画立案			
第 15 回	発表 Discussion、質問タイム			20 分
学修評価の方法 (成績割合%)	中間試験(40%)、定期試験(60%)			
課題のフィード バックの方法	提出課題へのコメントおよび授業の中で解説する			
テ キ ス ト	江川隆子; ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、ヌーベルヒロカワ			
参 考 図 書	江川隆子; かみくだき看護診断過程、日総研			
履修上の留意点	無断欠席は認めない。授業時間だけでは看護診断過程の理解・習得は不可能であり、主体的・積極的に学習に取り組むことが必要不可欠である。			
実務経験のある 教 員	奥津 文子(看護師)			

授 業 科 目 名	看護診断学Ⅰ	英 文 科 目 名	Nursing DiagnosisⅠ	
担 当 教 員 名	江川 隆子、笠岡 和子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1単位・30時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－8	D P 記 号	DP－2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護診断の歴史、看護診断の背景となる諸理論と関係、および看護診断の意義や意味について教授する。さらに、臨床でよく用いられる看護診断とそのアセスメント、それぞれの看護診断について教授する。 [学修目標] 1. 看護診断の概念を学ぶことができる。 2. 看護診断の背景になっている諸理論とその関係について学ぶことができる。 3. アセスメントおよび看護治療（看護援助）、評価との関係について学ぶことができる。 4. 看護診断含め看護援助の範囲を学ぶことができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	看護の法と定義		各回 事前のテキストの講読 配布資料の復習	各回 30 分
第 2 回	看護診断の歴史的背景			
第 3 回	看護過程と看護診断			
第 4 回	看護診断概念とその背景となる理論①			
第 5 回	看護診断概念とその背景となる理論②			
第 6 回	看護診断概念とその背景となる理論③			
第 7 回	看護診断概念とその背景となる理論④			
第 8 回	看護診断概念とその背景となる理論⑤			
第 9 回	看護診断過程①(病態の理解)			
第 10 回	看護診断過程②(情報収集)			
第 11 回	看護診断過程③(アセスメント)			
第 12 回	看護診断過程④(看護診断と成果の関係)			
第 13 回	看護診断過程⑤(成果と計画の関係)			
第 14 回	看護診断過程⑥(評価)			
第 15 回	看護実践と看護記録			
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	定期試験（100%）			
課題のフィード バックの方法	必要な学生に対して個別に対応する。			
テ キ ス ト	これなら使える看護診断、コンパクト新版、(医学書院) 江川隆子編（2013） これなら使える看護介入、(医学書院) 江川隆子編（2010） ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、(ヌーベルヒロカワ)江川隆子編(第6版) かみくだき看護診断過程(日総研出版)江川隆子/笠岡和子			
参 考 図 書	日本看護診断学会監訳：NANDA-I 看護診断定義と分類、医学書院（大学で購入した本。卒業生が使用した本を利用する。）			
履修上の留意点	授業の内容に沿って、教科書を必ず読んでくる。			
実務経験のある教員	江川 隆子（看護師）、笠岡 和子（看護師）			

授 業 科 目 名	地域看護学Ⅰ（概論）	英 文 科 目 名	Community Health NursingⅠ （Introduction）	
担 当 教 員 名	伊 木 智 子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－11	D P 記 号	DP－3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 人々の「暮らし」の拠点としての「地域」について学び、「健康」とのつながりを理解する。地域に暮らす人々について理解を深めるとともに、健康に関するデータを読み解き、生活習慣と健康課題、地域の文化について理解する。 [学修目標] 1. 人々の「暮らし」について理解することができる。 2. 「暮らし」の拠点としての「地域」を理解することができる。 3. 健康に関するデータを読み解き生活習慣と健康課題、地域の文化について理解できる。 4. 地域で暮らす人々について理解を深め、看護の役割を考えることができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	人々の「暮らし」の理解、「暮らし」と健康	教科書	p32－38	1～2 時間 程度
第 2 ～ 3 回	「暮らし」の基盤としての「地域」理解 地域で暮らす人々の理解	教科書	P25－29ワークシート p58－75	
第 4 ～ 5 回	さまざまな在宅療養者の理解 （思い、健康レベル、ライフステージ等） 家族システム理論からみる家族の理解と看護	教科書	P51－55ワークシート p75－89	
第 6 回	家族の発達と課題からみる家族の理解と看護	教科書	P95－101ワークシート	
第 7 回	地域で暮らす人々への看護の役割	教科書	p104－141	
第 8 回	地域でその人らしく暮らすために活用できる	教科書	p28 事例展開	
	地域の資源（事例展開）			
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	課題レポート・ワークシート（40%）、小テスト（10%）、筆記試験（50%）			
課題のフィード バックの方法	口頭または文書にてフィードバックする			
テ キ ス ト	「系統看護学講座・専門分野」地域・在宅看護の基礎 地域・在宅看護論1」 河原加代子ら著（医学書院）最新版			
参 考 図 書	「地域・在宅看護」岸恵美子・大木幸子編（中央法規出版）最新版 「新体系看護学全書 地域・在宅看護論」河野あゆみら著（メヂカルフレンド社）最新版 「地域・在宅看護論」尾崎章子他編著（医歯薬出版株式会社）最新版 「家族看護を基盤とした地域・在宅看護論」渡辺裕子監 / 中村順子ら編（日本看護協会出版会）最新版			
履修上の留意点	地域で暮らす人々への看護の役割や活動の多様性、病気をもつ人だけでなく健康な人への看護についても理解すること。			
実務経験のある教員	伊 木 智 子（看護師、保健師）			

授 業 科 目 名	老年看護学Ⅰ（概論）	英 文 科 目 名	Geriatric Nursing I （Introduction）	
担 当 教 員 名	下 舞 紀 美 代		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－23	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 老年看護の対象である高齢者とその家族の尊厳と権利を理解する。 老年期の発達課題と健康問題について身体的、心理・社会的な側面から高齢者を理解し、老年看護の役割の重要性を理解する。 [学修目標] 1. 老年看護学の概念、背景となる理論を説明できる。 2. 老年看護の対象となる人々の権利を尊重し、その擁護に向けた行動の重要性が説明できる。 3. 高齢者のライフサイクルと発達について説明できる。 4. 加齢に伴う健康問題について理解し、健康の保持増進、疾病予防を説明できる。 5. 高齢者に関する社会政策や看護政策について説明できる。 6. 老年看護の展開と役割の重要性を説明できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	授業ガイダンス 第1章：老いるということ、老いを生きるということ。 第2章：超高齢社会と社会保障④高齢社会の統計的輪郭	1回目：生理的老化と病的老化の違い、加齢に伴う身体的側面の4つの力の低下についてノートにまとめる。		30 分
第 2 回	第2章：超高齢社会と社会保障 ⑤高齢社会における保健医療福祉の動向	2回目：介護保険制度の仕組みについてノートにまとめる。		30 分
第 3 回	⑥高齢社会における権利擁護 第3章：老年看護のなりたち 第4章：高齢者のヘルスアセスメント	3回目：⑤高齢社会における保健医療福祉の動向⑥高齢社会における権利擁護、サルコペニアについてノートにまとめる。		1 時間
第 4 回	第5章：高齢者の生活機能を整える看護 ④日常生活を支える基本的活動⑤食事、食生活	4回目：転倒の看護とアセスメントについてノートにまとめる。		1 時間
第 5 回	第5章：高齢者の生活機能を整える看護 ⑥排泄⑦清潔⑧生活リズム	5回目：廃用性症候群の主な症状についてノートにまとめる。		1 時間
第 6 回	第5章：高齢者の生活機能を整える看護 ⑨コミュニケーション⑩セクシュアリティ⑪社会参加	6回目：高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害についてノートにまとめる。		30 分
第 7 回	第6章：健康逸脱からの回復を促す看護 ④症候のアセスメントと看護⑤身体疾患のある高齢者の看護	7回目：高齢者の発熱、痛みについてノートにまとめる。		1 時間
第 8 回	第6章：健康逸脱からの回復を促す看護 ⑤身体疾患のある高齢者の看護 ⑥認知機能障害のある高齢者の看護	8回目：認知症についてノートにまとめる。		
学修評価の方法 (成績割合%)	評価は、定期試験（80%）、ノート（10%）、小テスト（10%）の評価で行います。			
課題のフィードバックの方法	課題のフィードバックは、各講義中にノートを確認し小テストを行いコメントします。			
テ キ ス ト	北川公子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院			
参 考 図 書	佐々木秀忠他著：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
履修上の留意点	知識に基づいた老年看護の全体論が各自で定着できるように課題をノートにまとめ、授業に臨むこと。ノートは A4 サイズのもので、ルーズリーフのような差し込みや抜き取りができる形式のものを避けて下さい。テキストをコピーしてのり付けではなく、記述して下さい。今後の老年看護学Ⅱ、Ⅲ、実習に使用します。			
実務経験のある教員	下 舞 紀 美 代（看護師）			

授 業 科 目 名	小児看護学Ⅰ（概論）	英 文 科 目 名	Pediatric NursingⅠ （Introduction）	
担 当 教 員 名	箕浦 洋子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－26	D P 記 号	DP－2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 小児看護学の基盤となる概念、理論をもとに、小児の成長・発達及び小児看護に必要な基本的な援助を理解する。 [学修目標] 1. 小児看護に必要な概念、理論を理解できる。 2. 小児看護の特徴を理解できる。 3. 子どもの成長・発達について理解できる。 4. 子どもが心身ともに健康に成長・発達するための必要な支援方法を理解できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外（準備学修）の内容	必要時間
第 1 回	子どもを取り巻く問題と課題 子どもの権利 子どもを理解するための基本理論		テキスト第1章を通読	30 分
第 2 回	子どもの成長・発達の評価 成長・発達の原則、成長・発達の評価		テキスト第2章を通読	30 分
第 3 回	小児各期の成長・発達とその特徴（新生児期・乳児期）		テキスト第3章「新生児」を通読	30 分
第 4 回	小児各期の成長・発達とその特徴（乳児期）		テキスト第3章「乳児」を通読	30 分
第 5 回	小児各期の成長・発達とその特徴（幼児期）		テキスト第4章「幼児」を通読	30 分
第 6 回	小児の各期の成長・発達とその特徴 （学童期、思春期）		テキスト第4章「学童」、第5章 「思春期」を通読	30 分
第 7 回	子どもの成長・発達への支援 子どもの遊びとコミュニケーション 子どもと家族の特徴とその支援		テキスト第7章「予防接種」を通 読	30 分
第 8 回	予防接種とワクチンの役割		テキスト第6章を通読	30 分
学修評価の方法 （成績割合％）	確認テスト・課題レポート（30％）筆記試験（70％）で評価する。			
課題のフィード バックの方法	確認テストの解答を提示し解説する			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 医学書院			
参 考 図 書	授業時に提示する			
履修上の留意点	小児看護学を理解するための基礎力を養う大切な授業です。成長・発達についてしっかり 学習しましょう。			
実務経験のある 教 員	箕浦 洋子（看護師）			

授 業 科 目 名	母性看護学Ⅰ（概論）	英 文 科 目 名	Maternal NursingⅠ（Introduction）	
担 当 教 員 名	松村 恵子、永峰 啓子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B－29	D P 記 号	DP－2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	〔授業の概要〕 人間の生涯における性の発達と健康、生命と性と生殖の意義について学び自らの考えを深め、母性看護の基盤となる概念、母性看護における倫理的課題、母性看護の対象理解と対象を取り巻く社会の変遷と現状、女性と男性のライフサイクルにおける発達課題、新しい家族の誕生期にある人々の健康生活支援について学修する。 〔学修目標〕 1. 生命と性と生殖の意義、人間の生涯における性の発達と健康についての考えを述べられる。 2. 母性看護の基盤となる概念について学び、知識や理論に基づいて説明できる。 3. 女性と男性のライフサイクルにおける発達課題と健康について説明できる。 4. 母性看護における倫理的課題、リプロダクティブ・ヘルス／ケアについて説明できる。 5. 母性看護の対象理解と対象を取り巻く社会の変遷と現状について説明できる。 6. 新しい家族の誕生期にある人々の健康生活支援について説明できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 （準備学修）の内容	必要時間
第 1 回	1. 生命と性と生殖の意義、人間の生涯と性の発達（松村）【講義】 ・生命と法と生命倫理・性と生殖と生命倫理・生命のライフサイクル		①授業前後の予習と復習ならびにゼミナールA、B、C 課題レポート作成 ②毎回の授業後に理解の有無に関する学習内容の記述	毎回 60 分 程度
第 2 回	2. 女性と男性のライフサイクルにおける発達課題と健康（松村）【演習】			
第 3 回	3. 母性看護の基盤となる概念（松村）【講義・演習】 ・母性と父性・子育て・親性と育児性・親子関係と家族発達			
第 4 回	4. 母性看護の基盤となる概念（松村）【講義】 ・ヒューマンセクシュアリティ・リプロダクティブヘルス／ライツ			
第 5 回	5. リプロダクティブヘルスケア（永峰）【講義・演習】 ・いのちの性教育・家族計画・性感染症と人工妊娠中絶等の防止			
第 6 回	6. 母性看護における倫理的課題と母性看護の対象理解（松村）【講義】			
第 7 回	7. 母性看護の対象理解と対象を取り巻く社会の変遷と現状（松村）【講義】 ・母性看護の歴史的変遷と現状・母性看護の提供システム			
第 8 回	8. 新しい家族の誕生期にある人々の健康生活支援（松村）【講義・演習】 ・少子社会の子育ての様相・親と子と家族のコミュニケーション			
学修評価の方法 （成績割合％）	形成的評価はゼミナール A.B.C のレポート課題 30％、総括的評価は終講筆記試験 70％とする。			
課題のフィードバックの方法	学修過程における目標達成状況は、毎回の授業後に提出される記述内容より学修状況を確認します。レポート課題の学修内容を基準に基づいてルーブリック評価し、全員にその傾向と課題をフィードバックします。必要に応じて適宜、個々に学修課題を提示し質向上を目指します。			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学 [Ⅰ] 母性看護学概論 医学書院 最新版			
参 考 図 書	学修目標達成状況に鑑み必要に応じて授業中に紹介する。			
履修上の留意点	母性看護学に関する知識や理論に基づいて色々と深く考え、主体的に学修していきましょう。オフィスアワーでは、研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも応対します。			
実務経験のある教員	松村 恵子（助産師）、永峰 啓子（助産師）			

授 業 科 目 名	母性看護学Ⅱ－a（援助論）	英 文 科 目 名	Maternal Nursing II-a （Assistance Theory）	
担 当 教 員 名	神谷 映里、小笠原 百恵		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－30	D P 記 号	DP－2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 妊婦・産婦の生理と特徴や変化をふまえ、アセスメントの方法を学修する。 妊婦・産婦におけるハイリスク状況をふまえ、異常および医学的管理と看護を学修する。 [学修目標] 1. 妊婦・産婦の身体的、心理・社会的特徴や変化を説明することができる。 2. 妊婦・産婦が健康に経過することの意義を説明することができる。 3. 妊婦・産婦やその家族の看護と医学的管理方法を説明することができる。 4. 妊婦・産婦やその家族の看護に必要な援助方法を説明することができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	1. 正常な妊娠経過（神谷） 妊娠期の定義、妊娠の成立、妊娠の経過と胎児の発育、母体の生理的变化	予習：テキストの授業内容部分を読んでくること 復習：テキストの授業内容部分と配付資料で理解を深めること		各 30 分
第 2 回	2. 妊婦と胎児のアセスメント（神谷） 妊娠とその診断、妊娠期に行う検査、胎児の発育と健康状態			
第 3 回	3. 妊娠期の心理・社会的特性、妊婦と家族の看護（神谷） 妊婦の心理、妊婦と家族および社会、母子保健サービス、妊婦の健康相談・教育、親になるための準備教育			
第 4 回	4. 妊婦の異常と看護 1（神谷） ハイリスク妊娠			
第 5 回	5. 妊婦の異常と看護 2（神谷） 妊娠継続期間の異常、妊娠期の感染症 正常な分娩の経過（小笠原） 分娩の定義・3 要素、分娩の機序			
第 6 回	6. 産婦と胎児、家族のアセスメント（小笠原） 分娩による母子への影響			
第 7 回	7. 産婦と家族への看護（小笠原） 産婦の心理・社会的変化			
第 8 回	8. 分娩期の異常と看護（小笠原） 産道・陣痛・娩出物の異常、胎児機能不全、急速遂娩、分娩時異常出血、分娩時の損傷			
学修評価の方法 (成績割合%)	課題 20%、定期試験 80%			
課題のフィードバックの方法	課題の内容を評価し、口頭または文書にてフィードバックします。			
テ キ ス ト	母性看護学Ⅱ 周産期各論（医歯薬出版） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論（医学書院）			
参 考 図 書	目で見える妊娠と出産（文光堂）、病気がみえる 産科（メデックメディア）			
履修上の留意点	解剖生理学テキスト第 10 章 B 女性生殖器、C 受精と胎児の発生をよく復習してください。 毎回の復習をしてください。授業についての質問は研究室在室時、その場で、または後日時間をとって対応いたします。			
実務経験のある教員	神谷 映里（助産師）、小笠原 百恵（助産師）			

授 業 科 目 名	精神看護学Ⅰ（概論）	英 文 科 目 名	Psychiatric Nursing I （Introduction）	
担 当 教 員 名	小出水 寿英		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－33	D P 記 号	DP－2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 精神看護学における歴史、理論および人間の捉え方を学ぶ。 [学修目標] 1. 精神医療・看護の歴史について理解する。 2. 精神発達理論を理解する。 3. 精神看護に活かす臨床心理学について理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	精神障害についての基本的考え方 人間の精神・行動・環境	第1回：テキスト①1～2章		各 60 分
第 2 回	ライフサイクル・メンタルヘルス・情緒体験	第2回：テキスト①3～4章		
第 3 回	現代社会とライフサイクル	第3回：テキスト①4～6章		
第 4 回	家族支援・嗜癖と依存	第4回：テキスト①7～8章		
第 5 回	精神科医療における倫理	第5回：テキスト①9章		
第 6 回	精神科医療の歴史と精神科看護	第6回：テキスト①10章		
第 7 回	精神科医療福祉に関する法律	第7回：テキスト①11章		
第 8 回	精神科医療福祉における精神科看護師の役割	第8回：テキスト①12章 テキスト精神看護①を通読し内容を 確認する。重要用語を確認する。		
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	課題（10%）、出席状況（10%）、テスト（80%）で評価する。			
課題のフィード バックの方法	課題・確認テストは講義中に解答を配布し解説を実施する。テストは解答と解説を配布する。 いずれにおいても質問等があれば随時対応する。			
テ キ ス ト	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と看護の基本、MC メディカ出版、最新版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 生活障害と看護の実践、MC メディカ出版、最新版			
参 考 図 書	適宜紹介する			
履修上の留意点	精神看護学専門科目ですので、予習、復習をしながら講義に望んで下さい。			
実務経験のある教 員	小出水 寿英（看護師）			

授 業 科 目 名	看護過程論実習 I	英 文 科 目 名	Nursing Process Practicum I	
担 当 教 員 名	奥津 文子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 前期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単位・90 時間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C－1	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 対象を統合体として把握し、看護問題を抽出する思考過程と、看護問題を解決するための計画・実践・評価のプロセスについて学ぶ。 [学修目標] 1. 看護師が科学的に看護実践するための思考過程である看護過程について学ぶ。 2. 看護診断過程のそれぞれの段階について学ぶ。 3. 看護診断過程の展開および看護計画の実際について学ぶ。			
	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
実 習 計 画	1. 学内実習 (45 時間) 2023 年 7 月 26 日～28 日、8 月 7 日～8 日	看護過程展開についての復習		1 時間
	2. 病院実習 (45 時間) 2023 年 7 月 31 日～8 月 4 日	よく見られる疾患の病態生理について		1 時間
	○ 実習施設：下記のいずれかで行う。 病院実習：県立淡路医療センター、聖隷淡路病院、順心淡路病院、兵庫中央病院、上ヶ原病院その他	情報の整理		1 時間
		看護問題か否かについてのアセスメント		1 時間
	その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「2023 年度 看護学実習要項」による。	日常生活援助についての復習		1 時間
		日常生活援助の手順・留意点のまとめ		1 時間
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配付する「2023 年度看護学実習要項」に記載する			
課題のフィードバックの方法	個別指導の中でフィードバックする			
テ キ ス ト	江川隆子；ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、ヌーベルヒロカワ			
参 考 図 書	随時提示する			
履修上の留意点	無断欠席は認めない。学習のために機会を提供して下さった患者・実習施設・指導者に対して感謝の気持ちを忘れず、主体的・積極的に学習に取り組むこと。			
実務経験のある教員	奥津 文子（看護師）			

授 業 科 目 名	薬理学Ⅱ（臨床薬理）	英 文 科 目 名	PharmacologyⅡ （Clinical Pharmacology）	
担 当 教 員 名	百田 芳春		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－2－10	D P 記 号	DP－2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 前期後半部分において自律神経を例に薬物の作用の仕方を学び、これに引き続き、循環器系作動薬など各種の臓器器官への薬物の作用を学ぶ。初めに簡単な生理と病理について確認してから薬効を教授する。 [学修目標] 各種薬物の薬理作用を説明できるようになる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	末梢神経系作用薬Ⅰ 末梢神経系作用薬Ⅱ 中枢神経作用薬 循環器作用薬Ⅰ 循環器作用薬Ⅱ 利尿薬 抗炎症薬 呼吸器系作用薬 消化器系作用薬 ホルモン系 生殖器作用薬 抗感染症薬 抗悪性腫瘍薬Ⅰ 抗悪性腫瘍薬Ⅱ 振り返り		テキストの該当する項目を概観する。 期間中に小テストを2回行います。小テストの実施日はあらかじめ2週間前に知らせます。	各 回 と も 30 分 程 度
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	授業参加度（5%）、期末試験（85%）、小テスト（10%）			
課題のフィードバックの方法	Google Classroom を用いて授業資料、課題、小テスト とその結果を配信する。			
テ キ ス ト	「わかりやすい薬理学」著：安原一・小口勝司（ノーベルヒロカワ）第3版			
参 考 図 書	その都度紹介する。			
履修上の留意点	薬の保管方法や、投与方法、薬物動態など主に薬学の基本事項を学び、臨床での薬物との接し方の基本を履修する。			
実務経験のある教員	百田 芳春			

授 業 科 目 名	感 染 と 免 疫	英 文 科 目 名	Miclobiology and Immunology	
担 当 教 員 名	百 田 芳 春		実 務 経 験	無
履 修 年 次	2 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数 ・ 時 間	2 単 位 ・ 30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－2－11	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 様々な病気の原因になる微生物の種類と性質を学び、これら病原性微生物の感染と感染に対する免疫機構や、感染症の現状について学ぶ。また感染症の予防、検査、治療について学習する。 [学修目標] ①病原性微生物を大別できるようになる。②病原性微生物の化学的物理的排除方法を説明できるようになる。③免疫系について説明できるようになる。④臓器・組織別の感染症を説明できるようになる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	微生物の基礎知識 細菌の性質・特徴 真菌・原虫・ウイルスの性質・特徴 感染と感染症 感染に対する生体防御 感染経路、滅菌と消毒、検査と診断 感染症の治療、現状と対策 細菌感染症 細菌感染症 細菌感染症 真菌・原虫感染症 ウイルス感染症 ウイルス感染症 ウイルス感染症 B型肝炎訴訟原告団 活動歴史と現状		テキストの該当する項目を概観する。 期間中に小テストを2回行います。小テストの実施日はあらかじめ2週間前に知らせます。	各 回 と も 30 分 程 度
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	授業参加度（5%）、期末試験（85%）、小テスト（10%）			
課題のフィードバックの方法	Google Classroom を用いて授業資料、課題、小テストとその結果を配信する。			
テ キ ス ト	「微生物学・免疫学」著:増澤俊幸(羊土社)第1版			
参 考 図 書	その都度紹介する。			
履修上の留意点	授業の最後に出される課題または小テストに取り組むことで、講義の内容の理解がスムーズになります。いずれも締め切りを厳守してください。			
実務経験のある教員				

授 業 科 目 名	医 療 と 人 権	英 文 科 目 名	Medical Care and Human Rights	
担 当 教 員 名	西村 由実子		実 務 経 験	無
履 修 年 次	2 年 後 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数 ・ 時 間	2 単 位 ・ 30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-19	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 現在の日本では、医療技術の発展に伴い出生前診断から尊厳死まで人の生死に関わる様々な課題が存在する。一方、世界では貧困の中にあって基本的な生きる権利が蝕まれている人たちがいる。医療従事者として知っておきたい医療と人権に関わる諸課題について学ぶ。 [学修目標] 1. 医療と人権に関わる今日的な課題を理解する 2. 諸課題に対して、様々な立場があることを知る 3. 諸課題について、自分の意見を表現する			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス／ワーク：“私は誰と誰”		自己紹介を考える	各 回 と も 30 分 程 度
第 2 回	人権の思想		「世界人権宣言」	
第 3 回	生殖医療の発展と人権（１）		「シネマの中の人間と医療」	
第 4 回	生殖医療の発展と人権（２）		(a)11章	
第 5 回	生殖医療の発展と人権（３）		(a)11章	
第 6 回	人生の最終段階の医療と人権		(a)16章	
第 7 回	脳死・臓器移植（１）		日本臓器移植ネットワーク検索	
第 8 回	脳死・臓器移植（２）／中間テスト		(a)15章／復習	
第 9 回	平和と生きる権利（１）		(a)1、2章	
第 10 回	平和と生きる権利（２）若人の広場公園訪問		訪問レポート作成	
第 11 回	平和と生きる権利（３）若人の広場公園訪問		訪問レポート作成	
第 12 回	健康・医療の情報と人権		(a)10章「リスボン宣言」	
第 13 回	研究倫理・インフォームドコンセントと人権		(a)19章「ヘルシンキ宣言」	
第 14 回	医療資源の配分		(a)17章通読総復習	
第 15 回	貧困と生きる権利・まとめ		総復習	
学修評価の方法 (成績割合%)	授業参加（15%）、中間テスト（20%）、課題レポート（15%）、レポート試験（50%）			
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板および返却物を通じて、個別フィードバックと全体への講評を行う。			
テ キ ス ト	講義の中で適宜プリントを配布する。			
参 考 図 書	「【改訂版】入門・医療倫理Ⅰ」赤林朗編（勁草書房）…(a) 「Q&A 医療・福祉と患者の権利【第2版】」患者の権利オンブズマン編（明石書店）			
履修上の留意点	履修希望者は第 1 回ガイダンスに必ず出席してください。ディスカッションやワーク、フィールド訪問を通じ、みんなで人権について考えてみましょう。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	カウセリング論	英 文 科 目 名	Counseling Theory	
担 当 教 員 名	花村 カテリーナ		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-20	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護の仕事においてカウンセリングの能力は極めて重要な役割を担うものである。カウンセリングの理論的基盤には、大きく分けて人間主義的心理学、精神分析学、行動主義心理学の3つがある。これら3つの学派すべての基礎的理論と具体的な技法に関する概観を示すと同時に、看護現場の特性を踏まえた具体的なアプローチについて様々な事例を示しながら教授する。 [学修目標] 1. 看護現場におけるカウンセリングマインドの重要性と特性を理解する。 2. 人々との相互の関係を成立させるために必要とされるコミュニケーション技法について、主要な学派のカウンセリング理論に基づいて理解できる。 3. コミュニケーションの相互作用について理解し、傾聴と共感を基本とした言語的・非言語的なコミュニケーション技術を実施できる。 4. 自分の傾向を知り、自分の課題を意識してコミュニケーションをとることができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	ガイダンス。自己モニタリング	授業後、資料の復習		各 回 と も 30 分 程 度
第 2 回	聴く、読み取る、受け止める、伝える 1	授業後、資料の復習		
第 3 回	聴く、読み取る、受け止める、伝える 2	課題①		
第 4 回	人間性心理学派（来談者中心療法）の理論	授業後、資料の復習		
第 5 回	応答練習 1	応答練習レポート①		
第 6 回	応答練習 2	応答練習レポート②		
第 7 回	精神分析学派の理論	授業後、資料の復習		
第 8 回	「無意識」の概念を理解する	課題②		
第 9 回	認知行動療法の理論	課題③		
第 10 回	応答練習 3	応答練習レポート③		
第 11 回	行動主義学派の視点を取り入れる	課題④		
第 12 回	サイコロジカル・ファーストエイド	授業後、資料の復習		
第 13 回	看護カウンセリングの特性	授業後、資料の復習		
第 14 回	モデルケースの検討	課題⑤		
第 15 回	応答練習 4	応答練習レポート④		
学修評価の方法 (成績割合%)	授業参加度（50%）、課題と応答練習レポート（50%）			
課題のフィードバックの方法	Google Classroom を用いて授業資料、課題、および、提出物の結果を配信する。			
テ キ ス ト	プリントを配布する。			
参 考 図 書	「仲間とみがく看護のコミュニケーション・センス」（医歯薬出版(株)会社） 「メディカルスタッフのための基礎からわかるカウンセリングと心理療法」（南山堂）			
履修上の留意点	「実際にやってみる」を中心とした授業です。自分の得意不得意を知ること、得意な技法を 1 つ 見つけることを目標にすると、実習や日常生活に役立ちます。			
実務経験のある教員	花村 カテリーナ（臨床心理士、公認心理師）			

授 業 科 目 名	保健医療福祉行政論Ⅰ	英 文 科 目 名	Administrative Health and Medical WelfareⅠ	
担 当 教 員 名	伊 木 智 子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A－2－18	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] わが国の保健医療福祉行政のしくみや制度の変遷と具体的な内容について教授する。 [学修目標] 1. 保健医療福祉行政の考え方（理念）について理解する。 2. 保健医療福祉行政の仕組みと活動の概要について理解する。 3. わが国の社会保障制度の概要を理解する。 4. 地域の人々の暮らしと健康を守るための制度とその活用について理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 ～ 6 回 第 7 回 第 8 回	オリエンテーション、保健医療福祉行政の考え方（理念）、変遷、財政のしくみ、 医療提供体制、医療保険、医療計画、介護保険 地域保健行政 地域保健法 社会福祉行政 生活保護法、児童福祉法、障害者総合支援法 地域の人々の暮らしと健康を守るための制度とその活用 地域における多職種との連携・協働 地域包括ケアシステムと地域共生社会 まとめ		講義前に教科書を読んで 講義に臨み、講義後は学 習内容を復習する。	1～2時間
学修評価の方法 (成績割合%)	課題（30%）、試験（70%）			
課題のフィード バックの方法	個別フィードバックと全体への講評を行う。			
テ キ ス ト	「系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉」福田素生ら著（医学書院）最新版 「系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生」神馬征峰ら著（医学書院）最新版 「系統看護学講座・専門分野」地域・在宅看護の基礎 地域・在宅看護論1」河原加代子ら著（医学書院）最新版			
参 考 図 書	「系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令」森山幹夫著（医学書院）最新版 「標準保健師講座別巻1 保健医療福祉行政論」藤内修二他著（医学書院）最新版 「国民衛生の動向（2022/2023）」（厚生労働統計協会） 「ナースング・グラフィカ・健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障」増田雅暢ら編（メディカ出版）最新版 門脇豊子 他（2019）。平成31年版看護法令要覧。東京、日本看護協会出版会			
履修上の留意点	日々の社会情勢に関心を寄せながら学びましょう。			
実務経験のある教員	伊 木 智 子（保健師）			

授 業 科 目 名	在宅看護論 I (概論)	英 文 科 目 名	Home Health Care Nursing Theory I (Introduction)	
担 当 教 員 名	古川 秀敏		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B-9	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護ニーズを持つ居宅生活者とその家族を理解し、わが国の在宅療養に関する背景および看護支援に必要な知識を学ぶ。あわせて、在宅療養に関わる制度についても学ぶ。 [学修目標] 1. 在宅看護学の概念および特性と機能を理解する。 2. 在宅ケアシステムにおける看護の役割と機能を理解する。 3. 在宅看護に係る制度を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	オリエンテーション・在宅看護の概念		教科書pp.70-109 通読	30 分
第 2 回	在宅療養と家族の支援―訪問看護の対象者・在宅療養の成立要件・家族看護		教科書pp.14-20・70-77・136-150 通読	30 分
第 3 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護①		教科書pp.211-212・214-215・216-218 通読	30 分
第 4 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護②		教科書pp.213-214-211・226-228 通読	30 分
第 5 回	地域包括ケアと在宅看護 介護保険とケアマネジメント、在宅ケアの連携と看護③		教科書pp.213-214-211・226-228 通読	30 分
第 6 回	在宅看護の倫理と基本理念、高齢者虐待、リスクマネジメント		テキストpp.32-39・194-204 通読	30 分
第 7 回	在宅看護が展開される様々な場と方法・災害・感染		テキストpp.72-75・200-201・202-204・通読	30 分
第 8 回	継続看護・退院指導、服薬管理		テキストpp.77-87・219-223 通読	30 分
第 9 回	急性増悪・転倒予防 在宅看護を深める方法		テキストpp.198-199・216-217・270-273配布資料の通読	30 分
第 10 回	在宅療養における心理社会的課題①		事前配布資料 通読	30 分
第 11 回	在宅療養における心理社会的課題②		事前配布資料 通読	30 分
第 12 回	訪問看護の対象・小児		事前配布資料 通読	30 分
第 13 回	訪問看護の対象・難病①		事前配布資料 通読	30 分
第 14 回	訪問看護の対象・難病②		事前配布資料 通読	30 分
第 15 回	地域包括ケア		講義資料	30 分
学修評価の方法 (成績割合%)	期末試験 (100%)			
課題のフィードバックの方法	講義内、Google Classroom 等を用いてフィードバックを行う。			
テ キ ス ト	「ナースング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1):地域療養を支えるケア」編集:臺有桂(メディカ出版) 第7版			
参 考 図 書	随時、紹介する。			
履修上の留意点	講義には既修の学修内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学修してください。			
実務経験のある教員	古川 秀敏(看護師)			

授 業 科 目 名	地域看護学Ⅱ(援助論)	英 文 科 目 名	Community Health Nursing Ⅱ (Assistance Theory)	
担 当 教 員 名	伊木 智子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B-11	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域で暮らす人々の健康レベル・ライフステージ、場の特性に応じた看護の多様性と看護活動の展開を学ぶ。 [学修目標] 1. 各発達課題、健康課題、健康レベル、場の特性に応じた対象別の看護活動を理解する。 2. 対象別における看護活動の法的根拠や制度について理解する。 3. 地域看護活動の基盤となる理論、健康支援の方法を理解できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 ～ 2 回	多様な場で提供される看護活動		【予習】 教科書の該当箇所や参考書等に目を通して概要を把握しておく。 【復習】 教科書や配布されたレジメ、資料の内容、授業中のノートをもとに理解を深める。	1～2時間程度
第 3 回	ライフステージ、健康レベルに応じた看護			
第 4 回	障害者(児)・難病保健活動			
第 5 回	グローバルヘルス、国際保健活動の実際			1～2時間程度
第 6 回	精神保健福祉活動			
第 7 回	学校保健・看護活動の実際			
第 8 回	産業保健・看護活動の実際			
	地域看護学の基盤となる理論 (ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケア) 健康な人への予防的介入・支援方法 (ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチ)			
学修評価の方法 (成績割合%)	課題レポート(20%)、筆記試験(80%)			
課題のフィードバックの方法	口頭または文書にてフィードバックする。			
テ キ ス ト	「系統看護学講座・専門分野」地域・在宅看護の基礎 地域・在宅看護論1」河原加代子ら著(医学書院)最新版 「系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度③社会保障・社会福祉」福田素生ら著(医学書院)最新版 「系統看護学講座・専門基礎分野・健康支援と社会保障制度[2]公衆衛生」神馬征峰ら著(医学書院)最新版			
参 考 図 書	「地域・在宅看護」岸恵美子・大木幸子編(中央法規出版)最新版 「新体系看護学全書 地域・在宅看護論」河野あゆみら著(メヂカルフレンド社)最新版 「地域・在宅看護論」尾崎章子他編著(医歯薬出版株式会社)最新版 「家族看護を基盤とした地域・在宅看護論」渡辺裕子監 / 中村順子ら編(日本看護協会出版会)最新版			
履修上の留意点	地域看護学Ⅰでの学びをもとに、地域で生活するあらゆる健康レベル、発達段階にある人々がどのように暮らし、どのような健康課題があるのか関心を持ち主体的に学習に臨んでください。提出物は提出日時を厳守すること。			
実務経験のある教員	伊木 智子(保健師)			

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅱ-a (急性期援助論)	英 文 科 目 名	Adult Nursing II-a (Acute Care Nursing)	
担 当 教 員 名	原田 美穂子、笠岡 和子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B-19	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 急性期・回復期にある成人の健康問題の特性を理解し、急激な変化・回復への過程を支えるために必要な看護を実践するための基礎知識・技術を教授する。 [学修目標] 1. 急性期・回復期にある成人対象者の特徴とその看護の特性を理解することができる。 2. 機能障害を持つ対象者の急性に変化する状況のアセスメント、看護援助方法を理解することができる。 3. チーム医療における看護師の役割を理解することができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	救命救急時の看護：ショック、熱傷など 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【脳神経疾患】脳の機能と症状との関係 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【脳神経疾患】クモ膜下出血・脳梗塞 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【呼吸器疾患】急性呼吸不全・急性期症状 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【呼吸器疾患】肺がん・検査時の看護 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【循環器疾患】急性心筋梗塞・急性期症状 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【循環器疾患】心不全・検査時の看護 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【消化器疾患】胃がん・大腸がん 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【消化器疾患】胆嚢炎・急性膵炎 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【内分泌・代謝疾患】内分泌障害・症状と検査 他 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【腎・泌尿器】急性腎不全 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 【性・生殖障害】乳がん・精巣がん 急性期の病態と症状：アセスメントと看護援助の関係 アレルギー・膠原病・感染症・免疫不全・HIV 他 化学療法・放射線療法の看護		全ての回において授業内容の復習と事前の授業内容の予習 (該当ページを読んでもくる)	1 時間
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (100%)			
課題のフィードバックの方法	口頭または文書にてフィードバックする。			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2-15]、別巻「救急看護」医学書院			
参 考 図 書	随時提示する。			
履修上の留意点	人体構造学、病態生理学の復習が必要。			
実務経験のある教員	原田 美穂子（看護師）、笠岡 和子（看護師）			

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅱ－b (急性期援助論)	英 文 科 目 名	Adult Nursing II-b (Acute Care Nursing)	
担 当 教 員 名	笠岡 和子、原田 美穂子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－20	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 急性期・回復期にある成人の健康問題の特性を理解し、急激に変化する過程を支えるために必要な看護を実践するための基礎知識・技術について教授する。また、終末期の治療を理解し、苦痛の緩和方法を含めた看護援助方法について教授する。 [学修目標] 1. 周手術期にある対象者の特性と看護を理解することができる。 2. 機能障害を持つ対象者の急性に変化する状況のアセスメント、看護援助方法を理解することができる。 3. 終末期・リハビリテーション期にある対象者の特徴と看護の特性を理解することができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	周手術期にある成人の治療・処置および看護		復習と学習内容の予習(事前に該当ページを読んでもらう)(全回)	毎回 1 時間
第 2 回	①手術侵襲と生体の反応			
第 3 回	②麻酔の影響と合併症に対する看護			
第 4 回	③手術後の創部治癒と痛みへの援助			
第 5 回	④腹部手術を受ける患者の看護：胃・直腸切除術			
第 6 回	⑤胸部手術を受ける患者の看護：肺摘出術			
第 7 回	⑥運動器手術を受ける患者の看護：骨折			
第 8 回	急性の病態と症状・アセスメントと看護援助との関係(排泄能障害)			
	急性の病態と症状・アセスメントと看護援助との関係(運動器)			
	リハビリ期にある人の反応と看護援助①運動系・呼吸器③循環器			
	緩和ケアを受ける患者の看護			
	急性の病態と症状・アセスメントと看護援助との関係(感覚器障害)			
学修評価の方法 (成績割合%)	筆記試験 70%、小テスト 20%、授業参加(授業中の態度、課題への取り組みなど) 10%にて評価する。			
課題のフィードバックの方法	必要な学生に対して口頭(解説等)又は文章にて個別に対応する。			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2～15]、別巻「臨床外科総論」「臨床外科各論」「救急看護」「がん看護学」「緩和ケア」「リハビリテーション看護」「臨床放射線医学」医学書院			
参 考 図 書	随時提示する。			
履修上の留意点	人体構造学、病態生理学の復習が必要。			
実務経験のある教員	笠岡 和子(看護師)、原田 美穂子(看護師)			

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅲ（慢性期援助論）	英 文 科 目 名	Adult Nursing III (Chronic Care Assistance)	
担 当 教 員 名	神谷 千鶴、下舞 紀美代、上長 恵里		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2単位・30時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－21	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 慢性期にある成人の疾患と治療によって生じる機能および健康問題の特性を理解し、病とともにその人らしく生きる過程を支えるための看護についての基礎知識を学ぶ。 [学修目標] 1. 慢性的な健康課題を有する患者と家族の状況を査定し、疾病管理に向けた看護援助方法について理解する 2. 慢性的な健康課題を有する患者と家族を理解し、療養生活の看護援助方法について理解する 3. 慢性的な健康課題を有する患者と家族が地域で生活できるよう、社会資源の活用方法について理解する			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	慢性期にある人と家族の理解、慢性期看護の理解 慢性期看護の展開（慢性期にある人・家族への看護） ①慢性閉塞性肺疾患 ②気管支喘息 ③慢性心不全 ④白血病 ⑤潰瘍性大腸炎・クローン病 ⑥脳梗塞後遺症 ⑦慢性腎臓病 ⑧2 型糖尿病 ⑨全身性エリテマトーデス ⑩関節リウマチ ⑪筋萎縮性側索硬化症 慢性疾患をもつ人の事例展開① 慢性疾患をもつ人の事例展開②		教科書の当該ページを読んでくる。当該疾患に関する人体構造機能学・病態生理学の復習をしてくる。(全回) 	

授 業 科 目 名	老年看護学Ⅱ (援助論)	英 文 科 目 名	Geriatric Nursing II (Assistance Theory)	
担 当 教 員 名	下舞 紀美代		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B-24	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康障害をもつ高齢者とその家族の特徴をふまえたアセスメントの基本的な知識を理解し、疾病からの回復および日常生活への適応に必要な看護援助について学ぶ。 [学修目標] 1. 高齢者に特有な健康障害の特徴とその家族の看護について説明できる。 2. 高齢者の生活機能と看護ケアについて説明できる。 3. 健康障害をもつ高齢者のアセスメントができる。 4. 終末期にある高齢者とその家族の看護が説明できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間	
第 1 回	授業ガイダンス テキスト1. 第7章:治療を必要とする高齢者の看護 テキスト1. 第8章:エンドオブライフケア テキスト1. 第9章:生活・療養の場における看護 テキスト1. 第10章:高齢者のリスクマネジメント テキスト1. 付章:看護過程の展開 テキスト2. 序章:「超高齢社会」における老年看護への期待 テキスト2. 第1章:高齢者の生理的特徴 テキスト2. 第2章:老年症候群 テキスト2. 第3章:高齢者の健康状態の把握と総合機能評価	1回目: 手術を受ける高齢者の看護についてノートにまとめなさい。	1 時間	
第 2 回		2回目: 終末段階に求められる援助をノートにまとめなさい。		
第 3 回		3回目: 高齢者と災害、高齢者と救命救急について ノートにまとめなさい。		
第 4 回		4回目: 高齢者の定義、加齢との違いについてノートにまとめなさい。		
第 5 回		5回目: 老年症候群の急性疾患に付随する症状についてノートにまとめなさい。		
第 6 回		6回目: 高齢者のフィジカルアセスメントについてノートにまとめなさい。		
第 7 回		7回目: アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体を伴う認知症、前頭側頭型認知症、クロイツフェルトーヤコブ病の症候、診断、治療についてまとめなさい。		
第 8 回	8回目: 呼吸器機能について解剖学、生理学の書籍を参考にノートにまとめなさい。			
第 9 回	9回目: 造血機能について、解剖学、生理学の書籍を参考にノートにまとめなさい。			
第 10 回	10回目: 大腿骨頸部骨折、腰部脊柱管狭窄症の症候、診断、治療についてノートにまとめなさい。			
第 11 回	11回目: 高齢者リハビリテーションの特徴、呼吸器リハビリテーション、心臓リハビリテーションについてまとめなさい。			
第 12 回	12回目: 高齢者の在宅医療の特性、認知症の在宅医療について、現代社会の問題点についてあなたの意見を書きなさい。			
第 13 回	13回目: 運動器のテキストを参照し、大腿骨頸部骨折によって生じる機能障害をノートにまとめなさい。			
第 14 回	14回目: 脳・神経系のテキストを参照し、アルツハイマー型認知症によって生じる機能障害をノートにまとめなさい。			
第 15 回	15回目: 14回目に出します。			
学修評価の方法 (成績割合%)	期末試験 (80%) 小テスト (20%) で評価します。			
課題のフィードバックの方法	課題のフィードバックは、講義中及びノート提出確認後にコメントを返却いたします。			
テ キ ス ト	1. 北川公子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 佐々木秀忠他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 病態・疾患論 医学書院			
参 考 図 書	必要時提示します。			
履修上の留意点	老年看護学Ⅰの授業を基に、看護学の知識を広げ、看護実践につなげていく講義です。 したがって、課題は、老年看護学Ⅰで作成したノートを活用しながら授業に臨んで下さい。 課題は、指定されたテキストからだけでなく、主体的に必要なと思う書籍を読み記述して下さい。 ただし、インターネットからの無断引用 (盗用) は厳禁です。			
実務経験のある教員	下舞 紀美代 (看護師)			

授 業 科 目 名	小児看護学Ⅱ(援助論)	英 文 科 目 名	Pediatric Nursing II (Assistance Theory)	
担 当 教 員 名	箕浦 洋子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B-27	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康障がいを持つ子どもによくみられる症状と疾患を理解し、さまざまな成長・発達段階と健康レベルに応じた子どもとその家族に看護を実践するための基礎知識を理解する。 [学修目標] 1. 子どもによくみられる症状と疾患とそれに対する必要な援助方法が理解できる。 2. 子どもの健康回復や保持・増進にかかる看護とその家族への支援について、具体的な援助方法が理解できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間	
第 1 回	1. 発達段階に応じた子どもへの説明と同意 1) プレパレーションの概念と実際 2) 発達段階に応じた同意へのアプローチ	予習 次回授業の内容について、テキストで該当する箇所を通読する 復習 テキスト及び配布資料で授業内容の理解を深める	各30分	
第 2 回	2. 健康障がいをもつ子どもと家族への援助 1) 入院している子どもの生活と環境			
第 3 回	2) 子どもによくみられる症状と看護 ①発熱 ②嘔吐 ③脱水 ④痛み ⑤けいれん			
第 4 回	3. 子どもによくみられる疾患と看護			
第 5 回	2. 健康障がいをもつ子どもと家族への援助 3) 入院中の子どもと家族の看護 4) 外来における子どもと家族の看護 5) 急性期にある子どもと家族の看護			
第 6 回	6) 手術を受ける子どもと家族の看護			
第 7 回	7) 慢性期にある子どもと家族の看護			
第 8 回	8) 在宅における子どもと家族の看護 2. 健康障がいをもつ子どもと家族への援助（総括）			
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	確認テスト（10%）、グループワーク参加状況（10%）、課題でポート（10%）筆記試験（70%）で評価する。			
課題のフィードバックの方法	確認テストの解答を提示し解説する。			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院			
参 考 図 書	授業時に提示する。			
履修上の留意点	小児看護学Ⅰ(概論)【小児各期の成長・発達段階】の復習をして下さい。発達一覧表を使用して理解を深めて下さい。 疾患の学習がありますので、人体構造機能学Ⅰ・Ⅱ、病態治療学Ⅰ・Ⅱの復習を行い講義に臨んで下さい。			
実務経験のある教員	箕浦 洋子（看護師）			

授 業 科 目 名	母性看護学Ⅱ-b（援助論）	英 文 科 目 名	Maternal Nursing II-b (Assistance Theory)	
担 当 教 員 名	神谷 映里、小笠原 百恵		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－31	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 褥婦と新生児の生理と特徴や変化をふまえ、その経過とアセスメントを学修する。 褥婦と新生児におけるハイリスク状況をふまえ、異常および医学的管理と看護を学修する。 [学修目標] 1. 褥婦の身体的、心理・社会的特徴や変化を説明することができる。 2. 新生児の生理的变化を説明することができる。 3. 褥婦と新生児が健康に経過することの意義を説明することができる。 4. 褥婦と新生児やその家族の看護と医学的管理方法を説明することができる。 5. 褥婦と新生児やその家族の看護に必要な援助方法を説明することができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	1. 正常な産褥の経過（神谷） 産褥期の定義、身体的特徴、全身の変化、生殖器 の変化、乳房の変化	予習：テキストの授業内 容部分を読んでくること 復習：テキストの授業内 容部分と配付資料で理解 を深めること		各30分
第 2 回	2. 褥婦の健康とアセスメント（神谷） 産褥経過、褥婦の健康状態			
第 3 回	3. 褥婦と家族への看護（神谷） 心理・社会的変化、身体機能の回復、児との関係 確立、育児、施設退院後			
第 4 回	4. 産褥期の異常と健康問題に対する看護（神谷） 子宮復古不全、産褥熱、乳房トラブル（乳腺炎含 む）、産後うつ病、マタニティブルーズ、帝王切開術後			
第 5 回	5. 新生児の生理的变化（小笠原） 新生児の定義・分類・体格・在胎週数別標準体重の 体格分類・姿勢			
第 6 回	6. 新生児期のアセスメント（小笠原） 新生児の評価、健康状態のアセスメント			
第 7 回	7. 新生児とその家族への看護（小笠原） 出生直後の看護、出生後から退院までの看護、生後 1か月健診に向けた退院時の看護			
第 8 回	8. 新生児の異常と健康問題への看護（小笠原） 早産児、低出生体重児、高ビリルビン血症、新生児ビ タミンK欠乏症、 新生児蘇生			
学修評価の方法 (成績割合%)	課題 20%、定期試験 80%			
課題のフィード バックの方法	課題の内容を評価し、口頭または文書にてフィードバックします。			
テ キ ス ト	母性看護学Ⅱ 周産期各論(医歯薬出版) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論(医学書院)、 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論(医学書院)			
参 考 図 書	目で見える妊娠と出産（文光堂）、病気がみえる 産科（メデックメディア）			
履修上の留意点	毎回の復習をしてください。授業についての質問は研究室在室時、その場で、または後日時間を とって対応いたします。			
実務経験のある 教 員	神谷 映里（助産師）、小笠原 百恵（助産師）			

授 業 科 目 名	精神看護学Ⅱ（援助論）	英 文 科 目 名	Psychiatric Nursing II （Assistance Theory）	
担 当 教 員 名	小出水 寿英		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－34	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 精神看護に必要な医学的知識と治療ならびに精神障がいと社会の捉え方について学ぶ。 [学修目標] 1. 主な精神疾患について理解する。 2. 主な精神疾患に必要な治療を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回 第 2～3 回 第 4～5 回 第 6～7 回 第 8～9 回 第10～11回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回	I. 精神の健康障がいについて II. 精神症状の把握 III. 精神疾患について 1) 内因性精神障がい 2) 心因性精神障がい 3) 身体因性精神障がい 4) 児童・青年期精神障がい IV. 治療 1) 精神療法 2) 薬物療法 3) 精神科リハビリテーション① 退院支援 4) 精神科リハビリテーション② 地域生活支援	第1回：テキスト①p2-p36 第2回：テキスト p37-p56 第3回：テキスト p57-p78 第4-5回：テキスト p80-p96 第6-7回：テキスト p97-p110 第8-9回：テキスト p111-p131 第10-11回：テキスト p140-171 第12回：テキスト p230-p246 第13回：テキスト p274-p289 第14-15回：テキスト p247-p273 *テキスト①の指定された部分を通読し内容を確認する。また、専門用語理解する。		各 60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	課題（10%）、出席状況（10%）、テスト（80%）で評価する。			
課題のフィードバックの方法	課題は講義中に解答を配布し解説を実施する。テストは解答と解説を配布する。いずれにおいても質問等があれば随時対応する。			
テ キ ス ト	①上島国利、渡辺雅幸編著：ナースの精神医学、中外医学社、最新版 ②パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護(照林社) 萱間真美			
参 考 図 書	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 緒発達と看護の基本、MC メディカ出版、最新版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 活障害と看護の実践、MC メディカ出版、最新版			
履修上の留意点	テキストの授業内容部分を必ず予習、復習して下さい。			
実務経験のある教員	小出水 寿英(看護師)			

授 業 科 目 名	看護過程論実習Ⅱ	英 文 科 目 名	Nursing Process PracticumⅡ	
担 当 教 員 名	笠岡 和子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	2 年 後 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	3 単 位・135 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-2	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康障害を持ち療養生活を送っている対象を総合的に把握し、対象の日常生活行動に対して、科学的根拠に基づき総合的に把握し、その解決のための看護を実践できる基本的能力を養う。 [学修目標] 1. 対象が健康障害をもつことによって生じる影響を日常生活行動の視点から理解できる。 2. 対象がもつ健康問題、特に日常生活行動の問題を、科学的根拠をもってその解決のための計画・実施・評価ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、チームの一員としての責任を自覚して、チームのメンバーと連携がとれる。 5. 臨地実習における今後の自己の学習課題をレポートに記述することができる。 6. 実習を通して発展させた自己の看護観を俳句で表現できる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○実習期間：下記のいずれかで行う。 1. 病院実習 (3 週間) 2 年次2024年2月1日(木)～2月21日(水) ○実習施設：下記のいずれかで行う。 1. 病院実習 社会福祉法人 聖隷福祉事業 聖隷淡路病院 医療法人社団順心会 順心淡路病院 医療法人社団順心会 順心病院 兵庫県立淡路医療センター 独立行政法人 国立病院機構 兵庫中央病院 独立行政法人 国立病院機構 神戸医療センター 医療法人財団 樹徳会 上ヶ原病院 社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺心臓脳・血管センター その他の事項および実習の詳細は、「2023 年度看護過程論実習 要項」に準じる。		・臨地実習中、学内実習中は、受け持ち対象に応じて必要な解剖・病態生理学、看護学全般についての予習・復習を行う。 ・日々の振り返りの記録を行う。 ・次の日の行動計画を記載する。	毎日 1 時間 1 時間 30 分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2023 年度看護過程論実習要項」に記載する。			
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。			
テ キ ス ト	老年看護学、成人看護学、病態・解剖生理学教科書、授業資料、その他必要時提示する。			
参 考 図 書	病態・解剖生理学、基礎看護学、ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断の教科書・授業資料すべて			
履修上の留意点				
実務経験のある教員	笠岡 和子 (看護師)			

【3 学年】

授 業 科 目 名	英語 V	英 文 科 目 名	English V	
担 当 教 員 名	William C. Simmons		実 務 経 験	無
履 修 年 次	3 年 前 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数 ・ 時 間	1 単 位 ・ 30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	A－1－19	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] This class will cover common terms, situations, and circumstances for nurses dealing with patients in English. [学修目標] The goal of this class is to increase the knowledge and confidence of students using everyday medical English.			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
Lesson 1	Introductions			
Lesson2	Meeting Patients		Audio 1-03, 1-04 p.6-8	30 分
Lesson3	Taking a Medical History		Audio 1-11, 1-12 p.12-14	30 分
Lesson4	Assessing Patients' Symptoms		Audio 1-18, 1-19 p.18-20	30 分
Lesson5	Taking Vital Signs		Audio 1-28, 1-29 p.26-28	30 分
Lesson6	Taking a Specimen		Audio 1-35, 1-36 p.32-34	30 分
Lesson7	Conducting Medical Examinations		Audio 1-41, 1-42 p.38-40	30 分
Lesson8	Assessing Pain		Audio 2-03, 2-04 p.48-50	30 分
Lesson9	Advising about Medication		Audio 2-11, 2-12 p.54-56	30 分
Lesson10	Improving Patients' Mobility		Audio 2-19, 2-20 p.60-62	30 分
Lesson11	Maintaining a Good Diet		Audio 2-28, 2-29 p.68-70	30 分
Lesson12	Caring for Inpatients		Audio 2-35, 2-36 p.74-76	30 分
Lesson13	Coping with Emergencies		Audio 2-42, 2-43 p.80-82	30 分
Lesson14	Group Project – Role Play		Project preparation	60 分
Lesson15	Group Project and Review for Final		Project preparation	60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	Homework & Participation : 45% Group Work : 30% Final Written Test : 25%			
課題のフィード バックの方法	Written Test : Graded tests will be returned to student. Oral and Online Home Work will be graded on a Rubric.			
テ キ ス ト	Caring for People(センゲージラーニング)			
参 考 図 書	ダウンロード Flashcards app. Twitter : @FlashcardsNKO You can download it for iOS			
履修上の留意点	This is a class for active talking. Don' t be shy. Talk! Talk! Talk! I' m looking forward to working with all of you.			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	疫学	英 文 科 目 名	Epidemiology	
担 当 教 員 名	西村 由実子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前 期	必 修 / 選 択	選択(看護師)/必修(保健師)	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	A-2-12	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 疫学は、地域社会や組織など集団における疾病や健康の分布や決定要因を探り、疾病予防および健康増進の対策に寄与する科学である。広く公衆衛生に貢献することを目的として、疫学的思考方法の基礎と国内外の健康動向を学ぶ。 [学修目標] 1. 疫学研究で使われる基本的な指標を理解し、計算することができる。 2. 様々な研究デザインの特徴を理解し、説明することができる。 3. 疫学研究の成果を地域における健康増進対策に役立てる方法を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス／疫学の概念		★1章 熟読	30 分
第 2 回	集団の健康状態の把握（1）		★2章 熟読	30 分
第 3 回	集団の健康状態の把握（2）		★2/9章 熟読	30 分
第 4 回	集団の健康状態の把握（3）		★2章 熟読	30 分
第 5 回	疫学的研究方法（1）		★3章 熟読	30 分
第 6 回	疫学的研究方法（2）		★3章 熟読	30 分
第 7 回	疫学的研究方法（3）		★3章 熟読	30 分
第 8 回	疾病登録／中間テスト		★5章 熟読／総復習	30 分
第 9 回	疾病の予防とスクリーニング		★4章 熟読	30 分
第 10 回	おもな疾患の疫学		★6章 熟読	30 分
第 11 回	疫学と公衆衛生看護		★7章 熟読	30 分
第 12 回	保健統計学の基礎（1）		★8章 熟読	30 分
第 13 回	保健統計学の基礎（2）		★8章 熟読	30 分
第 14 回	人口統計の基礎・保健統計調査		★9/10章 熟読	30 分
第 15 回	保健医療情報の管理・活用／まとめ		★11章 熟読／総復習	30 分
学修評価の方法 (成績割合%)	授業参加（15%）、中間テスト（20%）、提出物（15%）、定期試験（50%）			
課題のフィード バックの方法	講義内、Google Classroom、学内掲示板および返却物を通じて、個別フィードバックと全体への講評を行う。			
テ キ ス ト	「標準保健師講座別巻2疫学・保健統計学」牧本清子ら著(医学書院)(最新版)・・★			
参 考 図 書	「基本からわかる看護疫学入門」大木秀一著（医歯薬出版株式会社） 「看護学生のための疫学・保健統計」浅野嘉延著（南山堂）			
履修上の留意点	保健師国家試験受験希望者は必修です。その他のみなさんも歓迎します。履修希望者は第1回ガイダンスに必ず出席してください。			
実務経験のある教員	西村 由実子(WHO勤務)			

授 業 科 目 名	在宅看護論Ⅱ(援助論)	英 文 科 目 名	Home Health Nursing Theory II (Assistance Theory)	
担 当 教 員 名	古川 秀敏		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B-10	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護ニーズを持つ居宅生活者とその家族を理解し、わが国の在宅療養に関する背景および看護支援に必要な知識を学ぶ。あわせて、在宅療養に関わる制度についても学ぶ。			
	[学修目標] 1. 在宅看護学の概念および特性と機能を理解する。 2. 在宅ケアシステムにおける看護の役割と機能を理解する。 3. 在宅看護に係る制度を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回	在宅看護を支える訪問技術①—訪問看護の概要		教科書pp.70-109 通読	30 分
	在宅看護を支える訪問技術②—訪問看護の実際		教科書pp.14-20・70-77・136-150 通読	30 分
第 3 回	在宅療養者と家族を支える技術①—日常生活援助技術		教科書pp.211-212・214-215・216-218 通読	30 分
第 4 回	在宅療養者と家族を支える技術②—日常生活援助技術		教科書pp.213-214-211・226-228 通読	30 分
第 5 回	在宅療養者と家族を支える技術③—在宅酸素療法		教科書pp.223-226 通読	30 分
第 6 回	在宅療養者と家族を支える技術④—在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法		教科書pp.228-231 通読	30 分
第 7 回	在宅療養者と家族を支える技術⑤—スキンケア・カテーテル管理・腹膜透析 (CAPD)		成人・老年の教科書の該当箇所 通読	30 分
第 8 回	在宅療養者と家族への状態別支援①—がん、終末期		成人・老年の教科書の該当箇所 通読	30 分
第 9 回	在宅療養者と家族を支える技術⑦—精神・小児・難病		教科書pp.249-250・253-256通読	45 分
第 10 回	看護過程①		紙面事例の熟読	30 分
第 11 回	看護過程②		紙面事例の展開	30 分
第 12 回	看護過程③		紙面事例の展開	30 分
第 13 回	看護過程④		紙面事例の展開	30 分
第 14 回	看護過程⑤		紙面事例の展開	30 分
第 15 回	まとめ		紙面事例の展開	30 分
学修評価の方法 (成績割合%)	提出課題の看護過程および期末試験の結果から評価する。定期試験 (80%)・看護過程 (20%)			
課題のフィードバックの方法	講義内、Google Classroom 等を用いてフィードバックを行う。			
テ キ ス ト	「ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1):地域療養を支えるケア」編集:臺有桂(メディカ出版) 第7版			
参 考 図 書	随時、紹介する。			
履修上の留意点	講義には既修の学修内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学修してください。			
実務経験のある教員	古川 秀敏(看護師)			

授 業 科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅱ (対象別公衆衛生看護活動展開論①)	英 文 科 目 名	Public Health Nursing Activities Ⅱ	
担 当 教 員 名	臼井 香苗		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前 期	必 修 / 選 択	必修(保健師)	
単 位 数・時 間	4 単 位・60 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-13	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 公衆衛生看護の対象、場の特性に応じた看護活動のあり方と保健指導の展開を学ぶ。 [学修目標] 1. 公衆衛生看護活動における保健指導の基本と展開方法を理解する。 2. 各発達課題、健康問題、健康レベル、場の特性に応じた対象別の保健指導を理解する。 3. 対象別保健活動の法的根拠や制度について理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 ～ 2 回	個人・家族・集団および組織の健康の保持増進、健康課題解決できるための支援方法 地域における親子保健（母子保健）活動の展開： 地域における成人保健活動の展開 高齢者保健活動の展開 精神保健活動の実際と保健師活動 難病保健活動の実際 難病患者の生活と保健指導 障害児（者）保健活動の実際と保健師活動 歯科口腔保健活動 感染症保健活動 まとめ		【予習】 教科書の該当箇所や参考書に目を通して概要を把握しておく。 【復習】 教科書や配布された資料の内容、授業中のノートをもとに理解を深める。	1 ～ 2 時 間程度
第 3 ～ 6 回				1 ～ 2 時 間程度
第 7 ～ 10 回				
第 11 ～ 14 回				
第 15 ～ 18 回				
第 19 ～ 21 回				
第 22 ～ 24 回				
第 25 ～ 26 回				
第 27 ～ 29 回				
第 30 回				
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	定期試験（50%）、ミニテスト・ミニレポート（30%）、演習課題（20%）			
課題のフィードバックの方法	口頭または文書にてフィードバックする。			
テ キ ス ト	標準保健師講座3「対象別公衆衛生看護活動」松田正己他著(医学書院)第4版			
参 考 図 書	必要に応じて資料を配布する。			
履修上の留意点	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰでの学びをもとに、地域で生活するあらゆる健康レベルや発達段階にある人々がどのように暮らし、どのような健康課題があるのか関心持ち主体的に学習してください。グループワークや演習を用いて学習を促進するので、積極的に参加してください。			
実務経験のある教員	臼井 香苗(保健師) 保健師の実務経験に基づき、臨地実習に必要な実践的知識・技術・態度を教育する。			

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅳ(援助方法論)	英 文 科 目 名	Adult Nursing Science IV (Assistance Methodology)	
担 当 教 員 名	原田 美穂子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・45 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-22	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 事例を通して、治療を受ける成人期にある人の現象を捉え、看護援助を行うための看護技術の方法とその根拠を学ぶ。 [学修目標] 1. 成人期にある患者の現象を捉えるためのアセスメント方法を理解できる。 2. 看護介入に必要な看護治療技術を習得することができる。 3. 急性期・回復期・慢性期に必要な医療技術を習得することができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3～5 回 第 6～8 回 第 9～11 回 第 12～13 回 第 14 回 第 15～17 回 第 18～20 回 第 21～22 回 第 23 回	ガイダンス・事例の解説、患者教育について 【急性期の援助技術Ⅰ・Ⅱ】 【急性期の援助技術Ⅰ】感染予防(手指衛生・無菌操作) / 酸素療法・吸入方法 / 膀胱留置カテーテル 【急性期の援助技術Ⅱ】輸液ポンプ / 吸引 / ドレーン・創傷管理 技術練習Ⅰ / 技術練習Ⅱ / 患者教育① 技術確認Ⅰ・Ⅱ / 患者教育② 【回復期・慢性期の援助技術Ⅲ】 経管栄養 / 心電図検査 / フットケア 関節可動域訓練 / 筋力強化訓練 / 血糖測定・インスリン注射 技術確認Ⅲ / 患者教育グループワーク③ まとめ 患者教育発表会 技術確認解説	成人看護学Ⅱa,b 感染予防、呼吸・循環に関する復習 当該技術の事前配布資料・教科書の熟読、課題を行ってくる。		各 30 分
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	定期試験 (50 点)、看護技術確認 (25 点×2 回) の総計 100 点とする。 これらすべてが合格点 (60 点) 以上であることを単位認定の必須条件とする。			
課題のフィードバックの方法	技術確認は評価表に基づき、口頭でフィードバックを行う。筆記試験については、解答解説を口頭または文書で実施する。			
テ キ ス ト	医療情報科学研究所 編 (2021) : 臨床看護技術、看護がみえる vol.2、メディックメディア、東京。 成人看護学Ⅰ・Ⅱa.b・Ⅲで使用した資料ならびに参考書 プラクティス、フィジカルアセスメントで使用したテキスト			
参 考 図 書	系統看護学講座別巻「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」「リハビリテーション看護」系統看護学講座 成人看護学Ⅰ～15 巻、医学書院			
履修上の留意点	小グループごとの演習で、グループごとに行う演習の順番が異なります。演習には指定された服装・身なりで臨んでください。			
実務経験のある教員	原田 美穂子(看護師)			

授 業 科 目 名	老年看護学Ⅲ(援助方法論)	英 文 科 目 名	Geriatric Nursing III (Methodology of Assistance)	
担 当 教 員 名	下舞 紀美代、神谷 千鶴、小平 京子 笠岡 和子、原田 美穂子、上長 恵里		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-25	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 既習の学習と関連させながら、高齢者とその家族を理解するためのアセスメント能力を養い、高齢者への看護技術の実践に向けて講義と演習を通して学習する。また、事例による看護過程の展開から、より実践的な看護活動を修得する。 [学修目標] 1. 健康障害をもつ高齢者へのアセスメントができる。 2. 健康障害をもつ高齢者の看護過程を展開できる。 3. 健康障害をもつ高齢者への看護技術ができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス、事例展開解説・講義・病態関連図 事例展開：事例の関連図 データベース情報記入		第 1 回 成人看護学Ⅳa のガイドラインを熟読してくる。	60分
第 2 回	事例展開：事例の関連図 関連図の症状を裏付ける情報の記入		第 2 回～第 10 回	各回60分
第 3 回	事例展開：事例の関連図 関連図の症状を裏付ける情報の記入		1. 技術チェック表を見ながら実際の技術手順を覚えてくる。	
第 4 回	事例展開：整理・解釈・総合(アセスメント) ND・NC・CPの根拠を明確にする		①～③全て技術の必要物品を全て覚えてくる。	60分
第 5 回	高齢者への援助技術：嚥下障害(講義) 事例展開：整理・解釈・総合(アセスメント)		2. 事例展開の課題 ・老年期の加齢により変化、フレイル、サルコペニア、老年症候群が説明できるようにノートに記載する。	
第 6 回	援助技術：嚥下訓練・口腔ケア(講義・演習) 事例展開：整理・解釈・総合(アセスメント)		・前著の内容を加味してアセスメントし計画立案を考えてくる。	120分
第 7 回	高齢者への援助技術：嚥下訓練・口腔ケア(講義・演習) 事例展開：整理・解釈・総合(アセスメント)		・不明な点をノートにまとめてくる。	
第 8 回	高齢者への援助技術：褥瘡ケア(講義・演習) 事例展開：整理・解釈・総合(アセスメント)			
第 9 回	高齢者への援助技術：褥瘡ケア(体圧測定・分散)(講義・演習) 事例展開：整理・解釈・総合(アセスメント)			
第 10 回	高齢者への援助技術：褥瘡ケア(体圧測定・分散)(講義・演習) 事例展開：整理・解釈・総合(アセスメント)			
第 11 回	高齢者への援助技術：タッチングケア(講義・演習) 事例展開：ND ステップ・計画立案			
第 12 回	高齢者への援助技術：タッチングケア(講義・演習) 事例展開：ND ステップ・計画立案			
第 13 回	技術確認・技術振り返り			
第 14 回	技術確認・技術振り返り			
第 15 回	技術確認・技術振り返り			
学修評価の方法 (成績割合%)	事例展開(30%)、技術確認(30%)、期末試験(40%)			
課題のフィードバックの方法	各回に口頭指導もしくは記録用紙にコメントを入れる。			
テ キ ス ト	亀井智子編集:根拠と事故防止からみた老年看護技術 第2版 医学書院			
参 考 図 書	江川隆子編集:ゴードンの健康パターンに基づく看護過程と看護診断 NOUVELLE HIROKAWA 北川公子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 佐々木秀忠他著:系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 小坂橋喜久代編集:ナーシングマッサージ入門 日本看護協会出版会 他、看護診断、看護介入など、事例展開に必要な薬理学、解剖・生理学			
履修上の留意点	疾患を持つ老年者の事例展開を行います。解剖学、生理学、病態学に加え、薬理学の復習をお願いします。看護技術は、決められた時間内に安全・安楽を確保できる技術力が必要です。			
実務経験のある教員	下舞 紀美代(看護師)、神谷 千鶴(看護師)、小平 京子(看護師) 笠岡 和子(看護師)、原田 美穂子(看護師)、上長 恵里(看護師)			

授 業 科 目 名	小児看護学Ⅲ(援助方法論)	英 文 科 目 名	Pediatric Nursing III (Methodology)	
担 当 教 員 名	箕浦 洋子、西菌 貞子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B-28	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 事例を通して、さまざまな成長・発達段階、健康レベルにある子どもとその家族を理解し、支援するために必要な看護展開方法と看護技術を学ぶ。 [学修目標] 1. 健康障がいのある小児の看護過程の展開ができる。 2. 看護介入に必要な看護技術を習得することができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10～13 回 第 14 回 第 15 回	小児の特徴を理解した看護過程の展開 小児の特徴を理解した看護過程の展開 IBL を用いた事例検討 1) IBL の考え方 2) 推論の確認 3) ロールプレイによる情報の確認 4) 情報の整理 5) まとめ 小児看護に必要な看護技術① (バイタルサイン測定, 安全管理) 小児看護に必要な看護技術② (プレパレーション、ディストラクション) 事例演習オリエンテーション 演習シナリオ作成 演習：バイタルサイン測定 演習事例看護展開 バイタルサイン測定演習の振り返り (グループ発表) バイタルサイン側転演習の振り返り (グループ発表) 小児看護学における看護過程の展開 (総括)		【予習】 ・病態関連図、看護関連図の書き方を復習する。 ・小児の成長・発達について復習する。 【復習】 ・授業終了後、振り返りを行い、指示された提出物の作成を行う。	各 60 分
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	看護過程事例 (15%)①、看護過程事例②(30%)、IBL の展開・IBL レポート (10%)、グループワーク参加状況 (10%)、バイタルサイン測定計画 (5%)、バイタルサイン実施 (15%)、バイタルサイン実施の振り返り (15%) で評価する。			
課題のフィードバックの方法	看護過程の展開①②は評価、コメント後返却する。必要時は面接にてフィードバックを行う。 バイタルサイン測定技術は、評価基準に基づき評価を行い、実施時に口頭でフィードバックを行う。			
テ キ ス ト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院			
参 考 図 書	授業時に提示する。			
履修上の留意点	小児の特徴を踏まえた看護過程の展開を学習します。情報収集を行う時に、必ず成長・発達の把握が必要です。基本となる小児の成長・発達について復習をしておいて下さい。グループワーク等で理解を深めていきますので、積極的に参加しましょう。			
実務経験のある教員	箕浦 洋子(看護師)			

授 業 科 目 名	母性看護学Ⅲ(援助方法論)	英 文 科 目 名	Maternal Nursing III (Methodology of Assistance)	
担 当 教 員 名	小笠原 百恵、神谷 映里、永峰 啓子 尾筋 淑子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-32	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 事例を通して、妊婦・産婦・褥婦・新生児および家族を理解し、支援を行う上で必要となる基礎的な看護技術の方法を学修する。 [学修目標] 1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康保持・増進を促す援助技術を説明できる。 2. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護と医学的管理を説明できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児に対する基礎的な看護技術や支援を述べることができる。 4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の家族への援助を述べることができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外 (準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	妊娠期・分娩期・産褥期の身体的特性と心理・社会的特性		①授業前後の予習と復習 ②課題A・B・Cの作成	各60分
第 2 回	胎児の発育と健康状態、新生児の生理(小笠原)【講義】			
第 3 回	妊娠経過、妊娠期に行う検査、胎児の発育と健康状態 事例展開：妊娠36週、ローリスク妊婦(神谷)【講義】			
第 4 回	妊婦と胎児の経過のアセスメント、妊婦と家族の看護 事例展開：妊娠36週、ローリスク妊婦(神谷)【講義】			
第 5 回	産婦と胎児の健康状態、産婦と家族の心理・社会面 事例展開：妊娠39週、ローリスク産婦、分娩第1期(永峰)【講義】			
第 6 回	分娩の進行と産婦・胎児・家族のアセスメント、産婦と家族の看護 事例展開：妊娠39週、ローリスク産婦、分娩第1期(永峰)【講義】			
第 7 回	妊婦の健康相談・教育の実際、親になるための準備状態(小笠原、神谷、永峰、尾筋)【演習】			
第 8 回	安全・安楽な分娩への看護、出産体験が肯定的になるための看護、 産婦の基本的ニーズに関する看護(小笠原、神谷、永峰、尾筋)【演習】			
第 9 回	褥婦の健康状態、心理・社会的な変化 事例展開：産褥2日目、ローリスク初産婦(小笠原)【講義】			
第 10 回	産褥経過、褥婦の健康状態のアセスメント 褥婦の身体機能回復および進行性変化への看護 事例展開：産褥2日目、ローリスク初産婦(小笠原)【講義】			
第 11 回	新生児の機能・健康状態 事例展開：生後2日目、ローリスク新生児(小笠原)【講義】			
第 12 回	新生児の機能・健康状態のアセスメント、出生直後から退院時までの看護 事例展開：生後2日目、ローリスク新生児(小笠原)【講義】			
第 13 回	褥婦の身体機能回復および進行性変化への看護 (小笠原、神谷、永峰、尾筋)【演習】			
第 14 回	育児にかかわる看護(小笠原、神谷、永峰、尾筋)【演習】			
第 15 回	新生児の出生後から退院時までの看護(小笠原、神谷、永峰、尾筋)【演習】 褥婦の施設退院後の看護、生後1か月健診に向けた新生児の看護 (小笠原、神谷、永峰、尾筋)【演習】			
学修評価の方法 (成績割合%)	形成的評価は、講義内で提示する課題A・B・Cの提出とする(50%)。 総括的評価は、終講筆記試験とする(50%)。			
課題のフィード バックの方法	学修過程における目標達成は、定期的に提出する課題A・B・Cの記述内容により学修状況を確認します。 全員にその傾向と課題をフィードバックします。適宜個々に課題を提示し、質の向上を目指します。			
テ キ ス ト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論、医学書院 最新版 ・母性看護学Ⅱ 周産期各論、医歯薬出版株式会社 最新版			
参 考 図 書	・目で見える妊娠と出産、文光堂 ②病気がみえる 産科、メディックメディア			
履修上の留意点	母性看護学Ⅰ、Ⅱ-a、Ⅱ-bの内容を復習しておいてください。 オフィスアワーでは、研究室在室時、所用や来訪者がなければいつでも対応します。			
実務経験のある 教 員	小笠原 百恵(助産師)、神谷 映里(助産師) 永峰 啓子(助産師)、尾筋 淑子(助産師)			

授 業 科 目 名	精神看護学Ⅲ(援助方法論)	英 文 科 目 名	Psychiatric Nursing III (Assistance Methodology)	
担 当 教 員 名	小出水 寿英		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単位・30 時間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B－35	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 精神疾患に罹患した当事者を理解するための理論や概念、アセスメント方法、看護実践のための基礎的知識・技法を習得する。 [学修目標] 1. 精神疾患に罹患した当事者を理解するための看護理論や概念、技法について理解できる。 2. 精神疾患に罹患した当事者の看護実践のためのアセスメント方法について理解できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間	
第 1 回 第 2～4 回 第 5 回 第 6～8 回 第 9～14 回 第 15 回	I. 精神疾患と看護実践について II. 精神科看護実習における看護記録について①②③ III. 精神科看護アセスメントに必要な理論と概念 IV. 精神科看護の基本的実践の理解 統合失調症・うつ病に関連する急性期 回復期 リハビリ期 V. 精神障がい者の地域支援 地域移行支援 地域定着支援 訪問看護 包括型地域生活支援プログラム (ACT) 地域包括ケア①② VI. 精神科医療における当事者活動について	第1回:テキスト① p110-p128 第2～4回:精神看護学実習記録様式一式を配布。 第5回:オレム・アンダーウッドセルフケア理論、ペプロウの対人関係論は図書等を活用し確認すること。 第6～8回:テキスト①該当箇所を読み確認すること。 第9～14回:テキスト①該当箇所を読み確認すること。 第15回:テキスト①該当箇所を読み確認すること。 また、各回のテキスト②③の該当箇所を読み確認すること。	各 60 分	
学修評価の方法 (成績割合%)	課題 (10%)、出席状況 (10%)、テスト (80%) で評価する。			
課題のフィードバックの方法	課題・確認テストは講義中に解答を配布し解説を実施する。テストは解答と解説を配布する。いずれにおいても質問等があれば随時対応する。			
テ キ ス ト	①看護のための精神医学(医学書院)中井久夫、山口直彦編著(最新版) ②看護場面の再構成 感性を磨く技法I (日本看護協会出版会)宮本真巳著 ③精神看護学実習ハンドブック(中央法規出版)一般社団法人日本精神科看護協会＝監修／草地仁史ら			
参 考 図 書	精神看護学Ⅰ・Ⅱで使用したテキスト、ならびに講義中に明示した資料ならびに参考図書			
履修上の留意点	テキストの授業内容部分を必ず予習、復習して下さい。			
実務経験のある教員	小出水 寿英			

授 業 科 目 名	看護診断学Ⅱ	英 文 科 目 名	Nursing Diagnosis Ⅱ	
担 当 教 員 名	笠岡 和子、江川 隆子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1単位・30時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－36	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護診断の歴史、看護診断の背景となる諸理論と関係、および看護診断の意義や意味について教授する。さらに、臨床でよく用いられる看護診断とそのアセスメント、それぞれの看護診断について教授する。 [学修目標] 1. 看護診断の概念を学ぶことができる。 2. 看護診断の背景になっている諸理論とその関係について学ぶことができる。 3. アセスメントおよび看護治療（看護援助）、評価との関係について学ぶことができる。 4. 看護診断含め看護援助の範囲を学ぶことができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス		第1～7回 事前のテキストの講読 配布資料の復習 第8～15回 事前課題(事例)の展開	各回60分
第 2 回	看護診断Ⅰ振り返り：保助看法			
第 3 回	看護診断Ⅰ振り返り：看護師の責任と援助範囲／看護の定義			
第 4 回	看護診断Ⅰ振り返り：看護理論			
第 5 回	看護診断Ⅰ振り返り：理論的背景			
第 6 回	看護診断Ⅰ振り返り：看護思考過程			
第 7 回	看護診断Ⅰ振り返り：看護過程演習			
第 8 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程の展開			
第 9 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程の展開			
第 10 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程の展開			
第 11 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程の展開			
第 12 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程の展開			
第 13 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程の展開			
第 14 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程の展開			
第 15 回	看護過程演習：事例を用いた看護過程の展開			
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	定期試験（100%）			
課題のフィード バックの方法	必要な学生に対して個別に対応する。			
テ キ ス ト	これなら使える看護診断、コンパクト新版、（医学書院） 江川隆子編（2013） これなら使える看護介入、（医学書院） 江川隆子編（2010） ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断、（ヌーベルヒロカワ）江川隆子編（第6版） かみくだき看護診断過程（日総研出版）江川隆子/笠岡和子			
参 考 図 書	日本看護診断学会監訳：NANDA-I 看護診断定義と分類、医学書院（学校で購入した本 卒業生が使用した本を利用する。）			
履修上の留意点	基礎看護学Ⅴ（問題解決技法）を復習してくる。			
実務経験のある 教 員	笠岡 和子（看護師）、江川 隆子（看護師）			

授 業 科 目 名	リスクマネジメント	英 文 科 目 名	Risk Management	
担 当 教 員 名	笠岡 和子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	1 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B-37	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護を展開するにあたり、対象の尊厳と生命を守る医療者としての責務を遂行するために、対象の安全と安寧を図る理念・知識・技術を教授する。 [学修目標] 1. 医療の理念と看護の責務を理解する。 2. 看護職の法的責任を理解する。 3. 医療事故・医療過誤の定義、原因、予防策を理解する。 4. 医療安全文化を形成する一員としての自覚と実践する意思を形成する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間	
第 1 回	医療安全と看護の責務、リスクマネジメント	テキスト第1章予習	30 分	
第 2 回	医療安全施策と医療の質の評価	テキスト第2章予習	30 分	
第 3 回	事故発生のメカニズムと防止対策	テキスト第3章予習	30 分	
第 4 回	医療機関における安全対策：組織の取り組み	テキスト第4章予習	30 分	
第 5 回	看護における安全対策：看護業務事故発生要因	テキスト第5章予習	30 分	
第 6 回	事故防止対策—KYT 事例：患者取り違い	テキスト第5章予習	30 分	
第 7 回	事故防止対策—転倒転落	テキスト第5章予習	30 分	
第 8 回	事故防止対策—皮膚障害	テキスト第5章予習	30 分	
第 9 回	事故防止対策—機器・ライントラブル	テキスト第5章予習	30 分	
第 10 回	事故防止対策—針刺し・注射	テキスト第5章予習	30 分	
第 11 回	事故防止対策—誤嚥・経管栄養	テキスト第5章予習	30 分	
第 12 回	事故防止対策—服薬	テキスト第7章予習	30 分	
第 13 回	看護学生の実習と安全	テキスト第8章予習	30 分	
第 14 回	医療事故後の対応	テキスト第9章予習	30 分	
第 15 回	まとめ	全体の復習	30 分	
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	講義出席状況（10%）、最終試験（80%）、 グループワーク参加（10%）で評価する。			
課題のフィード バックの方法	必要な学生に対して口頭（解説等）又は文章にて個別に対応する。			
テ キ ス ト	松下由美子他編集：ナースング・グラフィカ看護の統合と実践②医療安全、メディカ出版			
参 考 図 書	随時、紹介する。			
履修上の留意点	医療事故関係の新聞報道に着目。積極的にグループ討議に参加する。			
実務経験のある 教 員	笠岡 和子			

授 業 科 目 名	国際看護学・災害看護学	英 文 科 目 名	International/Disaster Nursing	
担 当 教 員 名	奥津 文子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 前期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単位・30 時間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B－38	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 災害の定義、分類、災害サイクルの考え方を学び、災害時の支援に関わる諸制度や看護の方法を教授する。さらに、国際的な視点で人々の健康問題をとらえ、保健医療分野における国際協力の意義と実際について教授する。 [学修目標] 1. 災害の意味と災害が健康に及ぼす影響と災害各期における看護の役割を理解する。 2. グローバリゼーションが進む中での世界の健康問題を理解する。 3. 異文化理解と国内外における国際看護活動の実際について理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス 看護と国際化社会 災害看護学の意義と原則		(予習) テキストの該当ページを 読んで講義に参加する	毎回 30 分
第 2 回	災害看護の歩み 災害サイクルと看護活動			
第 3 回	災害時の医療救援活動と看護の役割			
第 4 回	国際紛争と看護		(復習)	
第 5 回	災害時の心のケア 支援者のストレスとケア		小テスト終了範囲を再度 調べる	
第 6 回	国際看護学とは			
第 7 回	国際協力のしくみ 文化を考慮した看護			
第 8 回	開発途上国と看護			
第 9 回	国際看護活動の実際と課題		関連する略語帳の作成と 役割の理解	
第 10 回	モンゴルの医療事情と看護			
第 11 回	モンゴルにおける看護教育			
第 12 回	国際看護における教育・研究の実践例			
第 13 回	災害時の保健医療機関・災害地域の看護活動			
第 14 回	地域防災への取り組み、災害情報と法・制度			
第 15 回	災害時に必要な看護技術 トリアージの実際			
学修評価の方法 (成績割合%)	筆記試験 80% 授業参加状況・レポート20%で評価する。			
課題のフィード バックの方法	解説上必要な資料を配布または遠隔教育システムの活用により情報をドライブに更新する。			
テ キ ス ト	竹下喜久子編集:系統看護学講座、災害看護学・国際看護学、看護の統合と実践③ 医学書院			
参 考 図 書	随時提示する。			
履修上の留意点	日ごろから世界の国際情勢や国内外の災害関連情報に関心をもち、正確な情報を得る。 そして、一人の人間としてまた看護をめざす者としてできることは何かを考える。			
実務経験のある 教 員	奥津 文子(看護師)			

授 業 科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅲ (対象別公衆衛生看護活動展開論②)	英 文 科 目 名	Public Health Nursing Activities Ⅲ	
担 当 教 員 名	伊木 智子、桂 香織、鮫島 真理子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必修(保健師課程)	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-14	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 学校保健・産業保健の目的と理念、制度やシステムを理解し、公衆衛生看護活動に必要な基礎的な知識・技術を教授する。 [学修目標] 1. 学校保健・産業保健の目的と理念について理解できる。 2. 学校保健・産業保健の制度とシステムについて理解できる。 3. 学校保健活動の概要について理解し、養護教諭の果たす役割と保健室の機能、児童・生徒などへの支援に必要な基礎的な知識・技術について理解できる。 4. 産業保健・看護活動の概要について理解し、産業看護職の専門性と役割・機能、看護活動を展開するための基礎的な知識・技術について理解できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	ガイダンス 学校境域における学校保健		【予習・復習】 各講義で提示する課題に関して調べ、まとめることにより理解を深めること。 【演習前・後】 演習前に提示される事前課題、演習後の課題について調べ、まとめること。	1～2時間
第 2 回	学校保健の理念と目的、学校保健の関連法規			
第 3 回	学校保健の対象理解 養護教諭の役割・機能			
第 4 回	児童生徒の生活実態と健康課題			
第 5 回	養護教諭の役割や活動の実際			
第 6 回	児童生徒の健康診断及び事後措置、			
第 7・8 回	学校保健統計について			
第 9～14 回	学校感染症とその予防、学校環境衛生管理 学校における安全管理・危機管理 特別支援教育の理解 特別支援学校の現状 地域、関係機関との連携 学校保健まとめ 産業保健の理念と目的、労働安全衛生に関係する法規、組織と人材、5管理、労働安全マネジメントシステム、健康診断、 産業保健における産業看護職の役割、 産業保健活動の実際			
第 15 回	まとめ			1～2時間
学修評価の方法 (成績割合%)	グループへの参加度(意欲・姿勢)(50%)、課題レポートなどの提出物(30%)、小テスト(20%)			
課題のフィードバックの方法	課題等の提出物についてはコメントを入れて各自に返却する。			
テ キ ス ト	3年次に購入の公衆衛生看護学に関連する教科書			
参 考 図 書	随時、提示する。			
履修上の留意点	学校保健・看護学実習、産業保健・看護学実習の臨地実習において必要な知識、技術、態度を学ぶ重要な科目です。			
実務経験のある教員	伊木 智子(保健師、衛生管理者) 桂 香織(養護教諭)、鮫島 真理子(産業保健師) 「養護教諭の役割や活動の実際」については養護教諭、「産業看護職の役割、活動の実際」については産業保健師が講義を担当し実践的な教育を行う。			

授 業 科 目 名	地域看護診断論	英 文 科 目 名	Community Health Nursing Assessment	
担 当 教 員 名	臼井 香苗		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必修(保健師)	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-15	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域看護診断の概念と目的を理解し、保健師として人々が生活する地域を対象とした支援技術、地域全体の健康を向上するための方法、臨地実習予定となっている地域に顕在・潜在している課題をアセスメントするための展開方法など基本的な技術を理解する。 [学修目標] 1. 臨地実習予定となっている地域の健康課題を抽出するために、地域看診断のモデル（コミュニティ・アズ・パートナーモデル）を用いて地域の特性に関わる情報収集の方法について習得する。 2. 情報収集したデータの意味を解釈し、アセスメントを行い、地域の健康課題を抽出できる力を習得する。 3. 地域に顕在あるいは潜在する健康課題の把握方法について理解する。 4. 地域看護診断のモデルを活用して。実習地域のデータ・情報をアセスメントし、地域の健康課題や特性を明らかにすることができる。 5. 公衆衛生看護学実習の目標、実習内容、方法を理解し、実習地域の地域看護診断や事前学習に臨むことができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	オリエンテーション地域看護診断の概念と目的、意義、展開方法	実習先の自治体からの地域に関する資料、ホームページを閲覧して情報を整理する。		1時間程度
第 2 回	地域診断の展開方法、コミュニティ・アズ・パートナーモデルの概要			
第 3～5 回	グループワーク：地域の概要とコアの情報収集	地域理解のワークシートをもとに事前課題を行う。		1～2時間程度
第 6～8 回	グループワーク：地域のサブシステムの情報収集とアセスメント			
第 9 回	地区踏査の意義と方法	地区特性の把握と健康課題の抽出、優先順位についてグループで検討する。		1～2時間程度
第 10 回	グループワーク：地区踏査計画作成			
第 11・12 回	地区踏査の実施			
第 13 回	グループワーク：データと地区踏査の結果の統合			
第 14・15 回	地域の健康課題の明確化：顕在的・潜在的健康課題の抽出、地域特性の明確化			
学修評価の方法 (成績割合%)	1. まとめのテスト (30%) 2. 地域理解ワークシート (20%) 3. 地区踏査計画 (10%) 4. グループワーク資料 (40%)			
課題のフィードバックの方法	課題・提出物はコメントをつけて返却する。 グループ発表に対しては発表後にフィードバックする。			
テ キ ス ト	最新保健学講座5「公衆衛生看護管理論」平野かよ子編(メヂカルフレンド社)第4版			
参 考 図 書	・金川克子：地域看護診断、技術と実際、東京大学出版会 ・金川克子監訳：コミュニティ・アズ・パートナー・モデル、地域看護学の理論と実際、医学書院			
履修上の留意点	授業時間外でのグループワークの取り組みを必要とするため、空き時間を活用し計画的に進めていくことが重要となる。公衆衛生看護学実習（行政実習）において必要とされる基礎的な知識、技術を修得する科目である。			
実務経験のある教員	臼井 香苗(保健師)、伊木 智子(保健師)、古川 秀敏(保健師) 保健師としての経験を踏まえて、地域のアセスメント、計画、実施、評価について理論モデルを活用して具体的に教育を行う。			

授 業 科 目 名	在宅看護学実習	英 文 科 目 名	Home Health Care Nursing Practicum
担 当 教 員 名	古川 秀敏、伊木 智子、臼井 香苗、森花 美和子	実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習
カリキュラム記号	C-3	D P 記 号	DP-3
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象（個人・家族・集団・地域）の特性に合わせて展開される看護活動を通して、基本的な知識と技術、展開方法を理解する。また、地域における保健医療福祉システムにおける看護職の役割・機能を理解する。 [学修目標] 1. 地域社会で生活する住民に対する看護活動の実際について理解する。 2. 在宅看護の展開について理解する。 3. 地域の保健医療福祉システムにおける看護職の役割・機能を理解する。 4. 地域の特性を理解し、生活の場における看護の役割を学ぶ。		
	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	実習期間 令和5年9月19日(火)～令和6年3月29日(金)のうち2週間 実習内容 【訪問看護ステーション実習】及び【地域における多様な場での実習】を行う。 実習施設 下記のいずれかで行う。 【訪問看護ステーション実習】 - 順心会訪問看護ステーション加古川 - 順心会訪問看護ステーション宝殿 - 順心会訪問看護ステーション学園都市 - 順心会訪問看護ステーション淡路 - 聖隷訪問看護ステーション淡路 - 共生訪問看護ステーション - 河上整形外科訪問看護ステーション - あべいすと訪問看護リハビリセンター - 尼崎医療協同組合訪問看護ステーション菜の花 - あかね訪問看護・リハビリセンター - Soraケアセンター - 看守り処 花もり - いちのみや訪問看護ステーション - 訪問看護ステーション桔梗 - ジャック訪問看護リハステーション - 北須磨訪問看護リハビリセンター ほか 【地域における多様な場での実習】 - 淡路市社会福祉協議会 - 洲本市社会福祉協議会 - 淡路市	第1週 【訪問看護ステーション実習】 訪問予定の療養者の疾患や障害、その治療法や使用薬剤等、看護の方法のまとめ。 日々の記録の作成。 課題レポートの作成。 第2週 【地域における多様な場での実習】 参加予定の事業の法的根拠、機能、役割、従事する専門職者等についてのまとめ。 日々の記録の作成。 課題レポートの作成。	毎日 180 分 毎日 180 分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配付する「令和5年度 在宅看護学実習要項」に記載する。		
課題のフィードバックの方法	口頭または文書にてフィードバックを行う。		
テ キ ス ト	在宅看護論のテキスト、講義資料。その他必要時紹介する。		
参 考 図 書	随時、紹介する。		
履修上の留意点	講義には既修の学修内容を踏まえた内容がたくさんあります。それらの知識を活用しながら学修してください。		
実務経験のある教員	古川 秀敏（看護師）、伊木 智子（看護師・保健師） 臼井 香苗（看護師・保健師）、森花 美和子（看護師・保健師）		

授 業 科 目 名	成人看護学実習 I	英 文 科 目 名	Adult Nursing Practicum I	
担 当 教 員 名	原田 美穂子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-6	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康障害をもち、療養生活を送っている成人期の急性期および回復期にある対象を理解したうえで、科学的思考に基づく看護を実践・創造できる基礎的能力を養う。 チームの一員として適切な看護が実践できる能力や自主性、自律性を養うと共に自己の看護観を発展させる。 [学修目標] 1. 成人期の急性期および回復期にある健康障害をもつ対象の特性を理解できる。 2. 対象がもつ健康問題について科学的根拠をもって総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、チームの一員としての責任を自覚して、チームのメンバーと連携がとれる。 5. 学習者として、自己の思考・行動を振り返り、実践に活かすことができる。 6. 看護診断過程を振り返り、臨地実習における今後の自己の学習課題をレポートに記述することができる。 7. 実習を通して発展させた自己の看護観を記述できる。 8. 見学実習で学んだ医療と看護について、事前課題を行ったうえでレポートに記述することができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○ 実習期間: グループ別ローテーションとなり、下記に期間のいずれかで実施する。 令和5年 9月18日(月)～9月29日(金) 令和5年10月 2日(月)～10月14日(金) 令和5年10月18日(月)～10月27日(金) 令和5年10月30日(月)～11月10日(金) 令和5年11月13日(月)～11月24日(金) 令和5年11月27日(月)～12月 8日(金) 2週間のうちの最終日は、振替休日となる場合がある。ただし、祝日がある場合は課題で振替(実習時間とする)、学内日の1日を臨地実習とする。 ○ 実習施設: 病院実習:下記のいずれかで行う。 医療法人社団順心会 順心病院 社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺心臓脳血管センター 国立病院機構 神戸医療センター ○その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「令和5年度成人看護学実習I要項」による。		※臨地実習中は、受け持ち対象に応じて必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 日々の振り返りの記録を行う。 次の日の行動計画を記載する。	毎日 120 分
			※学内実習中は、受け持ち対象以外の事例について、解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。	30 分
			※臨地実習における学びについて復習を行う。	30 分
				60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「令和5年度成人看護学実習I要項」に記載する。			
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。			
テ キ ス ト	成人看護学のテキスト、授業資料すべて。その他、必要時別途提示する。			
参 考 図 書	人体構造機能学、病態生理学、基礎看護学の教科書・授業資料すべて			
履修上の留意点	状況によっては、遠隔実習などを組み入れる可能性があるため、インターネット環境を整えておくこと。			
実務経験のある教員	原田 美穂子 (看護師)			

授 業 科 目 名	成人看護学実習Ⅱ	英 文 科 目 名	Adult Nursing Practicum Ⅱ	
担 当 教 員 名	神谷 千鶴		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-7	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康障害をもち、療養生活を送っている成人期の慢性期および終末期にある対象を理解したうえで、科学的思考に基づく看護を実践・創造できる基礎的能力を養う。 チームの一員として適切な看護が実践できる能力や自主性、自律性を養うと共に自己の看護観を発展させる。 [学修目標] 1. 成人期の急性期および回復期にある健康障害をもつ対象の特性を理解できる。 2. 対象がもつ健康問題について科学的根拠をもって総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、チームの一員としての責任を自覚して、チームのメンバーと連携がとれる。 5. 学習者として、自己の思考・行動を振り返り、実践に活かすことができる。 6. 看護診断過程を振り返り、臨地実習における今後の自己の学習課題をレポートに記述することができる。 7. 実習を通して発展させた自己の看護観を記述できる。 8. 見学実習で学んだ医療と看護について、事前課題を行ったうえでレポートに記述することができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○ 実習期間: グループ別ローテーションとなり、下記に期間のいずれかで実施する。 以下日程に実習全体リエンション、領域リエンションが追加される場合がある。 令和5年 9月19日(火)～ 9月29日(金) 令和5年10月 2日(月)～10月13日(金) 令和5年10月16日(月)～10月27日(金) 令和5年10月30日(月)～11月10日(金) 令和5年11月13日(月)～11月24日(金) 令和5年11月27日(月)～12月 8日(金) 2週間のうちの最終日は、振替休日となる場合がある。ただし、祝日がある場合は課題で振替(実習時間とする)、学内日の1日を臨地実習とする。 ○ 実習施設: 病院実習:下記のいずれかで行う。 兵庫県立 淡路医療センター 国立病院機構 兵庫中央病院 国立病院機構 神戸医療センター 医療法人社団順心会 順心淡路病院 その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「令和5年度成人看護学実習Ⅱ要項」による。		※臨地実習中は、受け持ち対象に応じて必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 日々の振り返りの記録を行う。 次の日の行動計画を記載する。	毎日 120 分
			※学内実習中は、受け持ち対象以外の事例について、解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 ※臨地実習における学びについて復習を行う。	30 分 30 分 60 分 60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「令和5年度成人看護学実習Ⅱ要項」に記載する。			
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。			
テ キ ス ト	成人看護学のテキスト、授業資料すべて。その他、必要時別途提示する。			
参 考 図 書	人体構造機能学、病態生理学、基礎看護学の教科書・授業資料すべて			
履修上の留意点	状況によっては、遠隔実習などを組み入れる可能性があるため、インターネット環境を整えておくこと。			
実務経験のある教員	神谷 千鶴（看護師）			

授 業 科 目 名	老年看護学実習Ⅱ	英 文 科 目 名	Geriatric Nursing Practicum Ⅱ	
担 当 教 員 名	下 舞 紀 美 代		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-9	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] ①看護過程論実習での学習を踏まえ、計画立案、実施を行う。②高齢者の加齢に伴う変化について説明し、計画立案や日々の実習に活かす。③計画立案や実施は、臨床指導者や教員の指導を受け、支援を受けながら実践を行う。④対象及びその家族の尊厳と人権を重視した会話や実践を行う。⑤挨拶、報告、連絡、相談を自己の判断でできる機会を設ける。⑥他者の意見を聞きつつ、自身の看護について意見を述べる。⑦自己の看護を振り返り今後の課題を明確にするためのカンファレンスを行う。 以上の①～⑦の能力を養う。 [学修目標] ①加齢に伴う生理的変化について説明することができる。 ②高齢者に対する尊敬をもち、人の人権を擁護することができる。 ③解剖、生理学、病態、薬理学、老年看護学の知識を対象の看護に活用することができる（口頭、記述ともに）。 ④フィジカルアセスメントを活用した観察や測定ができる。 ⑤看護過程（情報収集、アセスメント、診断、成果・目標、計画、評価）の説明および記述ができる。 ⑥学修した看護学の知識・技術・態度を統合し、根拠に基づき個別性のある看護を実践できる。 ⑦多様な社会資源、サービス、制度の実地を見ることで看護の受け手の生活に関わる社会資源の意義を説明できる。 ⑧実践の振り返りを通して、看護専門職としての自己の在り方を省察し、看護の質の向上に向けた自己研鑽ができる。 ⑨個人情報の取り扱い、法的根拠を理解し情報保護ができる。 ⑩患者の安全に留意し、事故や感染を起こさない。 ⑪チームメンバー（指導者等）の指導の下、看護の実践及び報告・連絡・相談ができる。 ⑫カンファレンスにおいて自身の意見を表明し、メンバーの意見を聴くことができる。 ⑬高齢者特有の身体的・心理的・社会的変化、個々の生活過程、価値観、スピリチュアリティを踏まえた包括的視野で高齢者をアセスメントできる。 ⑭フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念を説明でき、予防の看護を実践できる。 ⑮実習を通して発展させた自己の看護観を記述できる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○ 実習期間： グループ別ローテーションとなり、下記に期間のいずれかで実施する。 以下日程に実習全体オリエンテーション、領域オリエンテーションが追加される場合がある。 令和5年 9月18日(月)～ 9月29日(金) 令和5年10月 2日(月)～10月14日(金) 令和5年10月18日(月)～10月27日(金) 令和5年10月30日(月)～11月10日(金) 令和5年11月13日(月)～11月24日(金) 令和5年11月27日(月)～12月 8日(金) 2週間のうちの最終日は、振替休日となる場合がある。ただし、祝日がある場合は課題で振替(実習時間とする)、学内日の1日を臨地実習とする。 ○ 実習施設： 病院実習：下記のいずれで行う。 社会福祉法人 聖隷福祉財団 聖隷淡路病院 医療法人社団順心会 順心淡路病院 その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「令和5年度老年看護学実習Ⅱ要項」による。		※臨地実習中は、受け持ち対象に応じて必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 日々の振り返りの記録を行う。 次の日の行動計画を記載する。 ※学内実習中は、受け持ち対象以外の事例について、解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 ※臨地実習における学びについて復習を行う。	毎日 120 分 30 分 30 分 60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	学内実習演習 10%、臨地実習の実践・態度（個人情報の保護・尊厳など）50%、実習記録 30%、課題レポート5%・俳句5%			
課題のフィードバックの方法	課題ノート、実習記録に対するコメントの記載、実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。			
テ キ ス ト	老年看護学のテキスト、授業資料すべて。その他、必要時別途提示する。			
参 考 図 書	人体構造機能学、病態生理学、基礎看護学の教科書・授業資料すべて			
履修上の留意点	健康に留意し、事前学習を必ず行って望む。状況によっては、遠隔実習などを組み入れる可能性があるため、インターネット環境を整えておくこと。			
実務経験のある教員	下 舞 紀 美 代(看護師)			

授 業 科 目 名	小児看護学実習	英 文 科 目 名	Pediatric Nursing Practicum	
担 当 教 員 名	箕浦 洋子、谷口 英雄		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C－10	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 発達段階や健康レベルを踏まえて子どもとその家族を総合的に理解し、子どもの健康の回復、保持、増進に向けた看護援助を実践する基礎的能力を養う。 [学修目標] 1. 子どもとその家族を総合的に理解することができる。 2. 子どもの発達段階と健康レベルを考慮した看護過程の展開ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習に臨むことができる。 4. 小児看護学実習で経験した場面を振り返り、子どもの人権について自己の考えを俳句に記述することができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○実習期間:下記のいずれかで行う。 病院実習(2週間) 2023年 9月19日(火)～ 9月29日(金) 2023年10月 2日(月)～10月13日(金) 2023年10月16日(月)～10月27日(金) 2023年10月30日(月)～11月10日(金) 2023年11月13日(月)～11月24日(金) 2023年11月27日(月)～12月 8日(金) 2023年12月11日(月)～12月22日(金) 2024年 1月15日(月)～ 1月26日(金) 2024年 1月29日(月)～ 2月 9日(金) 【1週目:臨地実習】 【2週目:学内実習】 ○実習施設:下記のいずれかで行う。 病棟実習:兵庫県立尼崎総合医療センター 兵庫県立淡路医療センター 兵庫県立こども病院 済生会兵庫県病院 加古川中央市民病院		【学内実習】 ・提示された事例について、小児の解剖生理、成長・発達を踏まえて、看護過程を展開できるように予習・復習を行う。 【臨地自習】 ・受け持ち対象に応じた成長・発達段階の確認、必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般等について予習・復習を行う。 ・日々学んだことを振り返り記録し、それを踏まえて翌日の行動計画を立案する。	毎日 120 分 120 分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2023 年度小児看護学実習要項」に記載する。			
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。			
テ キ ス ト	小児看護学講義で使用したテキストおよび講義資料。その他、必要時別途提示する。			
参 考 図 書	パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護(照林社) 写真でわかる小児看護技術(インターメディカ) こどもの病気の地図帳(講談社) 病気がみえる小児科(医療情報科学研究所)			
履修上の留意点	対象を理解するために、小児看護学の授業で学修した内容(特に小児の成長・発達)について、復習をして実習に臨むこと。			
実務経験のある教員	箕浦 洋子(看護師)、谷口 英雄(看護師)			

授 業 科 目 名	母性看護学実習	英 文 科 目 名	Maternal Nursing Practicum
担 当 教 員 名	松村 恵子、神谷 映里、尾筋 淑子、小笠原 百恵、永峰 啓子	実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習
カリキュラム記号	C-11	D P 記 号	DP-2
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 臨地での実習を通して、母子の健康意義や健康増進に向けた看護の役割を認識し、マタニティサイクルにある対象および家族への援助を行うための基礎的実践能力を学修する。 [学修目標] 1. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にある対象の特徴を理解し、根拠に基づいた看護過程の展開ができる。 2. 母子やその家族とのかかわりを通して、家族や親子の愛着について説明できる。 3. 生活者として母子およびその家族を捉え、健康保持や増進のために行う支援について、その根拠や基本的な支援方法を説明できる。		
	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○実習期間： 令和5年9月～令和6年3月のうち2週間 ○実習施設：下記のいずれかで実習を行う。 済生会兵庫県病院、たなべ産婦人科、 兵庫県立淡路医療センター 助産院(未定) ほか *その他の事項および実習の詳細については、 別途配付する「令和5年度 実習要項 母性看護学実習」による。	・講義資料や教科書を用いて、実習前に母性看護学Ⅰ～Ⅲで学んだ知識の復習を行う ・講義資料や教科書を用いて、実習記録・課題を行う。	毎日 2 時間 程度
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「令和5年度 実習要項 母性看護学実習」に記載する。		
課題のフィードバックの方法	臨地での実習指導および実習記録の確認を行い、学修目標の達成状況を確認する。 提出された課題は適宜添削し、実習施設および学内講義室等で個別に指導する。		
テ キ ス ト	母性看護学のテキスト・講義資料、そのほか適宜紹介する。		
参 考 図 書	適宜紹介する。		
履修上の留意点	*実習期間と実習場所に注意する。 *提示される事前学習を行って実習に臨む。		
実務経験のある教員	松村 恵子(助産師)、神谷 映里(助産師)、尾筋 淑子(助産師) 小笠原 百恵(助産師)、永峰 啓子(助産師)		

授 業 科 目 名	精神看護学実習	英 文 科 目 名	Psychiatric Nursing Practicum	
担 当 教 員 名	小出水 寿英		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-12	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 精神科医療・看護における生命の尊厳、基本的な権利など倫理的な理解を深める。また、セルフケア理論に基づき看護過程の展開を理解する。さらに、精神障害者が地域移行や地域生活を定着するために必要な事柄を理解する。 [学修目標] 1. 精神に障害を持つ対象者を全人的に理解し、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。 2. セルフケア理論に基づき、ケアプランを立案・実施・評価できる。 3. 地域で生活する精神障害者への継続看護、地域定着に必要な事柄を明確にできる。 4. 精神障害者のストレングスと今後の課題を明確にすることができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○ 実習期間:下記のいずれかで行なう。 令和5年9月～令和6年3月のうち2週間 ○ 実習施設:下記のいずれかで行う。 1. 実習施設 新淡路病院 淡路障害者生活支援センター さくらんぼの里 訪問看護ステーション心		精神看護学Ⅰ・精神看護学Ⅱ・精神看護学Ⅲで使用した教科書、及び参考図書・文献等、その他必要時別途提示された参考図書の該当箇所を通読し、実習課題を理解するために必要な内容をまとめ記述し理解する。	毎日 60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2023 年度精神看護学実習要項」に記載する。			
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭または文書にてフィードバックする。			
テ キ ス ト	精神看護学Ⅰ・精神看護学Ⅱ・精神看護学Ⅲで使用した教科書、及び参考図書、文献等			
参 考 図 書	適宜紹介する。			
履修上の留意点	講義の復習、事前課題学習、実習中の課題の学習等、必ず実施して臨んでください。			
実務経験のある教員	小出水 寿英			

【4 学年】

授 業 科 目 名	英語Ⅵ	英 文 科 目 名	English Ⅵ	
担 当 教 員 名	西垣 有夏		実 務 経 験	無
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	1 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	A－1－22	D P 記 号	DP-1	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 医療現場で必要となる英会話や医療知識に関する英文に取り組む。会話文は音読、読解は精読形式で授業を進める。英文構造の把握も徹底する。 [学修目標] 主語動詞といった英文構造を把握した上で正確に英文を読み、医療現場で基本的な英会話ができるようになる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	Chapter 1: Polio and Vaccination—Listening Activity		各回テキストの読み込み、 課題プリントの取り組み	各回 60 分
第 2 回	Chapter 1: Polio and Vaccination—Reading Activity			
第 3 回	Chapter 2: A Doctor’s Prescription—Listening Activity			
第 4 回	Chapter 2: A Doctor’s Prescription—Reading Activity			
第 5 回	Chapter 3: Barometric Pressure and Migraines—Listening Activity			
第 6 回	Chapter 3: Barometric Pressure and Migraines—Reading Activity			
第 7 回	Chapter 4: Internal Medical Exam—Listening Activity			
第 8 回	Chapter 4: Internal Medical Exam—Reading Activity			
第 9 回	Chapter 5: Colon Polyps—Listening Activity			
第 10 回	Chapter 5: Colon Polyps—Reading Activity			
第 11 回	Chapter 6: Respiratory Symptoms—Listening Activity			
第 12 回	Chapter 6: Respiratory Symptoms—Reading Activity			
第 13 回	Chapter 7: Diabetes—Listening Activity			
第 14 回	Chapter 7: Diabetes—Reading Activity			
第 15 回	Chapter 1～Chapter 7 までの復習			
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	課題プリント 30%、定期試験 70%			
課題のフィード バックの方法	課題プリントを採点して次講義時に返却する。			
テ キ ス ト	西原俊明、西原真弓著 English for Medicine (金星堂)			
参 考 図 書	英和辞典。『ジーニアス英和辞典第3版』を推奨するが、すでに所持している辞書でも本講義で通用することがあるので担当者に相談すること。			
履修上の留意点	毎時間課題プリントを配布するので次回授業時までに仕上げて提出すること。学生にあてて授業進行するので主体性をもって取り組むように。			
実務経験のある 教 員				

授 業 科 目 名	公衆衛生看護活動論Ⅲ★ (対象別公衆衛生看護活動展開論②)	英 文 科 目 名	Public Health Nursing Activities Ⅲ	
担 当 教 員 名	伊木 智子、古川 秀敏、臼井 香苗、桂 香織		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必修(保健師)	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-14	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 学校保健・産業保健の目的と理念、制度やシステムを理解し、公衆衛生看護活動に必要な基礎的な知識・技術を教授する。 [学修目標] 1. 学校保健・産業保健の目的と理念について理解できる。 2. 学校保健・産業保健の制度とシステムについて理解できる。 3. 学校保健活動の概要について理解し、養護教諭の果たす役割と保健室の機能、児童・生徒などへの支援に必要な基礎的な知識・技術について理解できる。 4. 産業保健・看護活動の概要について理解し、産業看護職の専門性と役割・機能、看護活動を展開するための基礎的な知識・技術について理解できる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	学校保健の理念と目的、学校保健の歴史と現状、学校保健安全の制度とシステム、学校保健安全組織と人材		各講義で提示する課題に関して調べ、まとめることにより理解を深めること。	1～2 時間
第 2 回	養護教諭の役割・機能			
第 3 回	学校保健の対象と健康課題			
第 4 回	対象の健康課題における活動の展開方法			
第 5 回	学校保健活動と養護教諭の活動の実際①			
第 6 回	学校保健活動と養護教諭の活動の実際②			
第 7 回	産業保健の理念と目的、産業保健の制度とシステム①			
第 8 回	産業保健の理念と目的、産業保健の制度とシステム②			
第 9・10 回	労働安全衛生に係る法規 労働安全衛生に関する組織と人材、管理体制5管理、労働安全マネジメントシステム、健康診断			
第 11 回	産業保健における対象理解と健康課題における対策①			
第 12 回	産業保健における対象理解と健康課題における対策②			
第 13 回	産業保健の展開方法①			
第 14 回	産業保健の展開方法②			
第 15 回	まとめ			
学修評価の方法 (成績割合%)	グループへの参加度(意欲・姿勢)(50%)、課題レポートなどの提出物(30%)、小テスト(20%)			
課題のフィードバックの方法	提出物についてコメントを入れて各自に返却する。			
テ キ ス ト	公衆衛生看護学.jp、インターメディカル			
参 考 図 書	随時、紹介する。			
履修上の留意点	グループでの学習を主体とし、グループディスカッションを通して発表を行うことが中心となります。			
実務経験のある教員	伊木 智子(保健師)、古川 秀敏(保健師)、臼井 香苗(保健師)、森花 美和子(保健師) 桂 香織(養護教諭) 学校保健・看護学、産業保健・看護学の臨地実習において必要な実践知識・技術、態度を教育する。 特に「養護教諭の役割や活動の実際」は養護教諭が講義を担当し実践的な教育を行う。			

授 業 科 目 名	地域看護診断論	英 文 科 目 名	Community Health Nursing Assessment	
担 当 教 員 名	伊木 智子、古川 秀敏、臼井 香苗		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必修(保健師)	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-15	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域看護診断の概念と目的を理解し、保健師として人々が生活する地域を対象とした支援技術、地域全体の健康を向上するための方法、臨地実習予定となっている地域に顕在・潜在している課題をアセスメントするための展開方法など基本的な技術を理解する。 [学修目標] 1. 臨地実習予定となっている地域の健康課題を抽出するために、地域看護診断のモデル(コミュニティ・アズ・パートナーモデル)を用いて地域の特性に関わる情報収集の方法について習得できる。 2. 情報収集したデータの意味を解釈し、アセスメントを行い、地域の健康課題を抽出できる力を習得できる。 3. 地域に顕在あるいは潜在する健康課題の把握方法について理解できる。 4. 抽出された健康課題に優先順位をつけ、健康課題の解決・改善を目指した事業計画と評価方法の立案ができる基礎的な知識と技術について習得できる。 5. 地域看護診断のモデルを活用して、実習地域のデータ・情報をアセスメントし、地域の健康課題や特性を明らかにすることができる。 6. 公衆衛生看護学実習の目標、実習内容、方法を理解し、実習地域の地域看護診断や事前学習に臨むことができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回	オリエンテーション地域看護診断の概念と目的、意義、展開方法、コミュニティ・アズ・パートナーモデルの概要、		実習先の自治体からの地域に関する資料、ホームページを閲覧して情報を整理する。	1時間程度
第 2 回	地域の概要とコアに関する分析			
第 3・4 回	地域のサブシステムに関する分析			
第 5 回	グループディスカッション 発表、意見交換		地域理解のワークシートをもとに事前課題を行う。	1～2時間程度
第 6・7 回	地区踏査計画：地区踏査の意義と方法 資料と地区踏査の結果と情報を統合する			
第 8・9 回	地域の健康課題の明確化：顕在的・潜在的健康課題の抽出、地域特性の明確化			
第 10・11 回	地域の健康課題の明確化：健康への影響や関連の分析、健康課題の優先順位をつけ健康課題の解決・改善を目指した事業計画と評価		グループディスカッション・アセスメント結果の発表・意見交換のための資料作成の準備	1～2時間程度
第 12 回	地域の健康課題の明確化：実習地域の健康課題に対する地域の強みの明確化			
第 13 回	実習地域の地域看護診断：健康課題に対する地域の活動計画案の検討			
第 14 回	実習地域の地域看護診断：実習地域の地域看護診断発表会 まとめ			
第 15 回				
学修評価の方法 (成績割合%)	1. まとめのテスト (30%) 2. 地域理解ワークシート (20%) 3. 地区踏査計画 (10%) 4. グループワーク資料 (40%)			
課題のフィードバックの方法	課題・提出物はコメントをつけて返却する。 グループ発表に対しては発表後にフィードバックする。			
テ キ ス ト	公衆衛生看護学.jp、インターメディカル			
参 考 図 書	・金川克子：地域看護診断、技術と実際、東京大学出版会 ・金川克子監訳：コミュニティ・アズ・パートナー・モデル、地域看護学の理論と実際、医学書院			
履修上の留意点	授業時間外でのグループワークの取り組みを必要とするため、空き時間を活用し計画的に進めていくことが重要となる。公衆衛生看護学実習(行政実習)において必要とされる基礎的な知識、技術を修得する科目である。			
実務経験のある教員	伊木 智子(保健師)、古川 秀敏(保健師)、臼井 香苗(保健師) 保健師としての経験を踏まえて、地域のアセスメント、計画、実施、評価について理論モデルを活用して具体的に教育を行う。			

授 業 科 目 名	公衆衛生看護管理論	英 文 科 目 名	Public Health Nursing Management
担 当 教 員 名	伊木 智子、和泉 比佐子	実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前期	必 修 / 選 択	必修(保健師)
単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講 義
カリキュラム記号	B-17	D P 記 号	DP-3
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 公衆衛生看護管理の目的および機能を理解し、保健師の担う公衆衛生看護管理の実際について理解する。さらに地域包括ケアシステムと保健活動について事例をもとに教授する。 [学修目標] 1. 公衆衛生看護管理の目的と機能を理解する。 2. 災害が感染症などの健康危機管理における体制、平常時、発生時、回復時の対策及び予防策について理解する。 3. 地域包括ケアシステムにおける保健師活動について事例を通じて理解する。		
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6～7 回 第 8 回	ガイダンス 保健師の公衆衛生看護管理 公衆衛生看護管理の基本 地域の健康課題に応じた事業の開発・施策化のプロセス PDCA サイクル 施策化 健康危機管理① 大災害に備えた平常時の保健活動 災害発生時の保健活動 健康危機管理② 感染症保健活動の現状と保健指導の方法 地域ケアシステムと保健師活動 まとめ	【予習】 教科書の関連ページを読解しておくこと。 【復習】 教科書や配布されたレジメ、資料の内容などをもとに理解を深める。 保健師国家試験問題を解いてみる。	1～2時間 程度 1～2時間 程度
学修評価の方法 (成績割合%)	小テスト、課題レポート 50% 筆記試験 50% (別に実施する「卒業前学力考査」における得点率 *大学が定める卒業認定基準以上の得点		
課題のフィードバックの方法	口頭、文書などでフィードバックを行う。		
テ キ ス ト	公衆衛生看護管理論 (メヂカルフレンド社) 平野かよ子編 最新版		
参 考 図 書	随時提示する。		
履修上の留意点	これまでの公衆衛生看護学の講義・演習・実習での知識技術を統合していく科目です。保健師の役割と専門性をより深く学ぶためにも、主体的、積極的に取り組んでください。		
実務経験のある教員	伊木 智子 (保健師)、和泉 比佐子 (保健師) 保健師としての実務経験を活かし、公衆衛生看護活動における管理と方法について実践的教授する。		

授 業 科 目 名	公衆衛生看護技術論	英 文 科 目 名	Public Health Nursing Skills	
担 当 教 員 名	伊木 智子、臼井 香苗		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必修(保健師)	
単 位 数・時 間	2 単 位・30 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	B-16	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 公衆衛生看護活動の支援方法のうち、個人や家族を対象とした個別支援の考え方、保健師が行う家庭訪問の計画、実施、評価の一連のプロセスについて実践的に教授する。また、乳幼児健診や特定健診・特定保健指導における支援技術、地域組織活動やグループ活動への支援についての基本的技術について実践的に教授する。 [学修目標] 1. 個人や家族を対象とした個別支援の考え方を理解する。 2. 保健師の行う家庭訪問の意義や方法、技術を習得する。 3. 乳幼児健診の実際、保健指導、評価に必要な技術を習得する。 4. 特定健診、特定保健指導方法における支援技術を習得する。 5. グループ活動や地域組織活動の意義、発展過程、保健師の支援方法について理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2～5 回 第 6～9 回 第 10～15 回	公衆衛生看護における支援技術 母子（親子）保健の事例：情報整理、アセスメント、 個別援助計画立案 支援技術の展開（家庭訪問）ロールプレイ 乳幼児健診の実施体制、保健指導、観察内容 特定健診、特定保健指導 グループ支援、地域組織活動の育成支援 地区組織活動支援 まとめ		新生児家庭訪問事例展開 を行う。 演習前:情報整理、アセス メント、訪問計画立案を行 う。 演習後:今後の支援計画 の検討 公衆衛生看護学実習Ⅱで 用いる記録様式に記録す る。	1～2時間 程度
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	演習記録（80%）、演習への取り組み姿勢・態度（20%）			
課題のフィード バックの方法	演習記録、ロールプレイでは個別にフィードバックする。 演習時のフィードバックは対面で行い、演習終了後は全体へフィードバックする。			
テ キ ス ト	2・3年次に購入した公衆衛生看護関連の教科書、資料			
参 考 図 書	「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術」中村裕美子ら著（医学書院）最新版 「公衆衛生看護学テキスト第2巻公衆衛生看護の方法と技術」佐伯和子著（医歯薬出版株式会社）最新版 「最新保健学講座（2）公衆衛生看護支援技術」村嶋幸代ら著（メヂカルフレンド社）最新版			
履修上の留意点	地域で暮らす個人・家族への支援方法について講義、演習で学んでいきます。公衆衛生看護学 実習Ⅱ（行政実習）に向けて重要な科目になります。主体性をもって取り組みましょう。			
実務経験のある 教 員	伊木 智子（保健師）、臼井 香苗（保健師）			

授 業 科 目 名	在宅看護学実習	英 文 科 目 名	Home Health Care Nursing Practicum	
担 当 教 員 名	古川 秀敏、伊木 智子、臼井 香苗、森花 美和子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-3	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域で生活しているさまざまな健康レベル・ライフステージにある対象（個人・家族・集団・地域）の特性に合わせて展開される看護活動を通して、基本的な知識と技術、展開方法を理解する。また、地域における保健医療福祉システムにおける看護職の役割・機能を理解する。 [学修目標] 1. 地域社会で生活する住民に対する看護活動の実践について理解する。 2. 在宅看護の展開について理解する。 3. 地域の保健医療福祉システムにおける看護職の役割・機能を理解する。 4. 地域の特性を理解し、生活の場における看護の役割を学ぶ。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	実習期間 令和4年9月20日(火)～令和5年3月31日(金)のうち2週間 実習内容 【訪問看護ステーション実習】及び【地域における多様な場での実習】を行う。 実習施設 下記のいずれかで行う。 【訪問看護ステーション実習】 順心会訪問看護ステーション加古川 順心会訪問看護ステーション宝殿 順心会訪問看護ステーション学園都市 順心会訪問看護ステーション淡路 聖隷訪問看護ステーション淡路 共生訪問看護ステーション 河上整形外科訪問看護ステーション あべいすと訪問看護リハビリセンター 尼崎医療協同組合訪問看護ステーション菜の花 あかね訪問看護・リハビリセンター Soraケアセンター 看守り処 花もり いちのみや訪問看護ステーション 訪問看護ステーション桔梗 ジャック訪問看護リハステーション 北須磨訪問看護リハビリセンター			

授 業 科 目 名	公衆衛生看護学実習 I (個人・家族・集団・組織の支援実習)	英 文 科 目 名	Public Health Nursing Practicum I
担 当 教 員 名	伊木 智子、古川 秀敏、臼井 香苗、森花 美和子	実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前期	必 修 / 選 択	選 択
単 位 数・時 間	2 単位・90 時間	授 業 形 態	実 習
カリキュラム記号	C-4	D P 記 号	DP-3
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 組織（学校、産業の場）において実習を行う。 1. 養護教諭に必要な知識や基本的技術、学校保健活動の展開方法を理解する。また、学校保健活動の実際を通じて、学童期、思春期の特性や健康課題を明らかにし養護教諭の役割、機能を理解する。さらに、学校組織における養護教諭の役割や関係機関との連携について理解する。 2. 働く人々の健康の保持増進、QOLの向上を目指し、充実した職業生活を支える労働衛生管理のあり方や産業看護職の役割について学ぶ。さらに、様々な産業保健専門職からなるチームの一員としての産業看護職の役割を理解する。実習期間中に産業保健年間計画されている健康診断、保健指導、健康相談、職場巡視、安全衛生委員会などの事業に参加し理解を深める。 [学修目標] 1. 学校保健・看護学実習 1) 小学校および中学校の児童、生徒の学校生活に接し、学童期、思春期の特性や健康課題について理解する。 2) 学校保健活動の実際を通じて、養護教諭に必要な知識や基本的技術、学校保健活動の展開方法を理解する。 3) 学校組織について学ぶと共に、養護教諭と教職員および関係機関との連携について学び、養護教諭の役割と機能を理解する。 2. 産業保健・看護学実習 1) 働く人の労働の特徴について知り、労働条件や労働環境と健康が密接にかかわっていることを理解する。 2) 企業体制ならびに安全衛生管理の体制について理解する。 3) 事業場の産業保健に関するさまざまな事業に参加し、働く人の健康課題に対して、産業看護職による健康支援について理解する。 4) さまざまな産業保健専門職との連携について理解する		
	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	【実習期間】：以下のいずれかで行う 1. 学校保健・看護学実習（1 週間） 令和 5 年 4 月～6 月 2. 産業保健・看護学実習（1 週間） 令和 5 年 9 月上旬 【実習施設】 1. 学校保健・看護学実習：淡路市内小中学校 2. 産業保健・看護学実習：ダイキン工業株式会社、プライミクス株式会社 ※詳細は実習要項および実習オリエンテーション時配付資料を参照してください。		
		【実習前】 ・関連科目の復習をする。 ・実習校、事業所について資料、HPなどで調べる。 【実習中】 ・実習記録、臨地における情報収集、参加する事業などについて法的根拠、位置づけなどを調べる。 ・実習での学びを考察し、理解を深める。 【実習後】 ・実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。 ・学生間で実習での学びを共有し、学びを深める。 ・保健師国家試験の過去問、模擬試験問題を解く。	1～2 時間 毎日
学修評価の方法 (成績割合%)	学習への参加状況、記録・レポート内容、グループワークの貢献度（意欲・姿勢）、プレゼンテーション、カンファレンス貢献度（意欲・姿勢）、実習目標の達成度から総合的に評価する。		
課題のフィードバックの方法	1. 臨地における個別指導、2. 実習記録およびレポートにコメントを記入する。 3. カンファレンスでの個別、集団指導		
テ キ ス ト	児童生徒の健康診断マニュアル、日本学校保健会（最新版） 2・3 年次に購入した公衆衛生看護学関連の教科書		
参 考 図 書	適宜提示する。		
履修上の留意点	公衆衛生看護学に関連する講義で学んだことを統合し、理解を深めてください。		
実務経験のある教員	伊木 智子(保健師、衛生管理者)、古川 秀敏(保健師)、臼井 香苗(保健師)、森花 美和子(保健師)		

授 業 科 目 名	公衆衛生看護学実習Ⅱ (公衆衛生看護活動展開論及び 公衆衛生管理論実習)	英 文 科 目 名	Public Health Nursing Practicum II	
担 当 教 員 名	臼井 香苗、伊木 智子、古川 秀敏、森花 美和子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	3 単 位・135 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-5	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域で生活する人々と地域社会について理解を深め、地域特性と関連づけて実践できる能力や思考する基礎的な能力を養う。個人や家族および集団・組織を支援する公衆衛生看護活動の実際を通して、地域に暮らす人々の健康を高めるための基本的な知識および方法・技術を理解しそのあり方を学ぶ。 [学修目標] 1. 人々の生活の場としての地域の特性を把握し、既存資料・データ、保健師活動等から地域に顕在および潜在している健康課題を理解する。 2. 地域住民の主体性を尊重した公衆衛生看護活動について理解する。 3. 様々なライフサイクルや健康レベルにある個人、家族、集団、地域全体の公衆衛生看護活動を理解する。 4. 公衆衛生看護活動における多機関・多職種との連携や地域包括ケアシステムにおける保健師の役割と機能を理解する。 5. 行政を基盤とした公衆衛生看護活動における保健師の役割を理解する。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	別途配布する「公衆衛生看護学実習Ⅱ実習要項」に基づいて、下記の内容で実習を行う。 1.実習方法:学生6人程度のグループに分け兵庫県内の健康福祉事務所(保健所)3日間、市町8日間の3週間実習を行う。 1)実習オリエンテーション ・学内において全体オリエンテーションを行う。兵庫県総合オリエンテーションは県下大学合同で行う。 ・保健所、管内市町は、実習初日に実習施設で行う。 2)実習内容 ・実習地域の地域看護診断を行い、健康課題、住民の健康ニーズ、健康課題の解決に向けた地域特性をふまえた公衆衛生看護活動を理解する。 ・実習地域の保健事業に参加し公衆衛生看護活動の実際を学ぶ。 ・地域における保健・医療・福祉の関係機関、他職種の連携調整の実際を理解する。 ・実習を通して学んだことについて考察を行い、まとめを実習報告会で発表し、他グループの学生とディスカッションをする。 2.実習期間・実習施設 ・2023年 5月22日(月)～ 6月9日(金) 洲本健康福祉事務所・淡路市 ・2023年6月26日(月)～ 7月14日(金) 洲本健康福祉事務所・洲本市 ・2023年8月7日(月) ～ 8月25日(金) 明石市		【実習前】 ・公衆衛生看護科目および関連科目の復習をする。 ・実習地域の地域看護診断を展開し健康課題を明確にする。 ・公衆衛生看護技術の事前演習を行う。 【実習中】 ・地域看護診断や家庭訪問記録、日々の実習記録の課題を行う。 ・家庭訪問の対象者への支援に必要な情報収集等を行う。 ・参加する保健事業について、法的根拠、対象者、位置づけなどを調べる。 ・学びをまとめ考察していく。 【実習後】 ・学内にて全員が参加した報告会とディスカッションを実施する。 ・実習記録を整理し、不足している学習を適宜行う。 ・保健師国家試験の過去問、模擬試験問題を解く。	1～2時間 / 毎日 <

授 業 科 目 名	成人看護学実習Ⅰ	英 文 科 目 名	Adult Nursing PracticumⅠ	
担 当 教 員 名	原 田 美穂子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-6	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康障害をもち、療養生活を送っている成人期の急性期および回復期にある対象を理解したうえで、科学的思考に基づく看護を実践・創造できる基礎的能力を養う。 チームの一員として適切な看護が実践できる能力や自主性、自律性を養うと共に自己の看護観を発展させる。 [学修目標] 1. 成人期の急性期および回復期にある健康障害をもつ対象の特性を理解できる。 2. 対象がもつ健康問題について科学的根拠をもって総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、チームの一員としての責任を自覚して、チームのメンバーと連携がとれる。 5. 学習者として、自己の思考・行動を振り返り、実践に活かすことができる。 6. 看護診断過程を振り返り、臨地実習における今後の自己の学習課題をレポートに記述することができる。 7. 実習を通して発展させた自己の看護観を記述できる。 8. 見学実習で学んだ医療と看護について、事前課題を行ったうえでレポートに記述することができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○ 実習期間： グループ別ローテーションとなり、下記に期間のいずれかで実施する。 令和4年 9月16日(金)～ 9月30日(木) 令和4年10月 3日(火)～10月14日(金)(※10/4が全体オリ振替) 令和4年10月17日(月)～10月27日(木) 令和4年10月31日(月)～11月10日(木) 令和4年11月14日(月)～11月25日(金)(11/15が全体オリ振替) 令和4年11月28日(月)～12月 8日(木) 全体オリエンテーションおよび事前演習1日 9月16日を合同で行い、2週間のうちの最終日は、振替休日とする。祝日が後半にある場合は実習2日目を振替休日とする。 ○ 実習施設： 病院実習：下記のいずれかで行う。 医療法人社団順心会 順心病院 社会医療法人 渡邊高記念会 西宮渡辺心臓脳血管センター 国立病院機構 神戸医療センター ○その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「令和4年度成人看護学実習Ⅰ要項」による。		※臨地実習中は、受け持ち対象に応じて必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 日々の振り返りの記録を行う。 次の日の行動計画を記載する。 ※学内実習中は、受け持ち対象以外の事例について、解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 ※臨地実習における学びについて復習を行う。	毎日 120 分 30 分 30 分 60 分 60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「令和4年度成人看護学実習Ⅱ要項」に記載する。			
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。			
テ キ ス ト	成人看護学のテキスト、授業資料すべて。その他、必要時別途提示する。			
参 考 図 書	人体構造機能学、病態生理学、基礎看護学の教科書・授業資料すべて			
履修上の留意点	状況によっては、遠隔実習などを組み入れる可能性があるため、インターネット環境を整えておくこと。			
実務経験のある教員	原 田 美穂子（看護師）			

授 業 科 目 名	成人看護学実習Ⅱ	英 文 科 目 名	Adult Nursing Practicum Ⅱ	
担 当 教 員 名	神谷 千鶴		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-7	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 健康障害をもち、療養生活を送っている成人期の急性期および回復期にある対象を理解したうえで、科学的思考に基づく看護を実践・創造できる基礎的能力を養う。 チームの一員として適切な看護が実践できる能力や自主性、自律性を養うと共に自己の看護観を発展させる。 [学修目標] 1. 成人期の慢性期および終末期にある健康障害をもつ対象の特性を理解できる。 2. 対象がもつ健康問題について科学的根拠をもって総合的に把握し、その解決のための計画・実施・評価ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。 4. 保健医療チームにおける看護の役割を理解し、チームの一員としての責任を自覚して、チームのメンバーと連携がとれる。 5. 学習者として、自己の思考・行動を振り返り、実践に活かすことができる。 6. 看護診断過程を振り返り、臨地実習における今後の自己の学習課題をレポートに記述することができる。 7. 実習を通して発展させた自己の看護観を記述できる。 8. 見学実習で学んだ医療と看護について、事前課題を行ったうえでレポートに記述することができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○ 実習期間： グループ別ローテーションとなり、下記に期間のいずれかで実施する。 令和4年 9月16日(金)～ 9月30日(木) 令和4年10月 3日(火)～10月14日(金)(※10/4が振替休日) 令和4年10月17日(月)～10月27日(木) 令和4年10月31日(月)～11月10日(木) 令和4年11月14日(月)～11月25日(金)(11/15が振替休日) 令和4年11月28日(月)～12月 8日(木) 全体オリエンテーションおよび事前演習1日 9月16日を合同で行い、2週間のうちの最終日は、振替休日とする。ただし、祝日がある場合は課題で振替(実習時間とする)、学内日の1日を臨地実習とする。 ○ 実習施設：病院実習：下記のいずれかで行う。 兵庫県立 淡路医療センター 国立病院機構 兵庫中央病院 国立病院機構 神戸医療センター 医療法人社団順心会 順心淡路病院 その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「令和4年度成人看護学実習Ⅱ要項」による。		※臨地実習中は、受け持ち対象に応じて必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 日々の振り返りの記録を行う。 次の日の行動計画を記載する。 ※学内実習中は、受け持ち対象以外の事例について、解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 ※臨地実習における学びについて復習を行う。	毎日 120 分 30 分 30 分 60 分 60 分
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	学内実習演習 10%、臨地実習の実践・態度（個人情報保護・尊厳など） 60%、実習記録 20%、課題レポート・俳句 10%			
課題のフィードバックの方法	課題ノート、実習記録に対するコメントの記載、実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。			
テ キ ス ト	成人看護学のテキスト、授業資料すべて。その他、必要時別途提示する。			
参 考 図 書	人体構造機能学、病態生理学、基礎看護学の教科書・授業資料すべて			
履修上の留意点	状況によっては、遠隔実習などを組み入れる可能性があるため、インターネット環境を整えておくこと。			
実務経験のある教員	神谷 千鶴（看護師）			

授 業 科 目 名	老年看護学実習Ⅱ	英 文 科 目 名	Geriatric Nursing Practicum Ⅱ
担 当 教 員 名	下 舞 紀 美 代	実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習
カリキュラム記号	C-9	D P 記 号	DP-2
授 業 の 概 要 学 修 目 標	〔授業の概要〕 ①看護過程論実習での学習を踏まえ、計画立案、実施を行う。②高齢者の加齢に伴う変化について説明し、計画立案や日々の実習に活かす。③計画立案や実施は、臨床指導者や教員の指導を受け、支援を受けながら実践を行う。④対象及びその家族の尊厳と人権を重視した会話や実践を行う。⑤挨拶、報告、連絡、相談を自己の判断でできる機会を設ける。⑥他者の意見を聞きつつ、自身の看護について意見を述べる。⑦自己の看護を振り返り今後の課題を明確にするためのカンファレンスを行う。 以上の①～⑦の能力を養う。 〔学修目標〕 ①加齢に伴う生理的変化について説明することができる。 ②高齢者に対する尊敬をもち、人の人権を擁護することができる。 ③解剖、生理学、病態、薬理学、老年看護学の知識を対象の看護に活用することができる（口頭、記述ともに）。 ④フィジカルアセスメントを活用した観察や測定ができる。 ⑤看護過程（情報収集、アセスメント、診断、成果・目標、計画、評価）の説明および記述ができる。 ⑥学修した看護学の知識・技術・態度を統合し、根拠に基づき個別性のある看護を実践できる。 ⑦多様な社会資源、サービス、制度の実地を見ることが看護の受け手の生活に関わる社会資源の意義を説明できる。 ⑧実践の振り返りを通して、看護専門職としての自己の在り方を省察し、看護の質の向上に向けた自己研鑽ができる。 ⑨個人情報取り扱い、法的根拠を理解し情報保護ができる。 ⑩患者の安全に留意し、事故や感染を起こさない。 ⑪チームメンバー（指導者等）の指導の下、看護の実践及び報告・連絡・相談ができる。 ⑫カンファレンスにおいて自身の意見を表明し、メンバーの意見を聴くことができる。 ⑬高齢者特有の身体的・心理的・社会的変化、個々の生活過程、価値観、スピリチュアリティを踏まえた包括的視野で高齢者をアセスメントできる。 ⑭フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの概念を説明でき、予防の看護を実践できる。 ⑮実習を通して発展させた自己の看護観を記述できる。		
	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○ 実習期間： グループ別ローテーションとなり、下記に期間のいずれかで実施する。 令和4年9月16日(金)～9月30日(木) 令和4年10月3日(火)～10月14日(金)(※10/4が振替休日) 令和4年10月17日(月)～10月27日(木) 令和4年10月31日(月)～11月10日(木) 令和4年11月14日(月)～11月25日(金)(11/15が振替休日) 令和4年11月28日(月)～12月8日(木) 全体オリエンテーションおよび事前演習1日 9月16日を合同で行い、2週間のうちの最終日は、振替休日とする。ただし、祝日がある場合は課題で振替(実習時間とする)、学内日の1日を臨地実習とする。 ○ 実習施設：病院実習：下記のいずれかで行う。 社会福祉法人 聖隷福祉財団 聖隷和時病院 医療法人社団順心会 順心淡路病院 その他の事項および実習の詳細については、別途配付する「令和4年度老年看護学実習Ⅱ要項」による。	※臨地実習中は、受け持ち対象に応じて必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 日々の振り返りの記録を行う。 次の日の行動計画を記載する。 ※学内実習中は、受け持ち対象以外の事例について、解剖生理学、病態治療学、看護学全般についての予習・復習を行う。 ※臨地実習における学びについて復習を行う。	毎日 120 分 30 分 30 分 60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	学内実習演習 10%、臨地実習の実践・態度（個人情報の保護・尊厳など）60%、実習記録 20%、課題レポート・俳句 10%		
課題のフィードバックの方法	課題ノート、実習記録に対するコメントの記載、実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。		
テ キ ス ト	老年看護学のテキスト、授業資料すべて。その他、必要時別途提示する。		
参 考 図 書	人体構造機能学、病態生理学、基礎看護学の教科書・授業資料すべて		
履修上の留意点	健康に留意し、事前学習を必ず行って望む。状況によっては、遠隔実習などを組み入れる可能性があるため、インターネット環境を整えておくこと。		
実務経験のある教員	下 舞 紀 美 代 (看護師)		

授 業 科 目 名	小児看護学実習	英 文 科 目 名	Pediatric Nursing Practicum	
担 当 教 員 名	箕浦 洋子、谷口 英雄		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C－10	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 発達段階や健康レベルを踏まえて子どもとその家族を総合的に理解し、子どもの健康の回復、保持、増進に向けた看護援助を実践する基礎的能力を養う。 [学修目標] 1. 子どもとその家族を総合的に理解することができる。 2. 子どもの発達段階と健康レベルを考慮した看護過程の展開ができる。 3. 専門職として必要な倫理的態度で実習に臨むことができる。 4. 小児看護学実習で経験した場面を振り返り、子どもの人権について自己の考えをレポートに記述することができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○実習期間 令和4年9月16日(金)～令和5年2月17日のうち2週間 ○病院実習(4日間) 2022年 9月20日(火)～ 9月22日(木) 2022年10月 4日(火)～ 10月 7日(金) 2022年10月18日(火)～ 10月21日(金) 2022年11月 1日(月)～ 11月 4日(金) 2022年11月15日(月)～ 11月18日(金) 2022年11月29日(火)～ 12月 2日(金) 2022年12月13日(火)～ 12月16日(金) 2022年12月19日(月)～ 12月22日(木) 2023年 1月30日(月)～ 2月 2日(木) 2023年 2月13日(月)～ 2月16日(木) ＜A日程＞ ＜B日程＞ 【1週目:学内実習】 【1週目:臨地実習】 【2週目:臨地実習】 【2週目:学内実習】 ○実習施設:下記のいずれかで行う。 病棟実習:兵庫県立尼崎総合医療センター 兵庫県立淡路医療センター 兵庫県立こども病院 済生会兵庫県病院 加古川中央市民病院		【学内実習】 ・提示された事例について、小児の解剖生理、成長・発達を踏まえて、看護過程を展開できるように予習・復習を行う。	毎日
			【臨地自習】 ・受け持ち対象に応じた成長・発達段階の確認、必要な解剖生理学、病態治療学、看護学全般等について予習・復習を行う。 ・日々学んだことを振り返り記録し、それを踏まえて翌日の行動計画を立案する。	120 分 120 分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2022年度小児看護学実習要項」に記載する。			
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭でフィードバックする。			
テ キ ス ト	小児看護学講義で使用したテキストおよび講義資料。その他、必要時別途提示する。			
参 考 図 書	パーフェクト臨床実習ガイド 小児看護 (照林社) 写真でわかる小児看護技術 (インターメディカ) こどもの病気の地図帳 (講談社)			
履修上の留意点	対象を理解するために、小児看護学の授業で学修した内容 (特に小児の成長・発達) について、復習をして実習に臨むこと。			
実務経験のある教員	箕浦 洋子 (看護師)、谷口 英雄 (看護師)			

授 業 科 目 名	母性看護学実習	英 文 科 目 名	Maternal Nursing Practicum	
担 当 教 員 名	松村 恵子、神谷 映里、尾筋 淑子 小笠原 百恵、永峰 啓子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	3 年 後 期 / 4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-11	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 臨地での実習を通して、母子の健康意義や健康増進に向けた看護の役割を認識し、マタニティサイクルにある対象および家族への援助を行うための基礎的実践能力を教授する。 [学修目標] 1. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にある対象の特徴を理解し、根拠に基づいた看護過程の展開ができる。 2. 母子やその家族とのかかわりを通して、家族や親子の絆について理解できる。 3. 生活者として母子およびその家族を捉え、健康保持や増進のために行う支援について、その根拠や基本的な支援方法を説明できる。 4. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○実習期間： 令和3年9月16日(金)～令和4年3月17日(金)のうち 2週間 ○実習施設:下記のいずれかで実習を行う。 済生会兵庫県病院、たなべ産婦人科、 兵庫県立淡路医療センター ほか *その他の事項および実習の詳細については、 別途配付する「2022年度母性看護学実習要項」による。		・講義資料や教科書を用いて、実習前に母性看護学Ⅰ～Ⅲで学んだ知識の復習を行う。 ・講義資料や教科書を用いて、実習記録・課題を行う。	各クール 1日あたり 2 時間
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	別途配布する「2022 年度母性看護学実習要項」に記載する。			
課題のフィード バックの 方 法	臨地での実習指導および実習記録の確認を行い、学修目標の達成状況を確認する。 提出された課題は適宜添削し、実習施設および学内講義室等で個別に指導する。			
テ キ ス ト	母性看護学のテキスト・講義資料、そのほか適宜紹介する。			
参 考 図 書	適宜紹介する。			
履修上の留意点	*実習期間と実習場所に注意する。 *提示される事前学習を行って実習に臨む。			
実務経験のある 教 員	松村 恵子（助産師）、神谷 映里（助産師）、尾筋 淑子（助産師） 小笠原 百恵（助産師）、永峰 啓子（助産師）			

授 業 科 目 名	精神看護学実習	英 文 科 目 名	Psychiatric Nursing Practicum	
担 当 教 員 名	小出水 寿英		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C-12	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 精神科医療・看護における生命の尊厳、基本的な権利など倫理的な理解を深める。また、セルフケア理論に基づき看護過程の展開を理解する。さらに、精神障害者が地域移行や地域生活を定着するために必要な事柄を理解する。 [学修目標] 1. 精神に障害を持つ対象者を全人的に理解し、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。 2. セルフケア理論に基づき、ケアプランを立案・実施・評価できる。 3. 地域で生活する精神障害者への継続看護、地域定着に必要な事柄を明確にできる。 4. 精神障害者のストレングスと今後の課題を明確にすることができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○ 実習期間:下記のいずれかで行なう。 令和4年9月～令和5年3月のうち2週間 ○ 実習施設:下記のいずれかで行う。 新淡路病院 淡路障害者生活支援センター さくらんぼの里 訪問看護ステーション心		精神看護学Ⅰ・精神看護学Ⅱ・精神看護学Ⅲで使用した教科書、及び参考図書・文献等、その他必要時別途提示された参考図書の該当箇所を通読し、実習課題を理解するために必要な内容をまとめ記述し理解する。	毎日 180 分
学修評価の方法 (成 績 割 合 %)	別途配布する「2022 年度精神看護学実習要項」に記載する。			
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭または文書にてフィードバックする。			
テ キ ス ト	精神看護学Ⅰ・精神看護学Ⅱ・精神看護学Ⅲで使用した教科書、及び参考図書、文献等。			
参 考 図 書	適宜紹介する。			
履修上の留意点	講義の復習、事前課題学習、実習中の課題の学習等、必ず実施して臨んでください。			
実務経験のある教員	小出水 寿英（看護師）			

授 業 科 目 名	課題実習	英 文 科 目 名	Subjective Practice	
担 当 教 員 名	小出水 寿英		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 前 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	2 単 位・90 時 間	授 業 形 態	実 習	
カリキュラム記号	C－12	D P 記 号	DP－3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 領域別看護学実習の経験を踏まえ、多様な看護の場における看護の機能・役割を理解し看護のジェネラリストとして看護学の全領域を統合した実践的基盤を養う。また、自らの看護を深め、新たな看護・医療の発展に寄与できる能力を培う。 [学修目標] 1. 多様な看護の場における看護の機能・役割を理解できる。 2. 看護の場の特性を理解し、自らの課題に基づいて看護を深めることができる。 3. 多様な場における対象・状況に応じた看護実践ができる。 4. 専門職として必要な倫理的態度で実習することができる。			
	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
実 習 計 画	○ 実習期間：下記のいずれかで行なう。 1. 実習（2週間） 4 年次 2023 年前期で 2 週間で行う。 ○ 実習施設：下記のいずれかで行う。 1. 老人保健医療福祉施設 特別養護老人ホーム あわじ荘 特別養護老人ホーム 栄光園 特別養護老人ホーム 聖隷カーネーション 特別養護老人ホーム ゆうらぎ 特別養護老人ホーム 千鳥会ゴールド 特別養護老人ホーム 淡路ふくろうの郷 介護老人保健施設 淡路白寿苑 介護老人保健施設 せんけい苑 地域密着型特別養護老人ホーム ほほえみ 2. 医療施設 姫路メディカルシュミレーションセンターひめアリア 3. 地域保健福祉施設 淡路市社会福祉協議会 順心会地域リハビリテーションセンター 4. 看護過程実習		各領域で使用した教科書、及び参考図書・文献等、その他必要時別途提示された参考図書の該当箇所を通読し、実習課題を理解するために必要な内容をまとめ記述し理解する。	毎日 60 分
学修評価の方法 (成績割合%)	別途配布する「2023 年度課題看護学実習要項」に記載する。			
課題のフィードバックの方法	実習期間内に評価指標に基づき個別面接を行い、口頭または文書にてフィードバックする。			
テ キ ス ト	各領域で使用した教科書、資料、文献、参考書等。			
参 考 図 書	適宜紹介する。			
履修上の留意点	履修に関しては、全領域の看護実習が終了しており、そのすべての単位認定が見込まれることを原則とする。			
実務経験のある教員	小出水 寿英、小平 京子、箕浦 洋子、谷口 英雄、松村 恵子、尾筋 淑子 神谷 映里、小笠原 百恵、伊木 智子、古川 秀敏、臼井 香苗、森花 美和子			

授 業 科 目 名	卒業研究	英 文 科 目 名	Graduation Research	
担 当 教 員 名	江川 隆子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 通 期	必 修 / 選 択	必 修	
単 位 数・時 間	4 単 位・60 時 間	授 業 形 態	演 習	
カリキュラム記号	B－43	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護実践に必要な知識を整理・再構築し、看護の対象となる「看護現象」について理解を深めると共に、研究論文をクリティカルに講読することを通し、看護研究の基本を身につける。 [学修目標] 1. 科学的看護実践に必要な知識を、グループワークを通して再整理できる。 2. 看護における「概念」を明確にすることの重要性が理解できる。 3. 興味・関心を抱く「臨床疑問」から「研究疑問」を明確にし、研究疑問の中核にある「看護現象」「看護概念」を抽出・選択できる。 4. 取り上げたい研究論文をクリティークし、さらに主要概念の概念分析ができる。 5. 看護系学会あるいは修士論文審査会に参加し、学会等の雰囲気を知る。 6. 以上を通し、看護研究の理解を深める。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
	これまで身につけた看護学の知識を整理し、看護実践に活用できるよう、ディスカッションを通し再構築する。 1. 国家試験問題を活用しながら知識の整理・再構築を行う。 2. 興味・関心を抱く「臨床疑問」から「看護現象」「看護概念」を抽出・選択する。 3. 興味のある看護現象を取り上げた論文を講読し、クリティークする。 4. 取り上げた概念および関連概念を抽出し、取り上げた概念との相違点を明確にする。 5. 取り上げた概念の属性を抽出する。 6. モデル例（典型例・相反例）を提示する。 7. 先行要件と結果を洗い出す。	これまでの授業や演習・実習を通して興味・関心を抱いた「看護現象」「看護概念」を明確にしておく。 関心を持った「看護現象」「看護概念」について、文献を検索し、講読しておく。 グループワークの前に、クリティーク・概念分析を実施してみる。		1時間 <

授 業 科 目 名	看護管理論	英 文 科 目 名	Nursing Management	
担 当 教 員 名	箕浦 洋子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 後期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－44	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 看護管理に必要な基本的概念を学び、看護管理過程に必要な知識を教授する。 [学修目標] 1. 看護管理の基本理念、基本的管理手法を理解することができる。 2. 看護をめぐる社会の動向、医療制度を理解することができる。 3. 看護ケアにおけるマネジメントを理解することができる。 4. 看護サービスにおけるマネジメントを理解することができる。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容	必要時間	
第 1 回	看護管理概論：マネジメントとは	【予習】 テキストの講義範囲を通読して、概要を把握する。 【復習】 テキスト及び配布された資料の内容等により、理解を深める。	30分	
第 2 回	医療制度の現状と課題			
第 3 回	組織マネジメント			
第 4 回	看護ケアマネジメント			
第 5 回	・看護職の機能、看護業務とは			
第 6 回	・看護提供方式と人材配置			
第 7 回	・患者の権利、チーム医療			
第 8 回	・安全管理			
第 9 回	看護サービスのマネジメント	30分		
第 10 回	・看護サービスとは、サービス評価			
第 11 回	・資源マネジメント（人材管理・人材育成）			
第 12 回	・資源マネジメント（情報管理、物品管理）			
学修評価の方法 (成績割合%)	レポート（80%）、グループ討議（20%）にて評価する。			
課題のフィード バックの方法	必要な学生に対しては口頭又は文章にて個別に対応する。			
テ キ ス ト	系統的看護学講座 看護の統合と実践【1】看護管理、医学書院			
参 考 図 書	ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践① 看護管理、メディカ出版			
履修上の留意点	既習してきた看護学を、管理の立場から探索する科目です。授業に積極的に取り組み、自分の考えをグループ討議で深めて行きましょう。			
実務経験のある 教 員	箕浦 洋子（看護師）			

授 業 科 目 名	保健医療福祉行政論Ⅱ	英 文 科 目 名	Administrative Health and Medical Welfare Ⅱ	
担 当 教 員 名	臼井 香苗		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 後 期	必 修 / 選 択	選択(看護師)/必修(保健師)	
単 位 数・時 間	1 単 位・15 時 間	授 業 形 態	講義・演習	
カリキュラム記号	A-2-21	D P 記 号	DP-3	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 地域診断論と公衆衛生看護学実習Ⅱを経て実施した地域診断をもとに、地区課題への対策とその評価の視点について検討することで、保健師業務における地区管理の考え方について理解する。また、グループ間でのプレゼンテーションとディスカッションを通して、それらの能力を獲得する。 一連のプロセスから、保健医療福祉行政に関する理解を深める。 [学修目標] 1. 地域課題への対策と評価の視点について学習する。 2. 地域診断論と公衆衛生看護学実習Ⅱにおいて抽出した健康課題への対策について、プリシード・プロシードモデルに基づきグループで分析・検討する。 3. 各実習地域での分析結果について、グループごとにプレゼンテーションとディスカッションを実施する。 4. 保健師が行う地区管理の視点を理解する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容		授業時間外(準備学修)の内容	必要時間
第 1 回 第 2～4 回 第 5・6 回 第 7 回 第 8 回	地域課題への対策と評価の考え方 グループワーク：実習地域における健康課題への対策と評価の検討 グループワーク：プレゼンテーション準備 プレゼンテーションとディスカッション：健康課題の対策と評価計画 まとめ		【予習】 教科書の該当箇所や参考書に目を通して概要を把握しておく。 【復習】 教科書や配布された資料の内容、授業中のノートをもとに理解を深める。	1～2時間 程度 1～2時間 程度
学修評価の方法 (成績割合%)	定期試験 (50%)、グループワーク・ディスカッション参加状況 (10%) グループ提出課題 (20%)、個人レポート (20%)			
課題のフィードバックの方法	口頭または文書にてフィードバックする。			
テ キ ス ト	最新保健学講座5「公衆衛生看護管理論」平野かよ子編(メヂカルフレンド社)第4版			
参 考 図 書	必要に応じて資料を配布する。			
履修上の留意点	地域看護診断論や公衆衛生看護学実習Ⅱでの学びをもとに、地域課題とその対策・評価の視点について検討し、グループでプレゼンテーションを行います。主体的にワークに参加するとともに、他グループとのディスカッションを通して積極的に学習してください。			
実務経験のある教員	臼井香苗 (保健師) 保健師の実務経験に基づき、臨地実習に必要な実践的知識・技術・態度を教育する。			

授 業 科 目 名	看護倫理	英 文 科 目 名	Nursing Ethics	
担 当 教 員 名	箕浦 洋子		実 務 経 験	有
履 修 年 次	4 年 後期	必 修 / 選 択	選 択	
単 位 数・時 間	1 単位・15 時間	授 業 形 態	講 義	
カリキュラム記号	B－45	D P 記 号	DP-2	
授 業 の 概 要 学 修 目 標	[授業の概要] 高度化する医療と多様な価値観が存在する社会の現状を理解し、看護職としての倫理観の確立に向けて看護倫理の概念を教授する。また、看護職が陥りやすい倫理的ジレンマについて、事例をもとに具体的に考えることで、倫理観の醸成を図る。 [学修目標] 1. 看護倫理の基本的な概念について理解する。 2. 看護職が陥りやすい倫理的ジレンマについて、事例に基づきながら倫理的問題を検討する。			
授 業 回 数	授 業 の 内 容	授業時間外(準備学修)の内容		必要時間
第 1 回	看護倫理の基礎：看護倫理が求められる社会背景と看護倫理の必要性	【予習】 テキストの講義範囲を通読して、概要を把握する。		30分
第 2 回	看護倫理のアプローチ			
第 3 回	倫理的意志決定のステップ ・ 4分割法の活用			
第 4 回	看護職が直面する倫理的問題とその考え方 ・ インフォームド・コンセント ・ 個人情報保護			
第 5 回	看護職が直面する倫理的問題とその考え方 ・ 意志決定支援と倫理	【復習】 テキスト及び配布された資料の内容等により、理解を深める。		30分
第 6 回	看護職が直面する倫理的問題とその考え方 ・ 意思決定支援と倫理			
第 7 回	看護職が直面する倫理的問題とその考え方 ・ 安全対応と倫理			
第 8 回	看護職が直面する倫理的問題とその考え方 ・ 臓器移植医療・再生医療・生殖医療と倫理			
学修評価の方法 (成績割合%)	レポート（80%）、グループ討議（20%）にて評価する。			
課題のフィードバックの方法	口頭または文書にてフィードバックする。			
テ キ ス ト	系統的看護学講座 別巻 看護倫理 第2版、医学書院			
参 考 図 書	看護学テキスト NiCE 看護倫理 改訂第3版、南江堂			
履修上の留意点	より今日的な倫理的問題を取り上げ、さまざまな観点から考えられる授業です。実習で経験したことなどをふり振り返りながら、改めて看護倫理について考える機会となるように、具体的な事例を議論しながら進めていきます。			
実務経験のある教員	箕浦 洋子（看護師）			

